Cisco UCS Director アドミニストレーション ガイド、リリース 4.1

初版：2013 年 12 月 16 日

最終更新：2014 年 04 月 08 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

Text Part Number: OL-30729-02-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。 マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2013-2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに xiii

対象読者 xiii

表記法 xiii

マニュアルに関するフィードバック xv

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xv

このリリースの新規情報および変更情報 1

このリリースの新規情報および変更情報 1

概要 5

Cisco UCS Director について 5

機能と利点 6

物理的および仮想的な管理機能 8

モデルベースのオーケストレーション 9

最初のログイン 9

推奨されるシステム設定順序 10

ユーザとグループの管理 13

ユーザ タイプの管理 13

ユーザ タイプ 13

デフォルトのユーザ権限 14

すべてのポリシー管理者 14

課金管理者 16

コンピューティング管理者 18

グループ管理者 21

IS 管理者 23

ネットワーク管理者 25

オペレータ 27

サービス エンドユーザ 29

ストレージ管理者 31
ユーザの役割および権限 33
グループの管理 38
グループまたはお客様の組織の作成 38
パスワード ポリシー 39
パスワード ポリシーの作成 39
グループの予算ポリシー 40
グループの予算ポリシーの表示と編集 40
リソース制限 41
リソース制限の表示 41
リソース制限の編集 42
管理者プロファイルの設定 44
管理者プロファイルの作成 44
管理者パスワードの変更 45
ユーザの追加 45
現在のオンライン ユーザの表示 46
ユーザ アクセス プロファイルの管理 47
マルチロールのアクセス プロファイル 47
ユーザ アクセス プロファイルの作成 47
ユーザ アクセス プロファイルの編集 48
ユーザ アクセス プロファイルの削除 49
プロファイルへのログイン 49
プロファイルの削除 49
デフォルトのプロファイルの変更 50
認証と LDAP 統合 50
認証の環境設定の設定 51
LDAP 統合 52
LDAP 統合のルールと制限事項 53
LDAP 統合の管理 54
LDAP 同期システム タスクの実行 55
シングル サインオン 56
シングル サインオンの有効化 56

グループとお客様の組織のブランディング 56
ログイン ページのブランディング 58
カスタム ドメイン ロゴの設定 58
システム管理設定の管理 61
送信メール サーバの設定 61
電子メール テンプレートの使用 62
電子メール テンプレートのカスタマイズ 63
システム パラメータの設定（オプション） 65
システム パラメータの設定 65
インフラストラクチャ システム パラメータの設定（オプション） 67
ライセンスの更新 67
ライセンス使用状況の確認 68
ライセンス使用状況履歴の表示 68
リソース使用率のデータの表示 69
アプリケーション カテゴリの編集 69
ポータルのカスタマイズ 70
ログイン ページとバックグラウンド イメージのカスタマイズ 70
アプリケーション ロゴのカスタマイズ 71
ファビコンのカスタマイズ 71
アプリケーション ヘッダーのカスタマイズ 72
日付表示のカスタマイズ 73
カラー テーマのカスタマイズ 73
ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ 74
レポートのカスタマイズ 74
詳細な制御 74
詳細な制御の有効化 75
ユーザ メニュー 76
ユーザ メニューの設定 77
ユーザ権限の設定 77
システム タスクの管理 77
ノード プールの作成 78
システム タスク ポリシーの作成 78

ノード プールのシステム ポリシー タスクへの割り当て 79
サービス ノードの作成 80
システム ポリシーのシステム タスクへの割り当て 81
システム タスクの実行 82
システム タスクの無効化 82
アイコンの管理 82
アイコンの追加 83
アイコンの編集 84
アイコンの削除 84
アイコンのプレビュー 85
サポート情報 85
サポート情報の表示 85
システム情報の表示 85
ログの表示 86
ログのダウンロード 86
デバッグ ログの開始 86
統合設定の管理 87
構成管理データベースの統合 87
CMBD 統合の設定 87
計測データのエクスポート 88
計測データのエクスポートの設定 89
レコードの変更 89
レコードの変更の表示 89
システムログ 89
システムログの設定 89
ストレージと OVF のアップロード 90
多言語のサポート 91
物理インフラストラクチャの管理 93
物理インフラストラクチャの管理について 93
サイトの追加 94
Pod の追加 94
物理アカウントの追加 96

マルチドメイン マネージャ アカウントの追加 98
ネットワーク機器の追加 99
DHCP ロギングの有効化 100
接続のテスト 100
管理するネットワーク機器の接続のテスト 101
物理アカウントへの接続のテスト 101
デバイス検出の有効化 102
仮想インフラストラクチャの管理 103
WMware の管理について 103
クラウドの作成 103
PowerShell エージェント インストーラのダウンロード 105
PowerShell エージェントの作成 105
クラウドの検出と接続の検証 106
接続のテスト 106
vCenter プラグインの表示 107
ポリシーの管理 109
ポリシー 109
コンピューティング ポリシー 110
コンピューティング ポリシーの作成 110
データ コレクション ポリシー 113
仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定 114
仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの関連付け 115
ストレージ ポリシー 115
複数の VM ディスクのストレージ ポリシー 115
ストレージ ポリシーの追加と設定 116
仮想ストレージのカタログ 118
仮想ストレージのカタログの設定 118
ネットワーク ポリシー 119
静的 IP プール ポリシーの追加 120
ネットワーク ポリシーの追加 121
ネットワーク プロビジョニング ポリシー 123
ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定 123

VLAN プール ポリシー 125
VLAN プール ポリシーの設定 126
システム ポリシー 126
システム ポリシーの設定 126
OS ライセンス 130
OS ライセンスの追加 130
仮想データセンターの管理 131
仮想データセンターの管理について 131
VDC アクション 132
仮想データセンターの追加 132
仮想データセンターの表示 134
仮想データセンターの編集 135
仮想データセンターの削除 137
仮想データセンターのクローニング 138
仮想データセンターのアプリケーション カテゴリの管理 140
仮想データセンター サービス プロファイル 141
仮想データセンター サービス プロファイルの追加 141
カタログの管理 145
カタログの管理について 145
カタログのパブリッシング 146
詳細カタログのパブリッシングについて 151
詳細カタログのパブリッシング 151
カタログの表示 152
カタログの編集 153
カタログの削除 158
カタログのクローニング 158
導入のためのホストへのアクセス 159
Self-Service のプロビジョニングの使用方法 161
Self-Service のプロビジョニングについて 161
サービス リクエストについて 161
標準カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成 162
詳細カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成 166

サービス リクエスト ワークフローと詳細 167
サービス リクエスト ワークフロー 167
サービス リクエストの詳細 167
サービス リクエストのワークフローのステータスの表示 169
サービス リクエストのログの詳細の表示 170
サービス リクエストのスケジュール設定について 170
サービス リクエストのスケジュール設定 170
サービス リクエストの再送信について 171
サービス リクエストの再送信 171
その他のサービス リクエスト機能 172
サービス リクエストのキャンセル 172
サービス リクエストのロールバック 172
特定グループのサービス リクエストの表示 173
グループのサービス リクエスト履歴の検索 173
グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート 173
アーカイブ済みのサービス リクエストの再有効化 174
サービス リクエストの承認プロセス 174
サービス リクエストの承認 175
サービス リクエストの却下 175
サービス リクエストの承認履歴の表示 175
サービス リクエストの承認履歴の検索 176
サービス リクエストの承認履歴のエクスポート 176
サービス リクエストの予算 177
今月の利用可能な予算 177
予算エントリの表示 177
予算エントリの追加 177
予算エントリの編集 178
予算エントリの削除 179
マルチディスク VM プロビジョニング 181
マルチディスク VM プロビジョニングについて 181
マルチディスク VM プロビジョニングのワークフロー 182
マルチディスクに対応したテンプレートについて 182

ディスク カテゴリの割り当て 182
ストレージ ポリシーの定義 183
ストレージ ポリシーの作成 183
カタログの作成 186
カタログの追加 186
VM ディスクの作成 191
チャージバック モジュールの使用方法 195
チャージバック機能について 195
予算ポリシー 196
予算ポリシーの設定 196
コスト モデル 197
コスト モデルの作成 197
VDC の変更によるコスト モデルの組み込み 200
VDC へのコスト モデルの追加 200
VDC の編集によるコスト モデルの組み込み 202
パッケージベースのコスト モデル 203
パッケージベースのコスト モデルの作成 204
ストレージ階層のコスト モデル 205
階層へのコストの割り当て 206
階層へのデータストアの割り当てについて 206
階層へのデータストアの割り当て 206
チャージバック レポート 207
今月のサマリーの表示 208
前月のサマリーの表示 208
月次リソース アカウンティング情報の表示 209
VM レベルのリソース アカウンティングの詳細の表示 209
VM レベルのチャージバックの詳細の表示 209
月次リソース アカウンティングの詳細のエクスポート 210
VM レベルのリソース アカウンティングの詳細のエクスポート 210
VM レベルのチャージバックの詳細のエクスポート 210
レコードの変更について 211
レコードの変更へのアクセス 211

チャージバックの計算 211
システム モニタリングとレポート 215
ダッシュボード 215
ダッシュボードの有効化 215
レポートのウィジェットの追加 216
ウィジェット データの更新 216
要約 216
仮想マシン、クラウドおよびシステムのサマリー情報の表示 217
サマリー レポート ウィジェットのカスタマイズ 217
インベントリ管理 217
システム インベントリの詳細へのアクセス 218
リソース プール 218
リソースの詳細へのアクセス 218
クラスタ 218
クラスタへのアクセス 219
イメージ 219
イメージへのアクセス 219
ホスト ノード 219
ホスト ノードへのアクセス 220
仮想マシン（VM） 220
VM へのアクセス 220
グループ レベルの VM へのアクセス 220
トポロジ 221
トポロジ タイプへのアクセス 221
アセスメント 221
アセスメントへのアクセス 222
レポート 222
レポートへのアクセス 222
ライフサイクルの管理 225
VM の電源設定の管理 225
VM のサイズ変更 226
VM のスナップショットの管理 227

VM のスナップショットの作成 227
スナップショットへの復帰 229
ゴールデン スナップショットのマーキング 229
スナップショットの削除 230
すべてのスナップショットの削除 230
仮想マシンのリース時間の設定 231
VM アクションの管理 231
VM の詳細の表示 232
スタック ビューの使用方法 233
VM の削除 233
VM ディスクの作成 234
VM ディスクの削除 235
vNIC の追加 235
vNIC の置き換え 237
vNIC の削除 238
VM クライアントの起動 239
VM 上での VNC コンソールの有効化 239
VM の VNC コンソール ウィンドウへのアクセス 240
VM の割り当て 240
VM クレデンシャル 242
VM クレデンシャルの表示 242
VM のインベントリ収集リクエストの使用方法 242
VNC 接続のテスト 243
VM のクローニング 243
VM の VDC への移動 248
VM の再同期 248
CloudSense 分析の管理 251
CloudSense 分析について 251
レポートの生成 252
アセスメントの生成 252
付録 253
ESX サーバでの VNC コンソールの設定 253

はじめに

ここでは、次の項について説明します。

- 対象読者，xiii ページ
- 表記法，xiii ページ
- マニュアルに関するフィードバック，xv ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート，xv ページ

対象読者

このガイドは、Cisco UCS Director または Cisco UCS Director Express（あるいはその両方）を使用し、次の 1 つ以上の責務と専門知識を持つデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

表記法

テキストのタイプ	用途
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI 要素] のように示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、[メイン タイトル] のように示しています。

テキストのタイプ	用途
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*italic*）で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、`courier` フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、`courier` フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体（**bold**）で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注） 「注釈」です。 役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。 ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

注意 「要注意」の意味です。 機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ワンポイント アドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。 ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告 安全上の重要事項

「危険」の意味です。 人身事故を予防するための注意事項が記述されています。 機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。 警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。

これらの注意事項を保存しておいてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。mailto:ucs-director-docfeedback@cisco.com ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。 RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

第 1 章

このリリースの新規情報および変更情報

この章の内容は、次のとおりです。

- このリリースの新規情報および変更情報, 1 ページ

このリリースの新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースに関するマニュアルでの主な変更点の概要を示したものです。 この表は、このマニュアルに加えられたすべての変更点やこのリリースのすべての新機能を網羅しているわけではありません。

表 *1*：*Cisco UCS Director*、リリース *4.1.0.3* の新機能および動作変更

機能	説明	参照先
OpenLDAP のサポート	Cisco UCS Director では、Active Directory に加え、OpenLDAP もサポートされるようになりました。	認証の環境設定の設定, （51 ページ）
電子メール テンプレート	電子メール通知の内容を変更できます。	電子メールテンプレートの使用, （62 ページ）
VMの注記	VMに関する注釈を指定できます。	システム ポリシーの設定, （126 ページ）
リンク クローン設定のサポート	VM のクローニング中に、リンク クローンを指定できます。	VM のクローニング, （243 ページ）

表 *2*：*Cisco UCS Director*、リリース *4.1* の新機能および動作変更

機能	説明	参照先
詳細な制御	次の機能が追加されました。 • UCS Director 拡張性導入モデルでは、システム タスクのリモート処理を使用して、システム タスクをリモート実行できます。 • Cisco UCS Director でサービス プロバイダーを有効にできます。	詳細な制御, （74 ページ）
チャージバック機能	Cisco UCS Director のチャージバック機能がいくつか変更されました。	チャージバック モジュールの使用方法, （195 ページ）
CloudSense 分析	新しいレポートが追加され、既存のいくつかは削除されました。	CloudSense 分析について, （251 ページ）
インフラストラクチャ システム パラメータ	インフラストラクチャ システム パラメータが変更されました。	システム パラメータの設定, （65 ページ）
インベントリ管理	ダッシュボードを使用して、システム インベントリをモニタできます。 物理インフラストラクチャへのすべての変更は、ダッシュボードに反映されます。 ダッシュボードには、管理作業のための、全体的なシステム レベルのインフラストラクチャ情報が表示されます。	インベントリ管理, （217 ページ）
ライセンス使用状況履歴	ネットワーク リソースの利用状況を把握するために、ライセンス済みのネットワーク コントローラとストレージ コントローラ、サーバ、サーバとデスクトップの VM、および Small Pod と Medium Pod の数を経時的にトラッキングできます。	ライセンス使用状況履歴の表示, （68 ページ）

機能	説明	参照先
マルチドメイン マネージャ アカウント	Cisco UCS Director リリース v4.1 では、マルチドメインがサポートされています。 新しく作成された物理アカウント用にマルチドメイン マネージャ アカウントを作成できます。	マルチドメインマネージャアカウントの追加, （98 ページ）
マルチディスク VM プロビジョニング	Cisco UCS Director リリース v4.1 では、テンプレートに基づくマルチディスク VM プロビジョニングがサポートされています。	マルチディスク VM プロビジョニング, （181 ページ）
ネットワーク ポリシー	ネットワーク ポリシーの情報が変更されました。	ポリシーの管理, （109 ページ）
物理インフラストラクチャ	物理インフラストラクチャに関する章が追加されました。 Cisco UCS Director では、新しく作成された物理アカウントのすべてのコンポーネントを検出します。	物理インフラストラクチャの管理, （93 ページ）
Self-Service のプロビジョニング	VM に対して Self-Service のプロビジョニングを行う方法がいくつか変更されました。	Self-Service のプロビジョニングの使用方法, （161 ページ）
サイト管理	新しく作成された物理アカウント用にサイトを作成できます。	サイトの追加, （94 ページ）
システムのタスク	データ収集などのシステム タスクの処理は、VM サービス ノードに委任できます。	システム タスクの管理, （77 ページ）
UCS Director ライセンスの更新	製品認証キー（PAK）を使用してライセンスを更新します。	ライセンスの更新, （67 ページ）
仮想マシン（VM）のリース時間	選択した VM のリースの失効時間をユーザが設定できます。	仮想マシンのリース時間の設定, （231 ページ）

機能	説明	参照先
VM タスク	次の VM タスクが追加されました。 • VNC のテスト：トラブルシューティングの目的で、VNC の接続をテストできます。 • クローン：既存の VM のクローン、つまりコピーを作成して、同一または同様の品質の新しい VM を作成できます。 • VM の VDC への移動：VDC システム ポリシーのルールが VM で適用されるように、VM を VDC に移動できます。 • VM 再同期：VM の時間が UCS Director と定期的に再同期される間隔を分単位で設定できます。	VM アクションの管理, （231 ページ）

第 2 章

概要

この章は、次の内容で構成されています。

- Cisco UCS Director について，5 ページ
- 最初のログイン，9 ページ
- 推奨されるシステム設定順序，10 ページ

Cisco UCS Director について

Cisco UCS Director（旧称 Cisco Cloupia Unified Infrastructure Controller）は、次の標準的なテンプレートを使用する 64 ビットのアプライアンスです。

- Open Virtualization Format（OVF）for VMware vSphere
- Virtual Hard Disk（VHD）for Microsoft Hyper-V

Cisco UCS Director は、Cisco UCS および Cisco Nexus プラットフォームに基づく業界をリードする統合インフラストラクチャ ソリューションに、セキュリティで高度に保護された統合管理機能を提供します。

Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じて、コンピューティング階層とネットワーク階層の統合性を拡張して、データセンターの管理者に包括的な視認性と管理能力を提供します。 この製品は、Cisco UCS および Cisco Nexus プラットフォームに基づいて、NetApp FlexPod、ExpressPod、EMC VSPEX、および VCE Vblock システムをサポートします。

Cisco UCS Director は物理的、仮想的、ベアメタル型の環境にわたって、リソース プールのプロビジョニングを自動化します。 この製品は、正常性、ステータス、リソース使用率に関して、ネイティブな自動化されたモニタリング機能を提供します。 たとえば、Cisco UCS Director を使用して次の操作を実行できます。

- すべてのサーバおよびアプリケーションを対象に、サービス プロファイルとテンプレートを作成、複製、および導入すること

- 全データセンターを対象として、仮想マシン（VM）の使用率を示すヒート マップを表示するなど、統合インフラストラクチャで組織の使用率、傾向、容量を継続的にモニタすること
- 作業者ごとにばらつきのない方法で ExpressPod および FlexPod インフラストラクチャの導入や容量の増設を行うこと
- Cisco UCS ドメインとそのコンポーネントを対象として、管理、モニタリング、報告を行うこと
- 物理的なインフラストラクチャ サービスを含むように、仮想サービス カタログを拡張すること
- 仮想化された作業負荷と仮想化されていない作業負荷の両方に対応するために、セキュリティで保護されたマルチテナント環境を管理すること

機能と利点

Cisco UCS Director の機能と利点を以下に示します。

機能	利点
中央管理	• 管理者に物理、仮想、ベアメタル環境全体のシステムをモニタリング、プロビジョニング、管理する単一インターフェイスを提供 • 統合型ダッシュボード、レポート、ヒート マップを提供し、トラブルシューティングとパフォーマンスのボトルネックを削減
セルフサービス カタログ	• エンドユーザが IT の規定したポリシーやガバナンスに沿って、新しいインフラストラクチャ インスタンスの発注および導入が可能
適応型のプロビジョニング	• リアルタイムで利用可能なキャパシティ、内部ポリシー、アプリケーション ワークロード要件を使用して、適切なリソースを利用できるように最適化
動的な容量管理	• 継続的なモニタリングにより、リアルタイムでインフラストラクチャ使用率を示し、キャパシティ プランニングと管理を改善 • 使用率の低いリソースや使用率の高いリソースを特定
複数のハイパーバイザのサポート	• VMware ESX、Microsoft Hyper-V、Red Hat の各ハイパーバイザをサポート

機能	利点
コンピューティングの管理	• 物理、仮想、ベアメタルの各サーバおよびブレードをモニタリング、管理、プロビジョニング • エンド ユーザがスナップショットを通じて仮想マシンのライフサイクル管理とビジネス継続性を実現可能 • 管理者にサーバ使用率のトレンド分析を提供
ネットワーク管理	• 物理スイッチ、仮想スイッチ、動的ネットワーク トポロジをポリシーベースでプロビジョニング • 管理者が VLAN、仮想ネットワーク インターフェイス カード（vNIC）、ポート グループ、ポート プロファイル、IP および動的ホスト制御プロトコル （DHCP）割り当て、アクセス コントロール リスト（ACL）を、複数のネットワーク デバイスにわたって設定可能
ストレージの管理	• ファイラ、仮想ファイラ（vFiler）、論理ユニット番号（LUN）、ボリュームをポリシーベースでプロビジョニングおよび管理可能 • 統合ダッシュボードにより、管理者が組織的な使用状況、トレンド、キャパシティ分析の詳細を包括的に可視性可能
Cisco CloudGenie	• Apple の iPad と iPhone、および Android デバイスによるモバイル管理を提供 • モバイル セルフサービス プロビジョニング、仮想マシン管理、および管理ダッシュボードの表示をサポート

物理的および仮想的な管理機能

物理サーバの管理	仮想コンピューティング管理
• 設定と変更の検出および収集 • 物理サーバのモニタリングと管理 • ポリシーベースでのサーバ プロビジョニングの実行 • ブレードの電力管理 • サーバ ライフサイクルの管理 • サーバの使用傾向と容量分析の実行 • Preboot eXecution Environment（PXE）ブート管理機能を使用したベアメタル プロビジョニングの実行	• 仮想コンピューティング環境の検出、収集、モニタリング • ポリシーベースでのプロビジョニングと動的リソース割り当ての実行 • ホストサーバの負荷と電力の管理 • VM ライフサイクルとスナップショットの管理 • VM の容量とスプロール、ホストの使用率を評価するための分析の実行
物理ストレージの管理	**仮想ストレージの管理**
• ストレージ ファイラの検出、収集、モニタリング • ポリシーベースでの vFiler プロビジョニングの実行 • ボリュームのプロビジョニングとマッピング • 論理ユニット番号（LUN）と iGroup インスタンスの作成とマッピング • SAN ゾーン管理の実行 • Network-Attached Storage（NAS）および SAN ベースのストレージのモニタリングと管理 • ストレージ実装のベスト プラクティスと推奨事項	• vFiler のストレージおよびストレージ プールの検出、収集、モニタリング • シックおよびシン クライアントを対象としたポリシーベースでのストレージ プロビジョニングの実行 • 新しいデータ ストアの作成と Virtual Device Contexts（VDC）へのマッピング • VM へのディスクの追加とサイズ調整 • 組織でのストレージ使用率のモニタリングと管理 • 仮想ストレージの傾向と容量分析の実行

物理ネットワークの管理	仮想ネットワークの管理
• 物理ネットワーク要素の検出、収集、モニタリング • 複数のスイッチ間のプロビジョニング VLAN • ネットワーク デバイスに対するアクセス コントロール リスト（ACL）の設定 • ストレージ ネットワークの設定 • 動的ネットワーク トポロジの実装	• VM へのネットワークの追加 • IP および DHCP 割り当てによるポリシーベースでのプロビジョニングの実行 • VLAN およびプライベート VLAN に対する仮想ネットワーク インターフェイス カード（vNIC）の設定と接続 • VM のためのポート グループとポート プロファイルの作成 • 組織での仮想ネットワークの使用率のモニタリング

モデルベースのオーケストレーション

Cisco UCS Director には、400 を超えるタスクが含まれるタスク ライブラリや設定済みワークフローなどが含まれます。 モデルベースのオーケストレーションとワークフローデザイナを利用すると、インフラストラクチャの管理タスクと運用タスクをカスタマイズおよび自動化できます。また、個々の必要性に対応して、システムの拡張とカスタマイズを進められます。

次の表に、3 日間で行うタスク ライブラリのメンテナンス アクティビティとアップデート アクティビティを示します。

1 日目	2 日目	3 日目
• テナントの追加 • 申請者の移行または追加 • エンタープライズ システムとの統合 • セルフサービス ポータルの使用	• パフォーマンスのモニタリング • 会議と課金の開始 • テナントの変更管理 • セルフサービス型 Infrastructure as a Service（IaaS）	• ハードウェアの追加とアップグレード • 用途変更

最初のログイン

ホスト名と IP アドレスのいずれかと次のクレデンシャルを使用して、Cisco UCS Director にログインします。

- ユーザ名：admin
- パスワード：admin

（注） 最初の管理アカウントを作成した後、起動時の管理アカウントを削除するか、少なくともデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。 Self-Service Portal にアクセスするには、有効な電子メール アドレスが必要です。

推奨されるシステム設定順序

次の表に、推奨されるシステム設定の順序を示します。

名前	章	説明
初期設定	2、3、4	ライセンスの適用、管理者プロファイルの設定、およびグループとユーザの作成の方法について説明します。 また、言語サポートにアクセスする方法、ポータルのカスタマイズを適用する方法、およびシステム設定について説明します。
物理インフラストラクチャ		任意によるポッドと物理アカウントの追加方法、ネットワーク機器の追加方法、接続をテストする方法、およびアカウント検出を検証する方法について説明します。 （注） 必要に応じて、物理インフラストラクチャの前に仮想インフラストラクチャを作成できます。
仮想インフラストラクチャ	5	クラウドの作成、クラウドの検出と接続の検証、接続のテスト、および vCenter プラグインの表示の方法について説明します。
ポリシー	6	コンピューティング ポリシー、ストレージ ポリシー、ネットワーク ポリシー、およびシステム ポリシーを作成して管理する方法について説明します。 また、Microsoft Windows カタログ用の OS ライセンスを追加する方法について説明します。
仮想データセンター	7	VDC を設定してグループ、ポリシー、およびコスト モデルに固有の環境を管理する方法、 およびリソース制限を VDC レベルで設定して管理する方法について説明します。
カタログ	8	カタログ項目の設定、グループにカタログへのアクセス権の付与、およびカタログ項目のパブリッシュの方法について説明します。
Self-Service のプロビジョニング	9	プロビジョニング サービス リクエストの作成および管理方法について説明します。
マルチディスク プロビジョニング	10	選択した単一のデータストアまたは複数のデータストアに対する VM ディスク プロビジョニングを設定する方法について説明しま

名前	章	説明
		す。 また、テンプレートで追加ディスクごとに個別のディスク ポリシーを設定する方法について説明します。
チャージバック	11	チャージバック サマリー レポート、詳細レポート、およびリソースアカウンティング レポートを作成する方法について説明します。部門および組織内でコストモデルを定義してポリシーに割り当てる方法についても説明します。
クラウド管理	12	クラウドの完全な可視性の実現、リソース利用状況のモニタ、およびクラウド スタック（クラウド、クラスタ、ホスト サーバ、および仮想マシン）の管理の方法について説明します。
ライフサイクル	13	VM 電力管理、VM サイズ変更、VM スナップショット管理など、プロビジョニング後のライフサイクル管理アクションをVMに対して実行する方法について説明します。
CloudSense	14	基盤となる物理インフラストラクチャおよび仮想インフラストラクチャについて Cisco UCS Director で生成可能な分析レポートについて説明します。
マクロ	15	アプリケーションで提供される変数をマクロ機能で使用して、VM 名および VM ホスト名をカスタマイズする方法について説明します。

第 3 章

ユーザとグループの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- ユーザ タイプの管理，13 ページ
- ユーザ タイプ，13 ページ
- デフォルトのユーザ権限，14 ページ
- グループの管理，38 ページ
- 管理者プロファイルの設定，44 ページ
- ユーザ アクセス プロファイルの管理，47 ページ
- グループとお客様の組織のブランディング，56 ページ
- ログイン ページのブランディング，58 ページ

ユーザ タイプの管理

システム管理者は、ユーザの追加、ユーザおよびユーザの権限の表示、各種システム コンポーネントに対する個々のユーザの読み取り/書き込み権限の変更など、Cisco UCS Director の管理に必要なすべての権限を持っています。

一方、大半のユーザは、このガイドで説明する管理ポータルにログインして閲覧および使用するだけです。

ユーザ タイプ

Cisco UCS Director は次のユーザ タイプをサポートしています。

- すべてのポリシー管理者
- 課金管理者

- コンピューティング管理者
- グループ管理者：ユーザを追加する権限が付与されたエンドユーザ。 このユーザはSelf-Service Portal を使用できます。
- IS 管理者
- ネットワーク管理者
- オペレータ
- サービス エンドユーザ：このユーザは Self-Service Portal の閲覧と使用のみ実行できます。
- ストレージ管理者
- システム管理者

デフォルトのユーザ権限

各管理ユーザには、Cisco UCS Director にアクセスするための一連の権限が付与されています。ユーザ権限のタイプは次のとおりです。

- 読み取り：読み取り権限が付与されている管理ユーザは、ファイルの読み取りのみを実行できます。
- 書き込み：書き込み権限が付与されている管理ユーザは、ファイルの読み取り、書き込み、および変更を実行できます。 この権限では、ファイルの変更、削除、または名前の変更を実行できます。
- 読み取り/書き込み：読み取り/書き込み権限が付与されている管理ユーザは、ファイルの読み取りおよび書き込みを実行できます。

すべてのポリシー管理者

次の表に、すべてのポリシー管理者が実行可能な操作のリストを示します。

操作	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	Yes	No
VM ラベル	No	Yes
VM の VDC への割り当て	No	Yes
仮想ストレージ	Yes	No
仮想ネットワーク	Yes	No

操作	権限	
物理コンピューティング	Yes	Yes
物理ストレージ	Yes	Yes
物理ネットワーク	Yes	Yes
グループ サービス リクエスト	No	No
承認者サービス リクエスト	No	No
予算	Yes	No
リソース アカウンティング	Yes	No
チャージバック	Yes	No
システム管理者	Yes	No
ユーザとグループ	Yes	No
仮想アカウント	Yes	No
カタログ	Yes	No
VDC	Yes	No
コンピューティング ポリシー	No	Yes
ストレージ ポリシー	No	Yes
ネットワーク ポリシー	No	Yes
導入ポリシー	No	Yes
SLA ポリシー	No	Yes
リソース制限レポート	No	Yes
グループ ユーザ	Yes	No
CloudSense レポート	Yes	No

操作	権限	
CloudSense アセスメントレポート	Yes	No
オーケストレーション	Yes	No
検出	Yes	No
MSP	No	Yes
自動化モジュールを開く	No	No
グループ ユーザ	No	No
CS 共有レポート	No	No
CS 共有アセスメント	No	No
リモート VM アクセス	No	No
モバイル アクセス設定	No	No
エンドユーザ チャージバック	No	No
リソース アカウンティングの書き込み	No	No
チャージバックの書き込み	No	Yes
UCSD クラスタ	No	No

課金管理者

次の表に、課金管理者が実行可能な操作のリストを示します。

操作	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		
VM ラベル		
VM の VDC への割り当て		

操作	権限	
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ		
物理ネットワーク		
グループ サービス リクエスト	Yes	
承認者サービス リクエスト		
予算	Yes	Yes
リソース アカウンティング	Yes	
チャージバック	Yes	
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ		
VDC		
コンピューティング ポリシー		
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート	Yes	

操作	権限	
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	Yes	Yes
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出	Yes	
MSP	Yes	Yes
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有アセスメント		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンドユーザ チャージバック		
リソース アカウンティングの書き込み		Yes
チャージバックの書き込み		Yes
UCSD クラスタ		

コンピューティング管理者

次の表に、コンピューティング管理者が実行可能な操作のリストを示します。

操作	権限	
	読み取り	書き込み

操作	権限	
仮想コンピューティング	Yes	No
VM ラベル	No	Yes
VM の VDC への割り当て	No	No
仮想ストレージ	Yes	No
仮想ネットワーク	Yes	No
物理コンピューティング	Yes	Yes
物理ストレージ	Yes	No
物理ネットワーク	Yes	No
グループ サービス リクエスト	Yes	No
承認者サービス リクエスト	Yes	Yes
予算	Yes	No
リソース アカウンティング	Yes	No
チャージバック	Yes	No
システム管理者	Yes	No
ユーザとグループ	Yes	No
仮想アカウント	Yes	No
カタログ	Yes	No
VDC	Yes	No
コンピューティング ポリシー	Yes	Yes

操作	権限	
ストレージ ポリシー	Yes	No
ネットワーク ポリシー	Yes	No
導入ポリシー	Yes	No
SLA ポリシー	Yes	No
リソース制限レポート	Yes	No
グループ ユーザ	Yes	No
CloudSense レポート	Yes	No
CloudSense アセスメント レポート	Yes	No
オーケストレーション	Yes	No
検出	Yes	No
MSP	Yes	Yes
自動化モジュールを開く	No	No
グループ ユーザ	No	No
CS 共有レポート	No	No
CS 共有アセスメント	No	No
リモート VM アクセス	No	No
モバイル アクセス設定	No	No
エンドユーザ チャージバック	No	No

操作	権限	
リソース アカウンティングの書き込み	No	No
チャージバックの書き込み	No	No
UCSD クラスタ	No	No

グループ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		Yes
VM ラベル		Yes
VM の VDC への割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ	Yes	Yes
物理ネットワーク		
グループ サービス リクエスト	Yes	Yes
承認者サービス リクエスト	Yes	Yes
予算		
リソース アカウンティング		
チャージバック		

タスク	権限	
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ	Yes	
VDC	Yes	
コンピューティング ポリシー	Yes	Yes
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート		
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	Yes	
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート	Yes	Yes
CS 共有アセスメント	Yes	Yes
リモート VM アクセス		

タスク	権限	
モバイル アクセス設定		
エンドユーザ チャージバック	Yes	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

IS 管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	Yes	No
VM ラベル	No	Yes
VM の VDC への割り当て	No	Yes
仮想ストレージ	Yes	No
仮想ネットワーク	Yes	No
物理コンピューティング	Yes	No
物理ストレージ	Yes	No
物理ネットワーク	Yes	No
グループ サービス リクエスト	Yes	No
承認者サービスリクエスト	No	No
予算	Yes	No
リソースアカウンティング	Yes	No

タスク	権限	
チャージバック	Yes	No
システム管理者	Yes	No
ユーザとグループ	Yes	No
仮想アカウント	Yes	No
カタログ	Yes	Yes
VDC	Yes	Yes
コンピューティング ポリシー	Yes	No
ストレージ ポリシー	No	No
ネットワーク ポリシー	Yes	No
導入ポリシー	Yes	Yes
SLA ポリシー	Yes	Yes
リソース制限レポート	Yes	No
グループ ユーザ	Yes	No
CloudSense レポート	Yes	No
CloudSense アセスメント レポート	Yes	No
オーケストレーション	No	Yes
検出	No	Yes
MSP	No	Yes
自動化モジュールを開く	No	No
グループ ユーザ	No	No
CS 共有レポート	No	No
CS 共有アセスメント	No	No

タスク	権限	
リモート VM アクセス	No	No
モバイル アクセス設定	No	No
エンドユーザチャージバック	No	No
リソースアカウンティングの書き込み	No	No
チャージバックの書き込み	No	No
UCSD クラスタ	No	No

ネットワーク管理者

タスク	権限	
仮想コンピューティング	Yes	No
VM ラベル	No	Yes
VM の VDC への割り当て	No	No
仮想ストレージ	Yes	No
仮想ネットワーク	Yes	No
物理コンピューティング	Yes	No
物理ストレージ	Yes	No
物理ネットワーク	Yes	Yes
グループ サービス リクエスト	No	No
承認者サービス リクエスト	No	No
予算	Yes	Yes

タスク	権限	
リソース アカウンティング	Yes	Yes
チャージバック	Yes	Yes
システム管理者	No	No
ユーザとグループ	Yes	No
仮想アカウント	Yes	No
カタログ	Yes	No
VDC	Yes	No
コンピューティング ポリシー	Yes	No
ストレージ ポリシー	Yes	No
ネットワーク ポリシー	Yes	Yes
導入ポリシー	Yes	No
SLA ポリシー	Yes	No
リソース制限レポート	Yes	No
グループ ユーザ	Yes	No
CloudSense レポート	Yes	No
CloudSense アセスメント レポート	Yes	No
オーケストレーション	Yes	Yes
検出	Yes	Yes
MSP	Yes	Yes
自動化モジュールを開く	No	No
グループ ユーザ	No	No

タスク	権限	
CS 共有レポート	No	No
CS 共有アセスメント	No	No
リモート VM アクセス	No	No
モバイル アクセス設定	No	No
エンドユーザ チャージバック	No	No
リソース アカウンティングの書き込み	No	No
チャージバックの書き込み	No	No
UCSD クラスタ	No	No

オペレータ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	Yes	No
VM ラベル	No	Yes
VM の VDC への割り当て	No	Yes
仮想ストレージ	Yes	No
仮想ネットワーク	Yes	No
物理コンピューティング	Yes	No
物理ストレージ	Yes	No
物理ネットワーク	Yes	No
グループ サービス リクエスト	No	No

タスク	権限	
承認者サービス リクエスト	No	No
予算	Yes	No
リソース アカウンティング	Yes	No
チャージバック	Yes	No
システム管理者	Yes	No
ユーザとグループ	Yes	No
仮想アカウント	Yes	No
カタログ	Yes	No
VDC	Yes	No
コンピューティング ポリシー	Yes	No
ストレージ ポリシー	Yes	No
ネットワーク ポリシー	Yes	No
導入ポリシー	Yes	No
SLA ポリシー	Yes	No
リソース制限レポート	Yes	No
グループ ユーザ	Yes	No
CloudSense レポート	Yes	No
CloudSense アセスメント レポート	Yes	No
オーケストレーション	No	No
検出	No	No
MSP	No	No
自動化モジュールを開く	No	No

タスク	権限	
グループ ユーザ	No	No
CS 共有レポート	No	No
CS 共有アセスメント	No	No
リモート VM アクセス	No	No
モバイル アクセス設定	No	No
エンドユーザ チャージバック	No	No
リソース アカウンティングの書き込み	No	No
チャージバックの書き込み	No	No
UCSD クラスタ	No	No

サービス エンドユーザ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		
VM ラベル		
VM の VDC への割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ		
物理ネットワーク		
グループ サービス リクエスト	読み取り	

タスク	権限	
承認者サービス リクエスト	読み取り	書き込み
予算		
リソース アカウンティング		
チャージバック		
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ		
VDC		
コンピューティング ポリシー		
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート		
グループ ユーザ		
CloudSense レポート		
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		

タスク	権限	
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有アセスメント		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンドユーザ チャージバック	読み取り	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

ストレージ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	Yes	
VM ラベル		Yes
VM の VDC への割り当て		
仮想ストレージ	Yes	
仮想ネットワーク	Yes	
物理コンピューティング	Yes	
物理ストレージ	Yes	
物理ネットワーク	Yes	

タスク	権限	
グループ サービス リクエスト	Yes	
承認者サービス リクエスト	Yes	Yes
予算	Yes	
リソース アカウンティング	Yes	
チャージバック	Yes	
システム管理者	Yes	
ユーザとグループ	Yes	
仮想アカウント	Yes	
カタログ	Yes	
VDC	Yes	
コンピューティング ポリシー	Yes	
ストレージ ポリシー	Yes	
ネットワーク ポリシー	Yes	
導入ポリシー	Yes	
SLA ポリシー	Yes	
リソース制限レポート	Yes	
グループ ユーザ	Yes	
CloudSense レポート	Yes	
CloudSense アセスメント レポート	Yes	
オーケストレーション	Yes	

タスク	権限	
検出	Yes	Yes
MSP	Yes	Yes
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有アセスメント		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンドユーザ チャージバック	Yes	Yes
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

ユーザの役割および権限

次の表に、各管理ユーザ タイプにマップされている権限のリストを示します。

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
仮想コンピューティング	読み取り		読み取り		読み取り	書き込み	書き込み	読み取り		読み取り
VM ラベル	書き込み				書き込み	書き込み	書き込み	書き込み		書き込み

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
VM の VDC への割り当て	書き込み				書き込み			書き込み		
仮想ストレージ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
仮想ネットワーク	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理コンピューティング	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理ストレージ	読み取り/書き込み		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理ネットワーク	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り
グループサービスリクエスト			読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り
承認者サービスリクエスト		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み
予算	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
リソースアカウンティング	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
チャージバック	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
システム管理者	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ユーザとグループ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
仮想アカウント	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
カタログ	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
VDC	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り		読み取り
コンピューティングポリシー	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ストレージ ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り				読み取り	読み取り		読み取り
ネットワーク ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り			読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
導入ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
SLA ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
リソース制限レポート	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
グループユーザ	読み取り		読み取り	書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
CloudSense レポート	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り
CloudSense アセスメント レポート	読み取り		読み取り							
オーケストレーション	読み取り		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			
検出	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			読み取り/書き込み
MSP	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み			読み取り/書き込み

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
自動化モジュールを開く						書き込み				
グループユーザ						読み取り				
CS 共有レポート				読み取り/書き込み		読み取り				
CS 共有アセスメント				読み取り/書き込み						
リモート VM アクセス										
モバイルアクセス設定										
エンドユーザチャージバック			読み取り	読み取り		読み取り			読み取り	
リソースアカウンティングの書き込み		書き込み								
チャージバックの書き込み	書き込み	書き込み								

権限	すべてのポリシー管理者	課金管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
UCSD クラスタ										

グループの管理

グループまたはお客様の組織の作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [グループの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	グループまたはお客様の組織の名前。
[説明] フィールド	グループまたはお客様の組織の説明（必要な場合）。
[コード] フィールド	グループの省略名またはコード名。 この名前はVMおよびホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター]フィールド	（オプション）コストセンターの名前または番号（必要な場合）。この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。 この名前は、VMware システム ポリシーで VM の命名規則に使用できます。 命名規則にコストセンターを使用する方法の詳細については、ポリシーの管理, （109 ページ）を参照してください。
[連絡先の電子メール] フィールド	この電子メールアドレスは、必要に応じてサービスリクエストとリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知するために使用されます。

フィールド名	説明
[名] フィールド	連絡先の名。
[姓] フィールド	連絡先の姓。
[電話] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所] フィールド	連絡先の住所。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。

パスワード ポリシー

ユーザを追加したとき、またはすべてのユーザ タイプのパスワードを変更したときに、すべてのユーザにパスワードポリシーが適用されます。 このポリシーによって、次のパスワード制約を適用できます。

- パスワードの長さ
- ユーザ名と同じ文字列をパスワードとして使用できるようにするかどうか
- 現在のパスワードを新規パスワードとしてリセットできるかどうか
- パスワードでの使用を禁止する正規表現

パスワード ポリシーの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [パスワードポリシー] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[パスワードの最小長] ドロップダウン リスト	パスワードの最小文字数を選択します。
[パスワードの最大長] ドロップダウン リスト	パスワードの最大文字数を選択します。

名前	説明
[文字クラスの最小数] ドロップダウン リスト	大文字、小文字、数字、特殊文字など、文字クラスの最小数を選択します。
[ログイン名と同じパスワードの使用を許可しない] チェックボックス	ログイン ID と同じパスワードの使用を禁止するには、チェックボックスをオンにします。
[以前のパスワードを許可しない] チェックボックス	以前のパスワードの使用を禁止し、新しいパスワードを古いパスワードと同じにできなくするには、チェックボックスをオンにします。
[指定した表現と一致するパスワードを許可しない] フィールド	パスワードでの使用を禁止する文字列を（1 行あたり 1 つ）指定します。 たとえば、「.*abc.*」と指定した場合は、パスワードに「abc」という文字列を含めることができなくなります。

ステップ 3 [送信] をクリックします。

グループの予算ポリシー

チャージバック機能を使用することによって、リソースが考慮されるようにできます。 グループ別またはお客様の組織別のリソース使用状況を確認するには、当該エンティティを予算ポリシーに関連付けます。

グループまたはお客様の組織は予算の監視を使用して設定できます。また、準備された予算内に収まるように、あるいはその予算を超過するように、グループやお客様の組織を設定することも可能です。

グループの予算ポリシーの表示と編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。

ステップ 3 リストからグループを選択します。

ステップ 4 [予算ポリシー] をクリックします。

ステップ 5 [予算ポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[予算の監視の有効化] チェックボックス	グループの予算使用状況をモニタするには、チェックボックスをオンにします。 このグループのすべての予算エントリを無視するには、チェックボックスをオフにします。
[予算超過を許可] チェックボックス	準備された予算の超過をグループ メンバーに許可するには、チェックボックスをオンにします。 予算をすべて消化した場合に、新しい予算が追加されるまですべてのリクエストを却下するには、チェックボックスをオフにします。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

リソース制限

グループのリソース使用率を管理するために、グループまたはお客様の組織に対してリソース制限を設定できます。 次のリソースに制限を指定できます。

（注） オペレーティング システム リソースと物理リソースの制限の設定は、パブリック クラウドではサポートされていません。

- 仮想リソース
- オペレーティング システム リソース
- 物理リソース

リソース制限の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [要約] を選択します。

ステップ 2 表示するグループをクリックします。

ステップ 3 [リソース制限] を選択して、選択したグループのリソースの現在の制限、使用状況、保留中のサービス リクエストの使用状況、およびステータスを表示します。

リソース制限の編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。

ステップ 3 グループを選択し、[リソースの制限の編集] をクリックします。 [リソース制限] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [リソース制限] ダイアログボックスで、[リソース制限の有効化] チェックボックスをオンにして、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
グループ表示のみ	グループ名。
[リソース制限の有効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにするとリソース制限が有効になり、チェックボックスをオフにするとリソース制限が無効になります。 オンにすると、グループに対してリソース制限を設定するオプションが提供され、すべてのゼロ以外のリソース制限が適用されます。
アクティブなVMの最大数	アクティブな VM の最大数。
VMの最大合計数	VM の総数。
プロビジョニング済みVCPUの制限	プロビジョニングされる vCPU の最大数。
プロビジョニング済みメモリの制限(GB)	プロビジョニングされるメモリの制限（GB 単位）。
プロビジョニング済みCPUの制限(GHz)	プロビジョニング済みCPUの制限（GHz）。
プロビジョニング済みディスク(GB)	プロビジョニングされるディスクの制限（GB 単位）。
予約済みCPU時間(GHz)	予約済み CPU の制限（GHz 単位）。
予約済みメモリの制限(GB)	予約済みメモリの制限（GB 単位）。
スナップショットの制限（GB）	スナップショットの最大制限（GB 単位）。

フィールド名	説明
[非アクティブなVMのCPUとメモリのカウント] チェックボックス	[非アクティブなVMのCPUとメモリのカウント] チェックボックス。グループの非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース制限の計算に含めるには、チェックボックスをオンにします。 非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース制限の計算から除外するには、チェックボックスをオフにします。
OSリソース制限 （注） OS リソース制限と物理リソース制限の設定は、パブリック クラウドではサポートされていません。	
CentOS	CentOS（Community Enterprise Operating System）サーバの最大数。
Windows Server 2008	Windows 2008 サーバの最大数。
Windows 7	Windows 7 マシンの最大数。
Windows XP	Windows XP マシンの最大数。
Red Hat	Red Hat マシンの最大数。
Ubuntu	Ubuntu マシンの最大数。
FreeBSD	FreeBSD マシンの最大数。
その他のLinux	その他の Linux OS の最大数。
その他	その他の OS の最大数。
物理リソース制限	
物理サーバの最大数	サーバの最大数。
物理サーバの最大メモリ(GB)	サーバ メモリの最大量。
物理サーバの最大CPU数	サーバ CPU の最大数。
vFilerの最大数	vFiler の最大数。
物理ストレージの最大容量(GB)	ストレージ領域の最大量。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

管理者プロファイルの設定

管理者プロファイルの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
[ユーザタイプ] ドロップダウン リスト	ユーザ タイプ オプションとして [管理者] を選択します。 システム管理者は完全な権限を持ちます。
ログイン名	ログイン名。 デフォルトは admin です。
パスワード	admin のパスワード。
パスワードの確認	admin のパスワードを確認のためにもう一度入力します。
ユーザの連絡先メール	管理者の電子メール アドレス。
名	管理者の名。
姓	管理者の姓。
電話番号	管理者の電話番号。
住所	管理者の住所。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

管理者パスワードの変更

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログイン名] 列で、[admin] を選択します。

ステップ 3 [パスワードの変更] をクリックします。

ステップ 4 [パスワードの変更] ダイアログボックスで、admin ユーザの新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度同じパスワードを入力します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ユーザの追加

はじめる前に

グループを作成してからユーザを追加してください。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
ユーザタイプ	ユーザ タイプを選択します。 （注） ユーザ グループに割り当てることができる管理者ユーザ ロールは、[グループ管理者] ユーザ タイプのみです。
ユーザ グループ	ユーザが属するグループまたはお客様の組織を選択します。
ログイン名	ユーザのログイン名。

フィールド名	説明
パスワード	ユーザのパスワード。 （注） ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol（LDAP）認証を設定している場合は、ローカル サーバではなく LDAP サーバでのみパスワードが検証されます。
パスワードの確認	ユーザのパスワードを確認のためにもう一度入力します。
ユーザの連絡先メール	ユーザの電子メール アドレス。 （注） 電子メール アドレスは、サービス リクエストのステータスと承認についてグループ所有者に通知するために必要です。
名	ユーザの名。
姓	ユーザの姓。
電話	ユーザの電話番号。
住所	ユーザの住所。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

メイン ウィンドウでユーザを選択して [プロファイル管理] をクリックした後で、必要に応じてそのユーザに複数のロールを割り当てることができます。

現在のオンライン ユーザの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [現在のオンラインユーザ] タブを選択して、オンライン ユーザのリストを表示します。 ユーザ名、IP アドレス、セッション開始時間、前回のデータ アクセス、およびクライアントを表示できます。

ユーザ アクセス プロファイルの管理

マルチロールのアクセス プロファイル

1 人のユーザに複数のロールを割り当てることができます。その結果は、ユーザ アクセス プロファイルとしてシステムに反映されます。 たとえば、1 人のユーザが、グループ管理者兼すべてのポリシー管理者として Cisco UCS Director にログインすることもあります（両方のアクセス タイプが適切な場合）。

（注） 複数のプロファイルの中の 1 つを、デフォルトのユーザ アクセス プロファイルとして設定できます。

（注） [プロファイル管理] 機能を使用して、ユーザ アクセス プロファイルの追加、編集、削除と、ユーザ アクセス プロファイルへのログインを実行できます。

ユーザ アクセス プロファイルの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。

ステップ 3 リストからユーザを選択します。

ステップ 4 [プロファイル管理] をクリックします。

ステップ 5 [プロファイル管理] ウィンドウで、[追加 +] をクリックします。

ステップ 6 [アクセスプロファイル] への [エントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
名前	プロファイル名。
説明	プロファイルの説明。
タイプ	ユーザ ロール タイプを選択します。
グループ	ユーザのグループを選択します。

フィールド名	説明
デフォルトのプロファイル	これがデフォルトのユーザ アクセス プロファイルである場合は、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでない場合は、チェックボックスをオフにします。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

次の作業

必要に応じて、追加のユーザ アクセス プロファイルを作成します。

ユーザ アクセス プロファイルの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。

ステップ 3 リストからユーザを選択します。

ステップ 4 [プロファイル管理] をクリックします。

ステップ 5 [プロファイル管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。

ステップ 6 [編集] をクリックします。

ステップ 7 [アクセスプロファイルエントリの編集] ダイアログボックスで、必要に応じて、[名前]、[説明]、[タイプ]、[グループ]、または [デフォルトのプロファイル] フィールドを編集します。

ステップ 8 [送信] をクリックします。

ユーザ アクセス プロファイルの削除

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。

ステップ 3 リストからユーザを選択します。

ステップ 4 [プロファイル管理] をクリックします。

ステップ 5 [プロファイル管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。

ステップ 6 [プロファイル管理] ダイアログボックスで、[削除] をクリックします。

プロファイルへのログイン

手順

ステップ 1 [Cisco UCS Directorログイン] ダイアログボックスで、[ユーザ名] フィールドに、ユーザ名をユーザ名：アクセス プロファイル名の形式で入力します。

（注） たとえば、Alex：GrpAdmin となります。

ステップ 2 [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。

ステップ 3 [ログイン] をクリックします。

プロファイルの削除

システムで作成した最初のプロファイルがデフォルトプロファイルになります。デフォルトを別のプロファイルに変更できます。新しいデフォルトプロファイルを使用する際は、ユーザ名とパスワードを入力してログインします。

デフォルトのプロファイルの変更

手順

ステップ 1 ウィンドウの右上（[ログアウト] の左側）で、ユーザ名をクリックします。

ステップ 2 [ユーザ情報] ウィンドウで、[アクセスプロファイル] タブを選択します。

ステップ 3 ユーザ プロファイルを選択し、[デフォルトプロファイルとして設定] をクリックします。

（注） プロファイルは、追加または編集する際にデフォルトとして設定することもできます。

認証と LDAP 統合

認証の環境設定では、ローカル認証の場合はフォールバックの有無を指定できますが、LDAP の場合はフォールバックは必ず付随します。 VeriSign ID 保護（VIP）認証の環境設定では、フォールバックを行わないように設定することもできます。

名前	説明
ローカル認証	認証はローカルのみ（Cisco UCS Director）で行われ、LDAP サーバでは行われません。
最初にローカル、その後LDAPにフォールバック	認証は最初にローカル サーバ（Cisco UCS Director）で行われます。 ユーザがローカル サーバに見つからなかった場合は、LDAP サーバがチェックされます。
最初にLDAP、その後ローカルにフォールバック	認証は最初に LDAP サーバで行われます。 ユーザが LDAP サーバに見つからなかった場合は、ローカル サーバ（Cisco UCS Director）がチェックされます。
VeriSign ID保護	VIP 認証サービス（2 要素認証）が有効になります。

認証の環境設定の設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [認証の環境設定] タブを選択します。

ステップ 3 [認証の環境設定] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[認証の環境設定] ドロップダウン リスト	認証の環境設定を選択します。 次のいずれかを選択できます。 • ローカル認証 このオプションを選択した場合は、ステップ 4 に進みます。 • ローカルが最初、LDAPにフォールバック • LDAPが最初、ローカルにフォールバック • VeriSign ID保護 このオプションを選択した場合は、ステップ 5 に進みます。
[アカウント名] フィールド	アカウントの名前。
[LDAP ディレクトリのタイプ] ドロップダウン リスト	LDAP ディレクトリのタイプ。 次のいずれかを選択できます。 • Microsoft Active Directory • OpenLDAP
[ユーザ名] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定します。 uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com ou では、ディレクトリ階層内で他のすべてのユーザが格納されている場所を指定します。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。

名前	説明
[ポート番号] フィールド	ポート番号。
[サーバ] フィールド	LDAP サーバの IP アドレス。
[ドメイン名] フィールド	ドメイン名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、このドメイン名がユーザ名に指定したドメインと一致する必要があります。
[既存のユーザとグループの修正]チェックボックス	既存のユーザおよびグループを修正できるようにするには、チェックボックスをオンにします。
[LDAPのテスト] チェックボックス	Cisco UCS Director への LDAP 接続をテストするには、チェックボックスをオンにします。

重要 [アカウント名]フィールドと[サーバ]フィールドの値を変更し、認証が成功した場合、以前に指定した LDAP サーバの Cisco UCS Director に格納されている BaseDN が消去されます。 ユーザおよびグループに関する情報は維持されます。

ステップ 4 ローカル認証の場合は、[保存] をクリックします。

ステップ 5 [VeriSign ID保護] を選択した場合は、次の手順を実行します。

a) [参照] をクリックして VIP 証明書をアップロードします。
証明書を探して選択し、[アップロード] をクリックします。

b) [パスワード] にパスワードを入力します。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

次の作業

認証の環境設定で LDAP を優先するように設定した場合は、LDAP クレデンシャルを設定する必要があります。

LDAP 統合

LDAP 統合を使用して、LDAP サーバのグループおよびユーザと Cisco UCS Director を同期できます。 LDAP 認証により、同期されたユーザが LDAP サーバを使用して認証できるようになります。 LDAP のユーザおよびグループは、自動的に、または手動で同期できます。 また、LDAP 同期はシステム タスクとしても利用可能です。

（注） グループまたはドメイン ユーザ グループに所属していないユーザは、LDAP で [どのグループにも所属していないユーザ] として表示されます。 これらのユーザは、Cisco UCS Director のドメイン ユーザ グループに追加されます。

ローカルに存在するユーザとグループは選択できません。また、Cisco UCS Director で外部から同期されるユーザとグループも選択できません。

LDAP 統合のルールと制限事項

グループ同期のルール

- 選択した LDAP グループがすでに Cisco UCS Director に存在し、ソースが [ローカル] タイプである場合は、同期中にグループが無視されます。
- 選択した LDAP グループがすでに Cisco UCS Director に存在し、グループのソースが [外部] タイプである場合は、グループの説明と電子メールの属性が Cisco UCS Director 内で更新されます。
- 高度な検索オプションを使用する場合は、手動検索の選択対象として最大 1000 ユーザが表示されます（可能な場合）。 このオプションは、[LDAPの手動同期のリクエスト] をクリックすると使用可能になります。

ユーザ同期のルール

- 選択した LDAP グループがすでに Cisco UCS Director に存在し、ソースが [ローカル] タイプである場合は、ユーザ

  が同期中に無視されます。
- 選択した LDAP グループがすでに Cisco UCS Director に存在し、ソースのタイプが [外部] である場合は、ユーザの名前、説明、電子メールなどの属性がそのユーザに合わせて更新されます。

ユーザ同期の制限事項

- ユーザ パスワードはLDAPサーバから取得できません。 代わりに、LDAP の同期中にユーザに対してランダムなパスワードが生成されます。
- 1 人のユーザが複数のグループ メンバーシップを所有していても、そのユーザが Cisco UCS Director で所有できるグループ メンバーシップの数は 1 つだけです。

（注） LDAP 同期のプロセスが済んだら、ユーザを適切なグループに割り当ててください。

LDAP 統合の管理

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択して、LDAP サーバの同期のステータスを表示します。

ステップ 3 （任意） サーバを選択し、必要に応じて次のボタンをクリックして LDAP 統合を管理します。

名前	説明
[ベースDNの検索] ボタン	検索するドメインの識別名を選択できます。 LDAP 同期プロセスが完了すると、選択した組織のすべてのユーザとグループが Cisco UCS Director に取得されます。 このアクションは、自動同期プロセスであるとも見なされます。 （注） LDAP サーバの同期をシステム タスクとして開始できます。 詳細については、LDAP 同期システム タスクの実行, （55 ページ）を参照してください。
LDAP同期のリクエスト	LDAP サーバのオンデマンドの同期を有効にします。 このアクションでは、[ベース DN の検索] で選択した組織のユーザとグループを同期します。 LDAP から追加されたグループとユーザは [外部] タイプとして表示されます。 Cisco UCS Director によって追加されたグループとユーザは [ローカル] タイプとして表示されます。 [送信] をクリックしてサーバを同期します。 LDAP ユーザの変更は即座に反映されます。 （注） LDAP 同期が処理された後、ユーザが正しいグループに割り当てられていることを確認してください。 ステップ 4 に進みます。
LDAP の手動同期のリクエスト	LDAP ユーザとグループを取得するための基本または高度な検索条件を指定できるダイアログボックスが表示されます。 ステップ 6 に進みます。

ステップ 4 （任意） LDAP 同期リクエストの場合は、IP アドレスやドメイン名を確認し、[送信] をクリックします。

ステップ 5 （任意） LDAP の手動サーバ同期を選択した場合は、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[基本検索] フィールド	チェックボックスをオンにすると、組織ユニットごとの基本検索が有効になります。 オンにした場合は、ステップ 6 に進みます。
[詳細検索] フィールド	チェックボックスをオンにすると、高度な検索が有効になります。 オンにした場合は、ステップ 8 に進みます。

ステップ 6 基本検索の場合は、[選択] をクリックします。

ステップ 7 検索する識別名を選択して、[選択] をクリックします。

ステップ 8 高度な検索の場合は、[ユーザとグループの選択]ペインで、[ユーザフィルタとグループフィルタ] の属性名を追加または編集します。

ステップ 9 [次へ] をクリックします。

ステップ 10 [LDAPグループ] と [LDAPユーザ] を選択します。

ステップ 11 [送信] をクリックして LDAP サーバを同期します。

LDAP 同期システム タスクの実行

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] を選択します。

ステップ 3 [フィルタ] フィールドに [LDAP] と入力します。

ステップ 4 [システムのタスク] テーブルから [LDAP 同期タスク] を選択します。

ステップ 5 [今すぐ実行] をクリックします。

ステップ 6 （任意） [タスクの管理] をクリックすると、同期プロセスが有効または無効になります。

シングル サインオン

Cisco UCS Director には、単一ログインを利用したシングル サインオン機能があります。 シングル サインオン機能を使用すると、ユーザはパスワードを何度も入力しなくても目的のアプリケーションにアクセスできます。 単一ログイン機能が有効になっている場合、ユーザは目的のポータルにログインして Cisco UCS Director へアクセスすることが可能です。

（注） Cisco UCS Director でシングル サインオン機能を利用できるようになるのは、単一ログイン証明書の登録後です。

シングル サインオンの有効化

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [シングルサインオン] タブを選択します。

ステップ 3 [シングルサインオン] ペインで、[シングルサインオンの有効化] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [アップロードするファイルの選択] フィールドで、One Login 証明書ファイルを参照して選択します。

ステップ 5 [アップロード] をクリックします。

ステップ 6 アップロードが完了したら、[送信] をクリックします。

グループとお客様の組織のブランディング

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。

ステップ 3 ブランディングの対象となるグループを選択します。

ステップ 4 [ブランディング] をクリックします。

ステップ 5 [グループブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
[ロゴイメージ] チェックボックス	ロゴイメージをアップロードするには、チェックボックスをオンにします。 ステップ 6 に進みます。
[アプリケーションラベル] チェックボックス	アプリケーションヘッダーに表示されるアプリケーション ラベルをカスタマイズするには、チェックボックスをオンにします。 ステップ 8 に進みます。
[ログアウト時のURL転送] チェックボックス	ログアウト時に特定の URL に転送するには、チェックボックスをオンにします。 ステップ 9 に進みます。
[カスタムリンク] チェックボックス	カスタム リンクのブランディングを行うには、チェックボックスをオンにします。 ステップ 10 に進みます。

ステップ 6 [アップロードするファイルの選択] フィールドで、ロゴ イメージのファイルを参照して選択します。

（注） ロゴ イメージは PNG、JPG、または GIF 形式にしてください。 最適なイメージ サイズは、幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルです。 ダウンロード時間の短縮のため、ファイル サイズを小さくすることをお勧めします。

ステップ 7 [アップロード] をクリックします。

ステップ 8 （任意） アプリケーション ラベルの場合、少なくとも 1 つのアプリケーション ラベルを [ラベル1] フィールドと [ラベル2] フィールドに入力します。

ステップ 9 （任意） [URL] フィールドに、ログアウトしたユーザを誘導する URL を入力します。

ステップ 10 （任意） 少なくとも最初の 2 つのフィールドに入力します。

名前	説明
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	カスタム リンク 1 のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	カスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	カスタム リンク 2 のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	カスタム リンク 2 の URL。

ステップ 11 [送信] をクリックします。

ログイン ページのブランディング

ログインページは、ドメイン名に関連したロゴが表示されるように設定できます。 このようにすると、そのドメインからエンドユーザがログインすると、ログインページにカスタムロゴが表示されます。 ロゴの最適なイメージ サイズは、255 ピクセルを空白部分として考慮して、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセルとなります。 より速くダウンロードできるように、イメージ サイズは小さく保つことをお勧めします。

（注） ブランディングする場合は、グループまたはお客様の組織のログイン ページを最初に設定（有効化）する必要があります。

カスタム ドメイン ロゴの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ログインページブランディング] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [ドメインブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ドメイン名] フィールド	ブランディングの対象となるドメイン名。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	アップロードするロゴ ファイル。 （注） ロゴの最適なイメージ サイズは、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセル、余白 255 ピクセルです。 ダウンロード時間の短縮のため、イメージ サイズを小さくすることをお勧めします。
[カスタムドメインロゴ] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、指定したドメイン名のログイン ページのブランディングが有効になります。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

第 4 章

システム管理設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 送信メール サーバの設定，61 ページ
- 電子メール テンプレートの使用，62 ページ
- 電子メール テンプレートのカスタマイズ，63 ページ
- システム パラメータの設定（オプション），65 ページ
- ライセンスの更新，67 ページ
- ライセンス使用状況の確認，68 ページ
- ライセンス使用状況履歴の表示，68 ページ
- リソース使用率のデータの表示，69 ページ
- アプリケーション カテゴリの編集，69 ページ
- ポータルのカスタマイズ，70 ページ
- レポートのカスタマイズ，74 ページ
- 詳細な制御，74 ページ
- ユーザ メニュー，76 ページ
- ユーザ権限の設定，77 ページ
- システム タスクの管理，77 ページ
- アイコンの管理，82 ページ
- サポート情報，85 ページ

送信メール サーバの設定

Cisco UCS Director からのすべての送信電子メールに SMTP サーバが必要です。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [電子メール設定] タブを選択します。

ステップ 3 [電子メール設定] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[送信電子メールサーバ(SMTP)] フィールド	送信 SMTP サーバ アドレス。
[送信SMTPポート] フィールド	送信 SMTP サーバ ポート番号。
[送信SMTPユーザ] フィールド	ユーザ ID。
[送信SMTPパスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[アドレス] フィールド	送信者のメール アドレス。
[CloupiaサーバIPアドレス] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたは DNS 名。 このフィールドは、電子メールでユーザ ワークフロー アクションの適切なリンクを作成するために使用します。 [テスト電子メールの送信] チェックボックス。現在の電子メール設定をチェックするには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

電子メール テンプレートの使用

Cisco UCS Director に備えられた通知メカニズムを使用して、特定のイベントが発生したときに電子メールが管理者に送信されるように設定できます。 たとえば、VM がプロビジョニングされると通知されるように設定します。 また、承認が必要な場合に、電子メール通知が管理者またはグループ管理者に送信されるようにすることができます。 電子メールのメッセージ以外に、フォント、色、表の枠線などの書式設定や表示方法を編集できます。

電子メール テンプレートは、サーバ アプライアンスのファイル システムで、HTML 形式で利用できます。 テンプレートは次の場所から取得できます。

```
/opt/infra/inframgr/EmailTemplates
```

サーバアプライアンスにログインして、ファイルシステムにアクセスし、電子メール通知の電子メール メッセージまたは書式設定のスタイルをカスタマイズできます。

利用可能な電子メールテンプレートと、それに対応する編集可能なHTMLファイルは次のとおりです。

テンプレート名	HTML ファイル名
ライフサイクル通知電子メール テンプレート	LifeCycleNotificationEmailTemplate.html
エラー通知電子メール テンプレート	FailureNotificationEmailTemplate.html
CreateVM通知電子メールテンプレート	CreateVMNotificationEmailTemplate.html
トリガー通知電子メール テンプレート	TriggerNotificationEmailTemplate.html
ユーザ VM アクション通知電子メール テンプレート	UserVMActionNotificationEmailTemplate.html
ワークフロー通知電子メール テンプレート	WorkflowNotificationEmailTemplate.html
VMプロビジョニング通知電子メールテンプレート	NotificationEmailSender.html
技術的通知電子メール テンプレート	TechnicalEmailSender.html

電子メール テンプレートのカスタマイズ

はじめる前に

- このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。
- 電子メールテンプレートを編集する前に、バックアップを作成してください。 これにより、後で元のテンプレートに戻すことができます。

手順

ステップ 1 サーバアプライアンスのファイルシステムにある[電子メールテンプレート]フォルダに移動します。

```
[root@xyz] # cd opt
[root@xyz opt] # cd infra
[root@xyz infra] # cd inframgr
```

```
[root@xyz inframgr] # cd EmailTemplates
[root@xyz EmailTemplates] #
```

ステップ 2 **ls** コマンドを実行して、使用可能な電子メール テンプレートとそれに対応する HTML バージョンのリストを表示します。

ステップ 3 カスタマイズするテンプレート ファイルを開きます。

```
[root@xyz] # vi LifecycleNotificationEmailTemplate.html
```

重要 必ずテンプレートの .html バージョンを開いてください。 XML ファイルは編集しないでください。

ステップ 4 カスタマイズするフィールドを編集します。

重要 テンプレートに含まれている Java コード関連情報やコール名は変更しないでください。

電子メール テンプレートはさまざまな言語でサポートされています。 この多言語サポートは、各パラメータの **rbutil.getstring** フレーズで定義されています。 テンプレートの編集中にこの文字列を削除してしまうと、現在のテンプレートに加えた変更が他の言語では利用できなくなります。

ステップ 5 ファイル権限はデフォルトの権限と同じにしてください。

電子メール テンプレートの編集の例

```
[root@xyz] # cd opt
[root@xyz opt] # cd infra
[root@xyz infra] # cd inframgr
[root@xyz inframgr] # cd EmailTemplates
[root@xyz EmailTemplates] # ls

LifeCycleNotificationEmailTemplate.html
LifeCycleNotificationEmailTemplate.xml
FailureNotificationEmailTemplate.html
FailureNotificationEmailTemplate.xml
CreateVMNotificationEmailTemplate.html
CreateVMNotificationEmailTemplate.xml
TriggerNotificationEmailTemplate.html
TriggerNotificationEmailTemplate.xml
UserVMActionNotificationEmailTemplate.html
UserVMActionNotificationEmailTemplate.xml
WorkflowNotificationEmailTemplate.html
WorkflowNotificationEmailTemplate.xml
NotificationEmailSender.html
NotificationEmailSender.xml
TechnicalEmailSender.html
TechnicalEmailSender.xml

[root@xyz inframgr] # vi CreateVMNotificationEmailTemplate.html

<head>
<style type='text/css'>\r\n
out.println(".c1 {font-weight: normal;\r\ntext-align: left;\r\nfont-size: 8pt;\r\nfont-family:
 Verdana, Arial, sans-serif}\r\n");
out.println(".c2 {font-weight: bold;\r\ntext-align: left;\r\nfont-size: 8pt;\r\nfont-family:
 Verdana, Arial, sans-serif}\r\n");
</style>
</head>

<body bgcolor=#ffffff>
<table class='c1' border=0 cellspacing=2 cellpadding=1 width=100%>
<tr>

<td bgcolor=#BFDBFD><b> + rbutil.getstring ("System.string.ET.vm.id")</b></td>
```

```
<td bgcolor=#BFDBFD><b> + rbutil.getstring ("System.string.ET.Cloud.name")</b></td>
<td bgcolor=#BFDBFD><b> + rbutil.getstring ("System.string.ET.instance.name")</b></td>
<td bgcolor=#BFDBFD><b> + rbutil.getstring ("System.string.ET.ip.address")</b></td>
<td bgcolor=#BFDBFD><b> + rbutil.getstring ("System.string.ET.hostname")</b></td>
</tr>
<Cloupia:ReportScript>

var dataObject = request.getDataObject();

for(var i = 0; i< dataObject.size(); i =i+1)
{
 var vmc = dataObject.get(i);

println("<tr>");

println("<td bgcolor=#ffffff>");
println(""+vmc.gvm.getVmId());
println("</td>");

println("<td bgcolor=#ffffff>");
println(""+vmc.gvm.getAccountName());
println("</td>");

println("<td bgcolor=#ffffff>");
println(""+vmc.gvm.getInstanceId());
println("</td>");

println("<td bgcolor=#ffffff>");
println(""+vmc.gvm.getHostName());
println("</td>");

println("<td bgcolor=#ffffff>");
println(""+vmc.gvm.getIpAddress());
println("</td>");


println("</tr>");

}

</Cloupia:ReportScript>

</table>

</td></tr></table>
</body>

[root@xyz EmailTemplates]# ls -l *html
-rw-r--r-- 1 root root 7040 Mar 27 02:59 CreateVMNotificationEmailTemplate.html
-rw-r--r-- 1 root root 4674 Mar 27 02:59 FailureNotificationEmailTemplate.html
-rw-r--r-- 1 root root 1569 Mar 27 02:59 LifeCycleNotificationEmailTemplate.html
-rw-r--r-- 1 root root 12753 Mar 27 02:59 NotificationEmailSender.html
-rw-r--r-- 1 root root 8946 Mar 27 02:59 TechnicalEmailSender.html
-rw-r--r-- 1 root root 4387 Mar 27 02:59 TriggerNotificationEmailTemplate.html
-rw-r--r-- 1 root root 3946 Mar 27 02:59 UserVMActionNotificationEmailTemplate.html
-rw-r--r-- 1 root root 4517 Mar 27 02:59 WorkflowNotificationEmailTemplate.html
```

システム パラメータの設定（オプション）

システム パラメータの設定

システム パラメータを編集するのは、そのデフォルト値を変更する必要がある場合のみとしてください。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムパラメータ] タブを選択します。

ステップ 3 [システム] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[削除したVMのデータを保持する日数] フィールド	VM データをシステムに保持する日数（ユーザ定義）。
[イベントを保持する日数] フィールド	すべてのイベントをシステムに保持する日数（ユーザ定義）。 （注） 指定した期間を超えたイベントは削除されます。
[傾向データを保持する日数] フィールド	インベントリの傾向データまたは履歴データ（CPU、ストレージ、メモリの使用状況など）をシステムに保持する日数（ユーザ定義）。 （注） このデータはレポートに使用されます。
[計測データを保持する日数] ドロップダウン リスト	VM の計測記録をシステムに保持する日数を選択します。 （注） このデータは VM とそのリソースに固有です。
[URLからのVMロックコントロールのダウンロード] フィールド	VM ロック コントロールの URL を指定します。 （注） このファイルはXML形式である必要があります。
[通貨] ドロップダウン リスト	使用する通貨のタイプを選択します。 使用可能な通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、[KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、[AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、[MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、[KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および [その他] です。
[通貨] フィールド	通貨名を（1 つだけ）入力します。 （注） このフィールドは、通貨として [その他] を選択した場合に表示されます。
[通貨の精度(小数点以下の桁数)] ドロップダウン リスト	通貨の小数点以下の桁数を選択します。 0 ～ 5 桁の範囲で指定できます。

名前	説明
[資金利用可能状況チェック間隔（分）] ドロップダウン リスト	資金の利用可能状況をチェックする間隔を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

インフラストラクチャ システム パラメータの設定（オプション）

仮想システム インフラストラクチャ リソースおよび物理システム インフラストラクチャ リソースをポーリングするためのパラメータを設定できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [インフラストラクチャシステムパラメータ] タブを選択します。

ステップ 3 入力ボックスに、システムインフラストラクチャの傾向データを保持する日数を入力します。デフォルトは 30 日です。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ライセンスの更新

製品認証キー（PAK）を使用してライセンスを更新できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ライセンス] を選択します。

ステップ 2 [ライセンスキー] タブを選択します。

ステップ 3 [ライセンスの更新] オプションをクリックします。
[PAKの更新] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [参照] をクリックして PAK ライセンス ファイルに移動し、選択します。

ステップ 5 [アップロード] をクリックして PAK ライセンス ファイルをアップロードします。

（注） ライセンス ファイルがアップロードされない場合は、チェックボックスをオンにし、ライセンス テキストをコピーしてライセンス テキスト フィールドに貼り付けます。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

ライセンスが更新されました。

ライセンス使用状況の確認

[ライセンス使用状況] ページには、使用中のライセンスおよびライセンス制限、使用可能数量、ステータス、コメントを含む各ライセンスの詳細が表示されます。 ライセンス監査もこのページから実行できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ライセンス] を選択します。

ステップ 2 [ライセンス使用状況] タブを選択します。

ステップ 3 Cisco UCS Director アプライアンスを選択します。

ステップ 4 （オプション）ライセンス監査を実行するには、[ライセンス監査の実行] をクリックします。

ステップ 5 [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。 このプロセスの実行には数分かかります。

ライセンス使用状況履歴の表示

ネットワーク リソースの利用状況を把握するために、ライセンス済みのネットワーク コントローラとストレージ コントローラ、サーバ、サーバとデスクトップの VM、および Small Pod と Medium Pod の数を経時的にトラッキングできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ライセンス] を選択します。

ステップ 2 [ライセンス使用状況履歴] タブを選択します。
次のリソース カテゴリのライセンス使用状況履歴がタイムスタンプとともに表示されます。

- ネットワーク コントローラ
- ストレージ コントローラ
- サーバ
- サーバ VM
- デスクトップ VM
- Small Pod

- Medium Pod

リソース使用率のデータの表示

環境内のリソースの使用率を表示できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ライセンス] を選択します。

ステップ 2 [リソース使用率のデータ] タブを選択します。
利用可能なレポートのカテゴリは次のとおりです。

- リソース名：Cisco UCS Director に関連付けられた利用可能なリソースの名前。
- リソース数：利用可能なリソースの数。

アプリケーション カテゴリの編集

Cisco UCS Director を使用してプロビジョニングされたすべての VM は、そのタイプに基づいて分類されます。 VM のタイプは、Web サーバ、データベース、アプリケーション サーバなどの場合があります。 Cisco UCS Director には、検出された VM に関する別のカテゴリもあります。

次に、使用または編集できるアプリケーション カテゴリを示します。

- 検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーション サーバ
- データベース
- アプリケーション：CPU を大量に使用
- アプリケーション：メモリを大量に使用
- アプリケーション：ディスクを大量に使用
- アプリケーション：ネットワークを大量に使用
- その他のアプリケーション 1

- その他のアプリケーション 2
- その他のアプリケーション 3

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [アプリケーションカテゴリ] タブを選択します。

ステップ 3 アプリケーション カテゴリを選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 [カテゴリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カテゴリ ID] 表示のみのフィールド	システムによってカテゴリに付けられた数値。
[カテゴリラベル] フィールド	カテゴリ タイプ。
[カテゴリコード] フィールド	VM とホストの名称。
[説明] 表示のみのフィールド	カテゴリの説明。
[有効になっているカテゴリ] 表示のみのチェックボックス	デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム] ドロップダウン リスト	アルゴリズムを選択します。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

ポータルのカスタマイズ

Self-Service Portal はカスタマイズが可能です。 ブランディングおよびユーザ インターフェイス関連の変更のために、ロゴ、ログイン ページ、ホーム ページなどをカスタマイズできます。

ログイン ページとバックグラウンド イメージのカスタマイズ

カスタム イメージをアップロードして、ログイン ページとバックグラウンド イメージを変更できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [ログインページ] をクリックします。

ステップ 3 [カスタマイズ可能なログインページの使用] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [ロゴイメージとバックグラウンドイメージ] ペインで、項目を選択するか、[追加] をクリックして、ロゴ イメージまたはバックグラウンド イメージを追加します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

アプリケーション ロゴのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードして、ホームページのアプリケーション ロゴをカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [アプリケーションのロゴ] タブを選択します。

ステップ 3 [イメージ] ペインで、イメージを選択するか、[追加] をクリックして、リストされていない新しいイメージを追加します。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ファビコンのカスタマイズ

ブラウザのアドレス バーまたはブックマークされたページ名の横に表示されるお気に入りアイコン（ファビコン）はカスタマイズ可能です。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [ファビコン] タブを選択します。

ステップ 3 [イメージラベル] 列で、イメージを選択するか、[追加] をクリックしてリストにない新しいイメージを追加します。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

アプリケーション ヘッダーのカスタマイズ

お客様のロゴの横にある Self-Service Portal のラベルは、既存のラベルの変更によりカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [アプリケーションヘッダー] タブを選択します。

ステップ 3 [アプリケーションヘッダー] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[全ヘッダーを非表示] チェックボックス	ヘッダー セクションを非表示にするには、チェックボックスをオンにします。オンにすると、ロゴイメージ、アプリケーション名、および[ログアウト]などのリンクを含むヘッダーが非表示になります。
[製品名] フィールド	製品名の続き。
[製品名の2行目] フィールド	製品名の続き。
[[バージョン情報]ダイアログの有効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、ヘッダーの [バージョン情報] リンクが有効になります。チェックボックスをオフにすると、ヘッダーの [バージョン情報] リンクが無効になります。
管理者ポータル	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク ラベル 1。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク URL 1。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク ラベル 2。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタム リンク URL 2。
エンドユーザ ポータル	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク ラベル 1。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク URL 1。

名前	説明
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク ラベル 2。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	エンドユーザ ポータルのカスタム リンク URL 2。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示形式がサポートされています。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [日付の表示] タブを選択します。
ステップ 3 日付形式を編集します。
ステップ 4 必要に応じて、[タイムゾーンの非表示] をクリックしてユーザ インターフェイスからタイムゾーン表示を非表示にします。
ステップ 5 [保存] をクリックします。

カラー テーマのカスタマイズ

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [カラーテーマ] タブを選択します。
ステップ 3 ドロップダウン リストから、使用可能なテーマ スタイルを選択します。
ステップ 4 [保存] をクリックします。

ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [ログアウトリダイレクト] タブを選択します。
ステップ 3 URL を入力します。
ステップ 4 [保存] をクリックします。

レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズにより、カスタム ラベルの作成や、使用可能なレポートの非表示などが可能です。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [レポートのカスタマイズ] タブを選択します。
ステップ 3 レポートを選択します。
ステップ 4 [編集] をクリックします。
ステップ 5 ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[レポートを非表示] チェックボックス	レポートを非表示にするには、チェックボックスをオンにします。 レポートを表示するには、チェックボックスをオフにします。
[新しいラベル] フィールド	必要に応じたレポートの新しいラベル。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

詳細な制御

詳細な制御を使用して、Cisco UCS Director の一部のプロパティを有効化または無効化できます。

詳細な制御の有効化

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [詳細な制御] タブを選択します。

ステップ 3 次の手順を実行します。

名前	説明
[モニタリング] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、仮想インフラストラクチャ モニタリング、物理インフラストラクチャ モニタリング、および外部クラウド モニタリングが有効になります。 必要に応じて、このカテゴリの追加のチェックボックスをすべてオンにします。
[リソースの計測] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM 計測機能のモニタリングが有効になります。 （注） VM 計測機能を無効にした場合、チャージバックは機能しません。
[イベントのモニタリング] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、仮想および物理インフラストラクチャ イベントが有効になります。
[ヒートマップレポートコンピューティング] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、仮想インフラストラクチャのヒート マップ レポートの生成が有効になります。
[自動アセスメント] チェックボックス	仮想アセスメントに関するレポートを生成するには、チェックボックスをオンにします。
[適応型プロビジョニング指標付け] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、さまざまなホスト パラメータについて、4 時間ごとにホストの負荷指標を計算できます。 これらの指標は、カタログの適応型プロビジョニングに使用されます。 指標が低い場合、ホストがプロビジョニングに使用される可能性が高くなることを示します。 このプロセスは、特定の VDC のコンピューティング ポリシーに従って機能します。

名前	説明
[非アクティブなVMをVDCポリシーに基づいて削除] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、管理者が指定した時間が経過した後、VDCの非アクティブな（電源がオフの）VM を削除できるようになります。 このプロパティは、VDC の [非アクティブなVMを削除するまでの期間] フィールドに関連付けられています。 （注） デフォルトでは、このプロパティボックスはオフになっています。
[システム タスクのリモート処理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、リモートでの実行が管理上有効になります。
[サービス プロバイダー機能の有効化（システムの再起動が必要）] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、Cisco UCS Director でサービス プロバイダーが有効になります。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ユーザ メニュー

標準的なユーザ ロールで利用できるデフォルトのメニュー操作とは別に、個々のユーザ ロールに合わせてメニュー操作をカスタマイズすることが可能です。

（注） 使用できるメニュー設定は、ユーザ権限によって異なります。 たとえば、メニュー操作を表示または実行できるのは、読み取り/書き込み権限が与えられた場合だけです。

ユーザ メニューの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [メニュー設定] タブを選択します。

ステップ 3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。

ステップ 4 メニューチェックボックスをオンまたはオフにしてそのロールにメニューを許可するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

ユーザ権限の設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [ユーザの権限] タブを選択します。

ステップ 3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。

ステップ 4 [許可されている操作] ダイアログボックスで、選択したユーザ ロールの読み取り操作と書き込み操作を表示できます。

ステップ 5 チェックボックスをオンまたはオフにして個々のロールに読み取り操作と書き込み操作を許可するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

システム タスクの管理

マルチノードの設定により、実行されるシステムタスクと、それを実行するサービスノードが定義されます。

データ収集などのシステム タスクの処理は、VM サービス ノードに委任できます。 ノードの数は、処理タスクの規模によって異なります。

（注） すべてのリモート VM ノードに Cisco UCS Director がインストールされ、かつそれらの VM ノードでマルチノードの設定が行われていることを確認してください。 詳細については、Cisco UCS Director のインストールとアップグレードに関するガイドを参照してください。

ノード プールの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [サービスノード] タブを選択します。

ステップ 3 [サービスノードプール] アイコンをクリックします。 [サービスノードプール] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [+]（プラス）アイコンをクリックします。 [サービスノードプールにエントリを追加] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [名前] フィールドに、ノード プール名を入力します。

ステップ 6 （オプション）[説明] フィールドに、ノード プール名の説明を入力します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。 ノード プールが作成されます。

システム タスク ポリシーの作成

どのノードでどのシステム タスクが実行されているかを後で確認できるように、システム タスクをシステム タスク ポリシーにグループ化できます。

（注） デフォルトのシステム タスク ポリシー以外に、管理者が 1 つ以上のポリシーが必要であると判断したときに、新しいシステム タスク ポリシーが作成されます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] アイコンをクリックします。 [追加] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [名前] フィールドに、システム タスク ポリシーに割り当てた名前を入力します。

ステップ 5 （任意） [説明] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。

ステップ 6 [ノードプール] ドロップダウン リストから、該当するシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。 選択したノード プールが新規に作成したシステム タスク ポリシーに属します。

ノード プールのシステム ポリシー タスクへの割り当て

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [名前] 列から既存のシステム タスク ポリシーを選択し、[編集] アイコンをクリックします。 [編集] ダイアログボックスが表示されます。

（注） デフォルトのシステム タスク ポリシーを使用する場合は、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。 デフォルト以外のポリシーを設定する場合は、システム タスク ポリシーの作成, （78 ページ）の項を参照してください。

ステップ 4 [システムタスクポリシー] の該当するシステム タスク ポリシーが属するノード プールを [ノード プール] ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。 選択したノード プールがシステム タスク ポリシーに属するようになります。

サービス ノードの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [サービスノード] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [サービスノード] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ノード名] フィールド	サービス ノードの名前を入力します。
[ロール] フィールド	サービスは該当するノードのロールとして表されます。
[サービスノードプール] ドロップダウン リスト	デフォルトのサービス ノード プールが選択されています。
[DNS名] フィールド	サービス ノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。 （注） このフィールドでは、プライマリ ノードの IP アドレスを使用することはできません。 有効なサービス ノードの DNS 名または IP アドレスを入力してください。
[説明] フィールド	サービス ノードの説明。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	[http]（デフォルト）または [https] を選択します。
[ポート] フィールド	デフォルトでは、ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）のデフォルトの TCP ポート 80 が入力されています。 必要に応じて、別の TCP ポートを入力します。

名前	説明
[ユーザ名] フィールド	デフォルトでは、infraUser というユーザ名が入力されています。 infraUser は、デフォルトで作成されるユーザ アカウントです。 このユーザ アカウントを確認する場合は、メニューバーで [管理]>[ユーザとグループ] を選択します。 [ログインユーザ] タブを選択して、[ログイン名] 列でユーザ アカウント infraUser を探します。 （注） ユーザ名 InfraUser は、UCS Director システム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。 このフィールドには、別のユーザ名を追加できます。 このユーザの API キーは、サービス ノードでの認証に使用されます。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

システム ポリシーのシステム タスクへの割り当て

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 システム タスクが含まれているフォルダを選択します。 フォルダの矢印をクリックしてタスクを展開します。

（注） 128 のシステム タスクを使用できます。

ステップ 4 タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [タスクの実行] ドロップダウン リストから、[有効化] を選択します。

ステップ 6 [システムタスクポリシー] ドロップダウン リストから、システム ポリシーを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。 選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

システム タスクの実行

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 リストからタスクを選択します。

ステップ 4 [今すぐ実行] をクリックします。 選択したタスクの情報が更新されます。

システム タスクの無効化

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [システムのタスク] タブを選択します。

ステップ 3 システム タスクが含まれているフォルダを選択します。 フォルダの矢印をクリックしてタスクを展開します。

（注） 128 のシステム タスクを使用できます。

タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [タスクの実行] ドロップダウン リストから [無効] を選択します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

アイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログ アイコンのカスタマイズと管理をサポートします。 各アイコン セットには、多くのイメージが含まれています。アイコンセット内のイメージは、カタログ作成フォームで使用できるアイコンにそれぞれ対応しています。

次の 4 つのアイコン セットが事前設定されています。

- コンテナ カタログ アイコン セット
- 詳細カタログ アイコン セット
- 標準カタログ アイコン セット

- VDI カタログ アイコン セット

アイコンの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。

ステップ 3 アイコン セット カテゴリを選択します。

ステップ 4 [アイコンイメージ] をクリックします。

ステップ 5 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、[追加]（+）をクリックします。

ステップ 6 [アイコンイメージへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[イメージラベル] フィールド	イメージの新しいラベル。 このラベルは、カタログ作成時にアイコンのドロップダウン リストの設定に使用されます。
[説明] フィールド	イメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	ファイルを参照してアップロードします。

アイコンの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
ステップ 3 アイコン カテゴリを選択します。
ステップ 4 [アイコンイメージ] をクリックします。
ステップ 5 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、アイコンのイメージを選択して編集します。
ステップ 6 [編集]（鉛筆）をクリックします。
ステップ 7 [アイコンイメージエントリの編集] ダイアログボックスで、[説明] を編集します。
ステップ 8 [参照] をクリックしてアップロードする置換ファイルを選択し、イメージを参照します。
ステップ 9 [アップロード] をクリックします。
ステップ 10 アップロードが完了したら、[送信] をクリックします。

アイコンの削除

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。
ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
ステップ 3 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、アイコンのイメージを選択して [削除] アイコンをクリックします。
ステップ 4 [削除]（X）をクリックします。

アイコンのプレビュー

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザインターフェイス設定] を選択します。

ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。

ステップ 3 [アイコンイメージ] をクリックします。

ステップ 4 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、アイコンのイメージを選択してプレビューします。

ステップ 5 [情報] アイコンをクリックしてイメージをプレビューします。

サポート情報

Cisco UCS Director サポートでは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用状況、ログ、トラブルシューティング用のデバッグ プロセスを含む、基本システム情報および詳細システム情報が提供されます。

サポート情報の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [サポート情報] を選択します。

ステップ 2 [システム情報] タブを選択します。

ステップ 3 [システム情報とログのリンクページ] リンクをクリックします。 [Cisco UCS Director 製品のシステム情報] ウィンドウが表示されます。

システム情報の表示

基本システム情報には、バージョン、稼働時間、サービス ステータス、システム ライセンス ステータス、使用状況、コンピューティング アカウント ステータス、コンピューティング サーバ ステータス、ストレージ アカウント ステータス、システム カタログ、ネットワーク デバイス ステータス、クラウド ステータスなどがあります。

詳細システム情報には、基本システム情報に加えて、データベース テーブル サマリー、製品構成、上位プロセス情報などのほか、プロセッサ、メモリ、ディスク、ログ ファイル、ネットワー

ク、ログインなどの情報が含まれます。 システム タスク ステータス、クラウド インベントリ、モニタリング ステータスも確認できます。

ログの表示

ドロップダウン リストからいずれかのログ ファイルを選択できます。[ログの表示] をクリックすると、ログの末尾数行を表示できます。

ログのダウンロード

[すべてのログのダウンロード] をクリックして、Zip 形式ですべてのログ ファイルをダウンロードできます。

デバッグ ログの開始

デバッグ ロギングにより、最長 30 分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

手順

ステップ 1 [デバッグロギングの開始] をクリックします。

ステップ 2 デバッグが完了したら、[デバッグロギングの停止] をクリックします。

ステップ 3 [HH.MM.SS]（時間）から [デバッグログのダウンロード] をクリックして、ファイルをダウンロードします。

第 5 章

統合設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 構成管理データベースの統合，87 ページ
- 計測データのエクスポート，88 ページ
- レコードの変更，89 ページ
- システムログ，89 ページ
- ストレージと OVF のアップロード，90 ページ
- 多言語のサポート，91 ページ

構成管理データベースの統合

構成管理データベース（CMDB）は、システム内の変更の追跡と管理に使用されます。 CMDB では、通常、仮想マシン（VM）、サービスリクエスト、グループなどのリソースのADD、DELETE、または MODIFY イベント タイプが表示されます。

CMBD 統合の設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [統合] を選択します。

ステップ 2 [CMDB統合設定] タブを選択し、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[FTPサーバにエクスポート] チェックボックス	変更レコードをFTP サーバにエクスポートするには、チェックボックスをオンにします。

名前	説明
[エクスポート形式] ドロップダウン リスト	CSV または XML のいずれかのエクスポート形式を選択します。
[FTPサーバ] フィールド	FTP サーバ アドレス。
[FTPポート] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTPユーザ] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTPパスワード] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTPエクスポート頻度] ドロップダウン リスト	変更レコードをFTPサーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTPファイル名] フィールド	エクスポートされる変更レコードのファイル名。 対象のFTPサーバにファイルがエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。 MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS。 例：XYZ-$DAY-$HOUR-$MIN-$SEC
[FTPのテスト] チェックボックス	FTP設定をテストするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定して、VM のリソース使用状況やリソース アカウンティングの詳細などの傾向データをサーバにエクスポートできます。

計測データのエクスポートの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [統合] を選択します。

ステップ 2 [計測データのエクスポートの設定] タブを選択し、CMDB の設定で使用するフィールドに入力します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

レコードの変更

レコードの変更の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [システム] を選択します。

ステップ 2 [レコードの変更] タブを選択します。

（注） レコードは最大 1000 件表示できます。

システムログ

システムログ（syslog）情報は、設定されたサーバに転送できます。 各システム メッセージには、重大度と重大度の最小値レベルが関連付けられます。

システムログの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [統合] を選択します。

ステップ 2 [syslog] タブを選択します。

ステップ 3 [Syslog転送の有効化] チェックボックスをオンにして、次のサーバ フィールドに入力します。

フィールド	説明
[Syslog転送の有効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、syslog が有効になります。
[重大度の最小値] ドロップダウン リスト	重要でないシステム メッセージが syslog サーバに転送されないようにフィルタする重大度の最小値レベルを選択します。
プライマリ Syslog サーバ	
[サーバアドレス] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	UDP または TCP のいずれかのプロトコルを選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号。
[syslogメッセージフォーマット] ドロップダウン リスト	XML またはプレーンテキストのいずれかのメッセージ形式を選択します。
セカンダリ Syslog サーバ	
[サーバアドレス] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	UDP または TCP のいずれかのプロトコルを選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号。
[Syslog メッセージ形式] ドロップダウン リスト	XML またはプレーンテキストのいずれかのメッセージ形式を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ストレージと OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、エンドユーザのいずれかによってアップロードされるファイルの保存場所は設定可能です。 アップロードされたファイルは、ローカルに保存することも、外部の NFS 共有マウント ポイントに保存されるように設定することもできます。 ネットワーク ファイル システム（NFS）の場所は管理者が設定します。

ファイルのアップロード機能により、管理者、グループ管理者、またはエンドユーザ（サービス エンドユーザ ポータル）は、ローカル ストレージまたは外部の NFS 共有マウント ポイントに Open Virtualization Format（OVF）ファイルをアップロードできます。 NFS の場所は管理者が設定します。 詳細については、『OVF Upload Guide（OVF アップロード ガイド）』を参照してください。

多言語のサポート

Cisco UCS Director では、表示と入力の両方で多言語がサポートされます。 2 バイト文字セットを利用するすべての言語がサポートされています。 あらゆる入力フィールドに、ユーザが選択した言語でテキストを入力できます。

第 6 章

物理インフラストラクチャの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 物理インフラストラクチャの管理について，93 ページ
- 接続のテスト，100 ページ
- デバイス検出の有効化，102 ページ

物理インフラストラクチャの管理について

Cisco UCS Director では、物理および仮想の両方のインフラストラクチャを管理できます。Cisco UCS Director では、新しく作成された物理アカウントのすべてのコンポーネントを検出します。通常、検出プロセスには約 5 分かかります。 ポッドを追加することも、デフォルトのポッドを使用することも可能です。 物理アカウントは、デフォルトのポッドにも、追加したポッドにも関連付けることができます。

（注） 物理と仮想、どちらのタイプのインフラストラクチャを先に追加しても構いません。 Cisco UCS Director の物理アカウントには、仮想（クラウド）アカウントとの依存関係はありません。

サイトの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [サイト管理] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [サイトの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[サイト名] フィールド	サイトの記述名。
[説明] フィールド（オプション）	サイトの説明（ロケーション、重要度など）。
[連絡先名] フィールド	該当するサイトの担当者の名前。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

Pod の追加

手順

ステップ 1 メニューバーで [管理] > [物理アカウント] の順に選択します。

ステップ 2 [POD] タブをクリックします。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [PODの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[名前] フィールド	Pod の記述名です。
[サイト] ドロップダウン リスト	Podを追加するサイトを選択します。環境にサイトがない場合は、このステップを省略できます。

名前	説明
[タイプ] ドロップダウン リスト	追加する Pod のタイプを選択します。 次のサポートされたタイプのいずれかを指定できます。 • [FlexPod] • [汎用] • [ExpressPodミディアム] • [VSPEX] • [ExpressPodスモール] • [Vblock] 一般タイプ以外の Pod を選択した場合は、その Pod タイプに対応するライセンスが必要になります。 また、一般タイプ以外の Pod には、特定の物理コンポーネントおよび仮想コンポーネントのみが対応しています。 一般 Pod には、特定の Pod ライセンスは不要です。 一般 Pod には任意のタイプの物理コンポーネントまたは仮想コンポーネントを追加できます。 Pod ライセンスについての詳細は、『Cisco UCS Director Install and Upgrade Guides』を参照してください。
[説明] フィールド	（オプション）Pod の説明です。
[住所] フィールド	Podの物理ロケーションです。 たとえば、このフィールドにはPodの市区町村、またはその他の内部的な識別子を入力します。
[PODを非表示] チェックボックス	統合チェック ビューにPodを表示しない場合は、このチェックボックスをオンにしてPodを非表示にします。 Podからアカウントの追加または削除は引き続き実行できます。 たとえば、物理要素または仮想要素が何も存在しないPodを統合ビューで非表示にするには、このチェックボックスを使用できます。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

Pod にアカウントを 1 つ以上追加します。

物理アカウントの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [物理アカウント] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポッド] ドロップダウン リスト	該当する物理アカウントが属するポッドを選択します。
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	カテゴリ タイプ（[コンピューティング] または [ストレージ]）を選択します。 [ストレージ] を選択した場合、ステップ 5 に進みます。
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	該当する物理アカウントのアカウント タイプを次の中から選択します。 • UCSM • HP ILO • シスコのラック サーバ（CIMC） • IPMI
[認証タイプ] ドロップダウン リスト	該当するアカウントに使用する認証タイプを次の中から選択します。 • [ローカル認証]：ローカル認証ユーザ アカウントは、ファブリック インターコネクトを通して直接認証され、管理者権限または AAA 権限のあるすべてのユーザにより有効化または無効化が可能です。 [リモート認証]：リモート認証ユーザ アカウントは、LDAP、RADIUS、または TACACS+ を通して認証されるユーザ アカウントです。

名前	説明
[サーバ管理] ドロップダウン リスト	次のいずれかのオプションを選択して、該当するアカウントでのサーバの管理方法を選択します。 • すべてのサーバを管理 • 選択されたサーバのみ管理
[アカウント名] フィールド	追加する物理アカウントに割り当てる一意の名前。
[サーバアドレス] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ユーザ ID] フィールド	該当するアカウントにアクセスするためのユーザ名。
[パスワード] フィールド	ユーザ名に対応するパスワード。
[転送タイプ] ドロップダウン リスト	アカウントに使用する転送タイプを選択します。 転送タイプは次のいずれかになります。 • http • https
[ポート] フィールド	サーバ ポート番号。
[説明] フィールド	アカウントの説明。
[連絡先の電子メール] フィールド（オプション）	アカウントの連絡先電子メール アドレス。
[ロケーション] フィールド（オプション）	ロケーション。
[サービス プロバイダー] フィールド（オプション）	サービス プロバイダーの名前（存在する場合）。

ステップ 5 該当するアカウントが [ストレージ] の場合、適切なアカウント タイプ（[NetApp ONTAP]、[NetApp OnCommand]、[EMC VNX]、[EMC VMAX Solutions Enabler]、または [WHIPTAIL]）を選択します。

ステップ 6 [追加] をクリックします。

マルチドメイン マネージャ アカウントの追加

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [マルチドメインマネージャ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[アカウント名] フィールド	該当するマルチドメイン マネージャ アカウントが属するアカウント名を選択します。
[説明] フィールド	（オプション）アカウントの説明。
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	該当するマルチドメイン マネージャ アカウントのアカウント タイプを次の中から選択します。 • [PNSC]：Cisco Prime Network Services Controller アカウント。 • [UCS Central]：Cisco UCS Central アカウント。
[サーバアドレス] フィールド	マルチドメイン マネージャ アカウントを管理するサーバの IP アドレスを入力します。
[アカウント名] フィールド	追加する物理アカウントに割り当てる一意の名前。
[サーバアドレス] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ユーザ ID] フィールド	該当するアカウントにアクセスするためのユーザ名。
[パスワード] フィールド	ユーザ名に対応するパスワード。

名前	説明
[転送タイプ] ドロップダウン リスト	アカウントに使用する転送タイプを選択します。 次のいずれかになります。 • http • https
[ポート] フィールド	サーバポート番号。デフォルトのポートは443です。
[連絡先の電子メール] フィールド	（オプション）アカウントの連絡先電子メールアドレス。
[ロケーション] フィールド	（オプション）ロケーション。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

ネットワーク機器の追加

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [管理するネットワーク機器] タブを選択します。

ステップ 3 [ネットワーク機器の追加] をクリックします。

ステップ 4 [ネットワーク機器の追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポッド] ドロップダウン リスト	ネットワーク要素が属するポッドを選択します。
[デバイスカテゴリ] ドロップダウン リスト	該当するネットワーク要素のデバイスカテゴリを選択します。
[デバイスIP] フィールド	該当するデバイスの IP アドレス。

名前	説明
[プロトコル] ドロップダウン リスト	使用するプロトコルを選択します。 次のいずれかになります。 • telnet • ssh
[ポート] フィールド	使用するポート。
[ログイン] フィールド	ログイン名。
[パスワード] フィールド	ログイン名に対応するパスワード。
[イネーブルパスワード] フィールド	該当するネットワーク要素のイネーブルパスワード。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

DHCP ロギングの有効化

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [ネットワークサービスエージェント] タブを選択します。

ステップ 3 [組み込みネットワークサービス] をクリックします。

ステップ 4 [組み込みネットワークサービス] ダイアログボックスで、[DHCPロギングを有効にする] チェックボックスをオンにします。

接続のテスト

管理するネットワーク機器および物理アカウントの接続をテストできます。

管理するネットワーク機器の接続のテスト

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 [管理するネットワーク機器] タブを選択します。

ステップ 3 接続をテストするポッドを選択します。

ステップ 4 [テスト接続] をクリックします。

物理アカウントへの接続のテスト

Pod へのアカウントの追加後は、いつでも接続をテストできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 テストするアカウントのタイプに対応するタブをクリックします。
たとえば、[物理アカウント] タブまたは [マルチドメインマネージャ] タブをクリックします。

ステップ 3 テーブルで、接続をテストするアカウントの行をクリックします。

ステップ 4 [テスト接続] をクリックします。

ステップ 5 接続テストが完了したら、[閉じる] をクリックします。

次の作業

接続に失敗する場合は、ユーザ名やパスワードなど、アカウントの設定を確認してください。 これらが正しい場合は、ネットワーク接続の問題がないかどうかを確認します。

デバイス検出の有効化

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [物理アカウント] を選択します。

ステップ 2 デバイス検出を確認するアカウントをクリックします。

ステップ 3 [検出されたデバイス] タブを選択します。

ステップ 4 [設定の検出] アイコンをクリックします。 最初の [設定の検出] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 検出を有効にするには、[検出を有効にする] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [設定の検出] ダイアログボックスで、IP アドレス範囲フィールドに入力し、次のフィールドのデフォルト値が環境に適切かどうかを確認します。

名前	説明
[検出を有効にする] チェックボックス	このアカウントのデバイス検出を有効にするために、チェックボックスはデフォルトでオンになっています。
IP範囲	デバイス検出の IP アドレス範囲。
TCPタイムアウト(ミリ秒単位)	TCP タイムアウト（ミリ秒単位）（デフォルト値は 2000 ミリ秒）。
SNMPタイムアウト(ミリ秒単位)	SNMP タイムアウト（ミリ秒単位）（デフォルト値は 1500 ミリ秒）。
SNMPコミュニティストリング	SNMP コミュニティ ストリング（デフォルトは public）。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

第 7 章

仮想インフラストラクチャの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- WMware の管理について，103 ページ
- クラウドの検出と接続の検証，106 ページ
- vCenter プラグインの表示，107 ページ

WMware の管理について

Cisco UCS DirectorCisco UCS Director は、vCenter を介して VMware をサポートします（ESX 3.5、ESX/ESXi 4.x、5.x）。 Cisco UCS Director では、新しく追加されたクラウド アカウントの、既存の仮想マシン（VM）とイメージがすべて自動的に検出されます。 通常、検出プロセスには約 5 分かかります。 VMware クラウドおよび PowerShell エージェントを追加できます。

（注） ここでは、「クラウド」という用語は、1 つの vCenter インストール環境を表します。

クラウドの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [仮想アカウント] を選択します。

ステップ 2 [仮想アカウント] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [クラウドの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[クラウドタイプ] ドロップダウン リスト	VMware を選択します。 （注） VMware を選択すると、次のフィールドが表示されます。 他のクラウド タイプの場合、該当するクラウド タイプに固有のフィールドが表示されます。
[クラウド名] フィールド	クラウド名。 名前に一重引用符を含めることはできません。 （注） 各クラウドの名前は Cisco UCS Director で一意にする必要があります。 クラウドを追加すると、すべてのレポートでクラウドの参照にこのクラウド名が使用されます。
[サーバアドレス] フィールド	vCenter サーバ アドレス。
[サーバのユーザID] フィールド	vCenter サーバのユーザ名。
[サーバのパスワード] フィールド	vCenter サーバのパスワード。
[サーバアクセスポート] フィールド	サーバ ポート番号。
[VMwareデータセンター] フィールド	vCenter アカウントのデータセンター名。 この名前を使用して、指定したポッドのリソースを検出、モニタ、および管理できます。 vCenter アカウント全体が Cisco UCS Director で管理される場合は、このフィールドを空白のままにしてください。
[サーバアクセスURL] フィールド	サーバにアクセスするための URL。
[説明] フィールド	クラウドの説明。
[連絡先の電子メール] フィールド	クラウドの連絡先電子メール アドレス。
[ロケーション] フィールド	ロケーション。
[ポッド] ドロップダウン リスト	統合インフラストラクチャ ポッドを選択します。 ポッド名を選択すると、統合インフラストラクチャ スタックに VMware クラウド アカウントが表示されます。

名前	説明
[サービスプロバイダー] フィールド	サービス プロバイダーの名前。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

PowerShell エージェント インストーラのダウンロード

PowerShell エージェントは、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 64 ビット仮想マシンにインストールされています。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [仮想アカウント] を選択します。

ステップ 2 [PowerShellエージェント] タブを選択します。

ステップ 3 [インストーラのダウンロード] をクリックします。

ステップ 4 [エージェントインストーラのダウンロード] ダイアログボックスで、リストされたインストール要件をシステムが満たしているかどうかをチェックします。 要件を満たしている場合は、[送信] をクリックします。

ステップ 5 要件を満たしている場合は、[送信] をクリックします。
[PSASetup.exeを開く] ダイアログボックスで、実行可能ファイルを保存するように求められます。

ステップ 6 [ファイルの保存] をクリックします。
システムのダウンロード先の場所にファイルが保存されます。

ステップ 7 PSASetup.exe ファイル を Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 64 ビット仮想マシン（VM）にインストールします。

PowerShell エージェントの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [仮想アカウント] を選択します。

ステップ 2 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 3 [エージェントの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[エージェント名] フィールド	エージェント名。
[エージェントアドレス] フィールド	エージェント アドレス。
[エージェントのアクセスポート] フィールド	エージェントのアクセス ポート番号。
[アクセス キー] フィールド	アクセス キー。
[説明] フィールド	エージェントの説明。

クラウドの検出と接続の検証

接続のテスト

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [仮想アカウント] を選択します。

ステップ 2 [仮想アカウント] タブを選択します。

ステップ 3 テストする VMware アカウントを選択します。

ステップ 4 [接続のテスト] をクリックします。

（注） 1 つ以上のクラウド アカウントを Cisco UCS Director に追加した後、[サマリー] タブを使用して、クラウドとそのデータが収集されていることを確認できます。

ステップ 5 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 6 [要約] タブを選択します。

（注） データの自動検出と入力が完了するまで数分かかることがあります。 ステータス詳細を表示するクラウド名を選択します。

vCenter プラグインの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [仮想アカウント] を選択します。

ステップ 2 [プラグイン] タブを選択します。 このタブには、Cisco UCS Director に追加された vCenter に必要なすべてのプラグインが表示されます。

第 8 章

ポリシーの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- ポリシー，109 ページ
- データ コレクション ポリシー，113 ページ
- ストレージ ポリシー，115 ページ

ポリシー

Cisco UCS Director では Self-Service Portal を使用できます。このポータルでは、管理者が設定した定義済みポリシーを使用して、割り当て済みリソースのプールから仮想マシン（VM）がプロビジョニングされます。

ポリシーとは、新しい VM がシステム リソースの可用性に基づいてインフラストラクチャ内でプロビジョニングされる場所と仕組みを決定する一連のルールのことです。

Cisco UCS Director では、VM をプロビジョニングするために、次のポリシーを設定する必要があります。

- コンピューティング
- ストレージ
- ネットワーク
- システム

重要 VM をプロビジョニングするためのポリシーを設定する前に、クラウドアカウントが存在する必要があります。

コンピューティング ポリシー

コンピューティング ポリシーでは、プロビジョニング中に使用される、グループまたはワークロードの要件を満たすコンピューティング リソースを決定します。

管理者は、コンピューティング ポリシーでさまざまな条件を組み合わせ、照合することによって、詳細なポリシーを定義できます。

（注） 条件の組み合わせによっては、Self-Service のプロビジョニング中にホスト マシンが存在しなくなる可能性があるため、コンピューティング ポリシーのすべてのフィールドについて十分に理解することをお勧めします。

コンピューティング ポリシーの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [VMwareコンピューティングポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [コンピューティングポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 （注） この名前はカタログ定義中に使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てを行うクラウドを選択します。
[ホストノードまたはクラスタスコープ] ドロップダウン リスト	導入の適用範囲を選択します。 （注） すべてのオプションを使用するか、選択したオプションを含めるか、または選択したオプションを除外するように指定することで、導入の適用範囲を狭めることができます。 選択した内容に応じて表示される新しいフィールドで、必要なホストまたはクラスタを選択できます。
[リソース プール] ドロップダウン リスト	リソース プールを選択します。

名前	説明
[ESX タイプ] ドロップダウン リスト	ESX インストール タイプとして [ESX]、[ESXi]、または [両方] を選択します。
[ESXバージョン] ドロップダウン リスト	ESX のバージョンを選択します。
[条件の最小値] チェックボックス	満たしたい 1 つ以上の条件に対応するチェックボックスをオンにします。 これらの条件を満たさないホストは除外されます。 複数の条件を選択した場合は、選択したすべての条件を満たす必要があります。
導入オプション	
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティを上書きするには、チェックボックスをオンにします。 CPU とメモリについては、カスタム設定を入力するためのオプションが用意されています。
[vCPU数] フィールド	vCPU のカスタム数。 1 つの VM に対する vCPU の数は、ホスト ノードまたはクラスタの指定適用範囲に含まれるコアの総数を超えないように指定してください。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
[CPU予約(MHz)] フィールド	VM 用に予約する CPU。 この予約は、指定した vCPU の数に左右されます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
[CPUの制限(MHz)] フィールド	VM に対する CPU 制限。 CPU 制限は、ホスト ノードまたはクラスタの指定適用範囲に基づいて決定されます。
[CPU共有] ドロップダウン リスト	CPU 共有の度合い（低、標準、高のいずれか）を選択します。 複数の VM 間で CPU リソースの競合が発生したときに CPU リソースを取得する VM は、この CPU 共有の設定によって決定されます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。

名前	説明
[メモリ] フィールド	VM のカスタム メモリ。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
[メモリ予約(MB)] フィールド	VM 用に予約するメモリ。 この予約は、指定したメモリに左右されます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
[メモリ制限(MHz)] フィールド	VM に対するメモリ制限。 メモリ制限は、ホスト ノードまたはクラスタの指定適用範囲に基づいて決定されます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
[メモリ共有] ドロップダウン リスト	メモリ共有の度合い（低、標準、高のいずれか）を選択します。複数の VM 間でメモリ リソースの競合が発生したときにメモリ リソースを取得する VM は、このメモリ共有の設定によって決定されます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] を選択した場合に表示されます。
サイズ変更オプション	
[VMのサイズ変更を許可] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、プロビジョニング前に VM のサイズを変更したり、既存の VM のサイズを変更できるようになります。
[vCPUの許容値] フィールド	VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズ変更中に使用される vCPU の範囲。 VM のプロビジョニング中またはサイズ変更中に 8 を超す範囲が表示されるのは、 選択されたクラウド（vCenter）が 5 以上で、その VM のバージョンが 8 である場合のみです。 ボックスで指定した値のみが表示されます。 （注） このオプションは、[VMのサイズ変更を許可] を選択した場合に表示されます。

名前	説明
[メモリの許容値(MB単位)] フィールド	VM のプロビジョニング中、または既存の VM のサイズ変更中に使用されるメモリの範囲。 例：512、768、1024、1536、2048、3072、4096 など ボックスで指定した値のみが表示されます。 （注） このオプションは、[VMのサイズ変更を許可] を選択した場合に表示されます。
[フォルダに展開] フィールド	該当するポリシーを使用して作成された VM はカスタム フォルダに展開できます。 Cisco UCS Director では、グループ名または Cisco UCS Director に用意されているマクロから、フォルダ名を自動的に作成できます。 詳細については、『Cisco UCS Director Orchestration Guide（Cisco UCS Director オーケストレーション ガイド）』を参照してください。 ${GROUP_NAME} と指定すると、そのポリシーを使用するグループ名からフォルダが作成されます。 新規のフォルダ名も既存のフォルダ名も指定できます。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

データ コレクション ポリシー

データ コレクション ポリシーを作成して、各 VMware アカウントが vCenter から取得できるパラメータの数を制御できます。 データ コレクション ポリシーで指定された各パラメータは、収集されて Cisco UCS Director の特定の傾向レポートで使用されます。

（注） サポートされる仮想アカウント タイプは、VMware のみとなります。 VMware アカウントが追加されると、デフォルトでは、デフォルトのデータ コレクション ポリシーに関連付けられます。

仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [データコレクションポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[名前] フィールド	データ コレクション ポリシーの名前。 （注） この名前はカタログ定義中に使用されます。
[説明] フィールド	ポリシーの説明。
[アカウントタイプ] ドロップダウン リスト	VMware 仮想アカウントを選択します。
[リソース] ウィンドウ	vCenter パラメータが含まれているデータ コレクション グループを選択します。 たとえば、CPU などです。 鉛筆アイコンをクリックしてデータ コレクション グループを編集します。 [リソースエントリの編集] ダイアログボックスで、[コレクションの有効化] チェックボックスのオン/オフを切り替えてデータ コレクションを有効化または無効化できます。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの関連付け

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [データコレクションポリシーの関連付け] タブを選択します。

ステップ 3 仮想（VMware）アカウントを選択し、[編集] をクリックします。

ステップ 4 [編集] ダイアログボックスで、「仮想アカウントのデータ コレクション ポリシーの設定」セクションで設定したデータ収集ポリシーを [ポリシー] ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。 VMware アカウントがデータ コレクション ポリシーに関連付けられます。

ストレージ ポリシー

ストレージ ポリシーは、データストアの対象範囲、使用するストレージのタイプ、容量の最小条件、遅延などのリソースを定義するポリシーです。

また、ストレージポリシーを使用すると、マルチディスクに対する追加のディスク ポリシーを設定することや、サービス リクエストの作成中に使用するデータストアを選択できるようにすることができます。

複数の VM ディスクのストレージ ポリシー

Cisco UCS Director では、複数のデータストア上で、複数のディスクを使用した VM プロビジョニングを実行できます。

ディスクは、システム、データ、データベース、スワップ、ログという 5 つのタイプに分類されます。 システム ディスク ポリシーを先に設定し、次にそれ以外のディスクを要件に応じて設定できます。 ディスク タイプ別にディスク ポリシーを設定することも、ディスクごとにデフォルトのシステム ディスク ポリシーを選択することも可能です。

（注） マルチディスクに対応したテンプレートのストレージ ポリシーを作成する場合は、第 10 章「マルチディスク VM プロビジョニング」を参照してください。

Cisco UCS Director では、VM プロビジョニングのサービス リクエストを作成しているときにデータストアを選択できます。 また、サービスリクエストの作成中にエンドユーザがデータストアを選択できるかどうかを指定するオプションが用意されています。 サービスリクエストの作成中に VDC に関連付けられたストレージポリシーで指定されている対象範囲条件によって、リストされるデータストアは異なります。

ストレージ ポリシーの追加と設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ストレージ] を選択します。

ステップ 2 [VMwareストレージポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ストレージリソース割り当てポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
[ポリシーの説明] フィールド	導入の適用範囲を絞り込むには、すべてを使用するか、選択されたデータストアを含めるか、または選択されたデータストアの除外を選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
システムディスクスコープ	
[データストアのスコープ] ドロップダウン リスト	導入の適用範囲を絞り込むには、すべてを使用するか、選択されたデータストアを含めるか、または選択されたデータストアの除外を選択します。
[共有データストアのみの使用] チェックボックス	共有データストアのみを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。
ストレージ オプション	
[ローカルストレージの使用] チェックボックス	ローカルストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。
[NFSの使用] チェックボックス	NFS ストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。

名前	説明
[SANの使用] チェックボックス	SANストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。
[条件の最小値] チェックボックス	満たす必要のある条件を 1 つ以上選択するには、チェックボックスをオンにします。 これらの条件を満たさないデータストアは考慮されません。 複数の条件を選択した場合は、それらすべてを満たす必要があります。
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティを上書きするには、チェックボックスをオンにします。 シン プロビジョニングの使用や、カスタム ディスク サイズなどのカスタム設定を入力するオプションがあります。
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	
[ディスクのサイズ変更を許可] チェックボックス	プロビジョニング前にエンドユーザがVMディスク サイズを指定できるようにするには、チェックボックスをオンにします。
[ディスクの許容値(GB単位)] フィールド	VMをプロビジョニングする際に指定されるディスク サイズ値のカスタム範囲。 たとえば、1、5、10、50、100、500、1024、5120、10240 などです。 このオプションは、[ディスクのサイズ変更を許可] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します] チェックボックス	サービス リクエストの作成時にエンドユーザがデータストアを選択できるようにするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [追加のディスクポリシー] ペインで、設定するディスク タイプを選択します。

ステップ 7 [編集]（鉛筆）をクリックしてディスク タイプを編集します。

（注） デフォルトでは、ディスクのディスク ポリシーは [システムディスクポリシー] の内容と同じになります。

ステップ 8 [ポリシーエントリの編集] ダイアログボックスで、[システムディスクポリシーと同じ] チェックボックスをオフにしてディスク ポリシーを設定します。

ステップ 9 [送信] をクリックします。

ステップ 10 [エントリの編集] ダイアログボックスで、追加のディスク ポリシーを設定します。

ステップ 11 [送信] をクリックします。

（注） 追加のディスク ポリシーを使用して作成したストレージポリシーを使用するには、VM プロビジョニングに使用される VDC にポリシーを関連付ける必要があります。

ポリシーで設定した追加のディスク ポリシーを使用する場合は、マルチディスク テンプレート用のカタログ作成時に [単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックスをオフにしてください。 カタログ作成の詳細については、カタログの管理, （145 ページ）を参照してください。

仮想ストレージのカタログ

仮想ストレージのカタログを使用してストレージ ポリシーをカスタマイズできます。 仮想ストレージのカタログを使用すると、複数のストレージ ポリシーを選択し、カスタム ストレージ エントリ名を割り当てることができます。

ストレージ カタログは、カタログの作成中に有効化することによってカタログに登録されます。カタログを使用してサービス リクエストを発行するときには、[ストレージ階層] の選択肢が示されます。

仮想ストレージのカタログの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ストレージ] を選択します。

ステップ 2 [仮想ストレージのカタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [仮想ストレージのカタログ] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 この名前はカタログのカスタムアクションの定義中に使用されます。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	クラウド アカウントを選択します。

名前	説明
[エントリ番号の選択] ドロップダウン リスト	エントリ番号を選択します。 範囲は 1 ～ 10 です。 選択する番号に応じて、後続のダイアログボックスにストレージ エントリ オプションが表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [エントリの追加] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
ストレージ エントリ #1	
[ストレージエントリ名] フィールド	ストレージ エントリの名前。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。
ストレージ エントリ #2	
[ストレージエントリ名] フィールド	2 番目のポリシーのストレージ エントリ名。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	ストレージ ポリシーを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

次の作業

- カタログの作成時に仮想ストレージのカタログをマップできます。

  「カタログの管理」を参照してください（xref 追加予定）。
- サービス リクエストの作成時にストレージ階層オプションを表示できます。

  「Self-Service のプロビジョニングの使用方法」を参照してください（xref 追加予定）。

ネットワーク ポリシー

ネットワーク ポリシーには、ネットワーク設定、DHCP、スタティック IP などのリソースと、このポリシーを使用してプロビジョニングされる VM 用に複数の vNIC を追加するオプションが含まれます。

静的 IP プール ポリシーの追加

必要に応じて、静的 IP プール ポリシーを設定してネットワーク ポリシーで使用できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ネットワーク] を選択します。

ステップ 2 [静的IPプールポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [静的IPプールポリシー情報] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。

ステップ 5 [静的IPプール] セクションで [追加]（+）をクリックして、複数の静的 IP プールを追加して設定します。

ステップ 6 [静的IPプールへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[静的IPプール] フィールド	静的 IP プール。 例：10.5.0.1 ～ 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20 ～ 10.5.1.70
[サブネットマスク] フィールド	プールのサブネットワーク マスク。 例：255.255.255.0
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	該当するネットワークのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

ステップ 8 [静的IPポリシー情報] ダイアログボックスで [送信] をクリックします。

ネットワーク ポリシーの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー] > [仮想/ハイパーバイザ ポリシー] > [ネットワーク] を選択します。

ステップ 2 [VMWareネットワークポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ネットワークポリシーの情報] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ネットワーク ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ネットワーク ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	ポリシーが適用されるクラウドアカウントを選択します。
[エンドユーザにオプションのNICの選択を許可] チェックボックス	サービス リクエスト導入設定の作成時に vNIC を選択できるようにする場合、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [VMネットワーク] セクションで [追加]（+）をクリックして、複数の vNIC を追加して設定します。 これらの vNIC は、該当するポリシーを使用してプロビジョニングされる VM に適用されます。

（注） プロビジョニングまたは検出された VM の vNIC を VM アクションによって追加または置換するには、vNIC を設定する必要があります。

ステップ 6 [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[NICエイリアス] フィールド	新しい NIC の名前。

名前	説明
[必須] チェックボックス	[ネットワークポリシー] ダイアログボックスで [エンドユーザにオプションのNICの選択を許可] チェックボックスをオンにした場合、このチェックボックスはあらかじめオンになっています。 [ネットワークポリシー] ダイアログボックスでオフにし、このチェックボックスもオフにした場合、[NICエイリアス] フィールドはオプションになります。 （注） 少なくとも 1 つの NIC の [必須] オプションをオンにする必要があります。 [必須] フィールドをオンにした NIC が VM プロビジョニングに使用され、VM サービス リクエストの作成時にユーザにオプションは提供されません。
[エンドユーザによるポートグループ選択を許可] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、プロビジョニングするときに、エンドユーザがポート グループを選択できるようになります。
[テンプレートからのアダプタのコピー] チェックボックス	カスタム設定が必要でない場合は、チェックボックスをオンにします。 カスタム設定を使用する場合は、オフにします。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します。 テンプレート設定と同じアダプタ タイプをユーザが希望する場合は、該当するオプションをオンにします。 （注） [テンプレートからのアダプタのコピー] オプションをオンにした場合、このオプションは表示されません。

ステップ 7 [ポート グループ] セクションで [追加]（+）をクリックします。 [ポートグループへのエントリの追加] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 8 [選択] をクリックしてポート グループ名を選択します。

ステップ 9 [IPアドレスのタイプの選択] ドロップダウン フィールドから [DHCP]（デフォルト）または [スタティック] を選択します。

a) [スタティック] を選択した場合、[エントリの追加] ダイアログボックスが表示されます。 [IP プール ポリシー]（デフォルト）または [インライン IP プール] を選択します。
[IP プール ポリシー] を選択した場合は、[静的IPプールの選択] をクリックします。 [選択] ダイアログボックスで、設定済みの静的 IP プールのリストから選択します。 設定済みの静的 IP

プールが存在しない場合の詳細については、「Adding a Static IP Policy（静的 IP ポリシーの追加）」を参照してください。

b) [インライン IP プール] を選択した場合は、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[静的IPプール] フィールド	静的 IP プール。 例：10.5.0.1 ～ 10.5.0.50、10.5.0.100、10.5.1.20 ～ 10.5.1.70
[サブネットマスク] フィールド	プールのサブネットワーク マスク。 例：255.255.255.0
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	該当するネットワークのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

ステップ 10 [送信] をクリックします。

ステップ 11 [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで [送信] をクリックします。

ステップ 12 [ネットワークポリシーの情報] ダイアログボックスで [送信] をクリックします。

ネットワーク プロビジョニング ポリシー

ネットワーク プロビジョニング ポリシーは、オーケストレーション ワークフロー タスクで使用されます。 このポリシーは、ネットワーク内のスイッチに対して、レイヤ 2 ネットワーク構成とアクセス コントロール リスト（ACL）を定義するポリシーです。

ネットワーク プロビジョニング ポリシーの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ネットワーク] を選択します。

ステップ 2 [ネットワークプロビジョニングポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
一般情報	
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。

名前	説明
L2 ネットワーク構成 VLAN	
[プライベートVLANの使用] チェックボックス	オンにすると、次のフィールドに値が自動的に入力されます。 • [プライベートVLAN タイプ] : [コミュニティ] • [プライマリVLAN ID]：0 • [セカンダリVLANの範囲 - 開始ID]：500 • [セカンダリVLANの範囲 - 終了ID]：1000
[VLAN範囲 - 開始ID] フィールド	VLAN 範囲の開始 ID。 デフォルトの範囲の開始 ID は 500 です。
[VLAN範囲 - 終了ID] フィールド	VLAN 範囲の終了 ID。 デフォルトの範囲の終了 ID は 1000 です。
[基本プロファイル名] フィールド	VLANの基本プロファイル名。 このプロファイルには、ネストされたプロファイル割り当てが 1 つ以上含まれます。
アクセス コントロール リスト	
[ACLタイプ] ドロップダウン リスト	現在使用可能なオプションは [シンプル]（デフォルト）のみです。 VLAN で ICMP を許可するには、チェックボックスをオンにします。

名前	説明
[TCPポートへの着信トラフィックを許可]フィールド	[選択] ボタンをクリックします。 [項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。 次のオプションを使用できます。 • FTP • SSH • Telnet • SMTP • POP3 • HTTP • HTTPS • MySQL 必要なオプションの横のチェックボックスをオンにするか、[すべて選択] ボタンをクリックします。 前のエントリをクリアするには、[すべてオフ] ボタンをクリックします。
[UDPポートへの着信トラフィックを許可] フィールド	[選択] ボタンをクリックします。 [項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。 次のオプションを使用できます。 • SNMP • Syslog 必要なオプションの横のチェックボックスをオンにするか、[すべて選択] ボタンをクリックします。 前のエントリをクリアするには、[すべてオフ] ボタンをクリックします。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

VLAN プール ポリシー

VLAN プール ポリシーは、ポッドの VLAN 範囲を定義するポリシーです。 このポリシーは、ポリシーで指定された定義済みの範囲を起点とした、空いている VLAN ID を生成するオーケストレーション ワークフローで使用されます。

VLAN プール ポリシーの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ネットワーク] を選択します。

ステップ 2 [VLANプールポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポッド] ドロップダウン リスト	ポッドを選択します。
[ポリシー名] フィールド	ポリシー名。 このポリシー名は、オーケストレーション ワークフローで使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VLAN範囲] フィールド	VLAN 範囲。 たとえば、1、3、5 ～ 15。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

システム ポリシー

システム ポリシーは、使用するテンプレート、時間帯、OS 固有情報など、システム固有の情報を定義するポリシーです。

システム ポリシーの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [VMwareシステムポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [システム ポリシー情報] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 この名前はカタログ定義中に使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[VM名のテンプレート] フィールド	使用する VM 名テンプレート。 Cisco UCS Director では、VM 名を自動的に作成できます。 VM名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。 各変数は、**${VARIABLE_NAME}** という形式にする必要があります。 例：vm-${GROUP_NAME}-SR${SR_ID}

ステップ 5 必要に応じて、[VM名のテンプレート] の次の機能を選択します。

名前	説明
[エンドユーザVM名のプレフィクス] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM プロビジョニングのサービスリクエストを作成するとき、ユーザがVM名のプレフィクスを追加できるようになります。
[導入後に電源をオンにします。] チェックボックス	該当するポリシーを使用して導入されたすべてのVMの電源が自動的にオンになるようにするには、チェックボックスをオンにします。
[ホスト名のテンプレート] フィールド	一連の変数名を使用して自動的に作成できる VM ホスト名。 各変数は、**${VARIABLE}** という形式にする必要があります。

ステップ 6 [ホスト名のテンプレート] の変数名を選択します。 例：${VMNAME}

ステップ 7 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[DNSドメイン] フィールド	VM 用に使用する IP ドメイン。
[Linuxタイムゾーン] ドロップダウン リスト	タイムゾーンを選択します。
[DNSサフィックスリスト] フィールド	DNS ルックアップ用に設定する DNS サフィクス。 サフィクスが複数ある場合は、それぞれをカンマで区切ります。

名前	説明
[DNSサーバリスト] フィールド	DNS サーバの IP アドレスのリスト。 サーバが複数ある場合はカンマで区切ります。
[VMイメージのタイプ] ドロップダウン リスト	VM にインストールするイメージの OS を選択します。 [WindowsおよびLinux] または [Linuxのみ] を選択します。
Windows	
[製品ID] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。 製品 ID またはライセンス キーは、このフィールドまたは OS ライセンス プールで入力できます。 OS ライセンス プールで入力したキーは、ここで入力したキーよりも優先されます。
[ライセンス所有者名] フィールド	Windows ライセンス所有者名。
[組織] フィールド	VM 内で設定する会社名。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	シート別またはサーバ別を選択します。
[ライセンスユーザ数]	ライセンス ユーザ数または接続数。
[WINSサーバリスト] フィールド	WINS サーバの IP アドレス。 値が複数ある場合はカンマで区切ります。
[自動ログ□ン] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、自動ログオンが有効になります。
[自動ログオン回数] フィールド	自動ログオンの実行回数。
[管理者パスワード] フィールド	管理者アカウントのパスワード。
[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リスト	[ドメイン] または [ワークグループ] を選択します。
[ワークグループ] フィールド	ワークグループの名前。 このオプションは、[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リストの値として [ワークグループ] が選択されている場合に表示されます。

名前	説明
[ドメイン] フィールド	Windows ドメインの名前。 （注） このオプションは、[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リストの値として [ドメイン] が選択されている場合に表示されます。
[ドメインユーザ名] フィールド	Windows ドメイン管理者のユーザ名。 （注） このオプションは、[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リストの値として [ドメイン] が選択されている場合に表示されます。
[ドメインパスワード] フィールド	Windows ドメイン管理者のパスワード。 （注） このオプションは、[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウン リストの値として [ドメイン] が選択されている場合に表示されます。
[Windowsタイムゾーン] ドロップダウン リスト	タイムゾーンを選択します。
[VMの注記の定義] チェックボックス	VM に注記を指定するには、チェックボックスをオンにします。 注記の一部としてメモやカスタム属性を指定できます。 このチェックボックスをオンにした場合は、次のフィールドに入力します。 • [VMの注記] フィールド VM の説明を入力します。 • [カスタム属性] [追加]（+）をクリックして、[名前]、[タイプ]、および [値] を指定します。 （注） VM 注記の一部として追加した情報は、VM の [VMの詳細] ページに表示されます。

ステップ 8 [追加] をクリックします。

OS ライセンス

Cisco UCS Director では、ユーザが Windows OS ライセンスを追加できます。 これらのライセンスは、カタログの作成時に Windows イメージへマッピングされます。 VMware システム ポリシーで Windows イメージに Windows OS ライセンスを提供することも、カタログの作成時に OS バージョン フィールドからキーを選択することもできます。

OS ライセンスの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [OSライセンス] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ライセンスの詳細の追加] ページで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Windowsのバージョン名] フィールド	Windows のバージョン名。
[ライセンス] フィールド	Windows 製品 ID またはライセンス キー。 このフィールドでは KMS クライアント セットアップ キーが許容されます。
[ライセンス所有者名] フィールド	Windows ライセンス所有者名。
[組織] フィールド	VM 内で設定する会社名。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	シート別またはサーバ別を選択します。
[ライセンス取得済みのユーザ数] フィールド	ライセンス ユーザ数または接続数。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

第 9 章

仮想データセンターの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 仮想データセンターの管理について，131 ページ
- VDC アクション，132 ページ
- 仮想データセンター サービス プロファイル，141 ページ

仮想データセンターの管理について

仮想データセンター（VDC）は、仮想リソース、運用の詳細、ルール、およびポリシーを組み合わせて特定のグループ要件を管理する環境です。

グループまたは組織は、複数の VDC、 イメージ、テンプレート、およびポリシーを管理できます。 組織では、VDC レベルでクォータを割り振り、個々のグループのリソース制限を割り当てることができます。

また、VDC に固有の承認者を定義することもできます。 特定の VDC の承認者は、ユーザからの VM プロビジョニング リクエストを承認する必要があります。

（注） Cisco UCS Director にはデフォルト VDC があり、検出された VM はすべてこのデフォルト VDC に属します。 検出された VM とは、Cisco UCS Director 以外で作成された VM または Cisco UCS Director のインストール前に vCenter ですでに作成されていた VM を指します。このような VM は、 Cisco UCS Director によって自動的に検出され、デフォルト VDC に追加されます。

サービス リクエストを使用してプロビジョニングされる VM は、VDC に関連付けることができます。 サービス リクエストを作成するときに、その VM がどの VDC に基づいてプロビジョニングされるかを選択できます。 特定のグループで利用可能な VDC のリストを確認し、VM をプロビジョニングするときに要求される VDC を選択できます。

VDC アクション

仮想データセンターの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [VDC] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [VDC の追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDC名] フィールド	VDC の名前。 一度入力した名前の変更はできません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、以後の導入に、その VDC を使用できなくなります。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効化されます。 チェックボックスをオフにすると、以後の導入に、その VDC を使用できるようになります。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるグループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるクラウドを選択します。
承認者および連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する 2 番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。その VDC を使用した VM プロビジョニングに関する通知を受ける個人。

名前	説明
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知のコピーを送信する別の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC のサービス リクエスト サマリーと電子メール ページにコストが表示されなくなります。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されるポリシーを選択します。 選択したワークフローは、VDC 内の VM 用のアクション ボタンとして表示されます。
End User Self-Service ポリシー	
[VMの電力管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するすべての VM 電力管理アクションが有効になります。
[VMのサイズ変更] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM サイズ変更アクションが有効になります。
[VMスナップショット管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対するすべてのストレージ スナップショット アクションが有効になります。

名前	説明
[VMの削除] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM 削除アクションが有効になります。
[VMディスク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM ディスク管理アクションが有効になります。
[VMネットワーク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するネットワーク管理が有効になります。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	非アクティブな VM を削除する前に待機する日数を選択します。 非アクティブな状態の VM とは、電源オンの状態でないということです。 （注） ここでの選択内容を想定どおりに機能させるために、[管理] > [システム] の [詳細な制御] タブで [非アクティブな VMをVDCポリシーに基づいて削除] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。 詳細については、「詳細な制御の有効化」を参照してください。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

仮想データセンターの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [すべてのユーザグループ] ペインで、表示する VDC を含む VDC グループを選択します。

ステップ 3 [VDC] タブを選択します。

ステップ 4 メインの表示ペインで、表示する VDC を選択します。

ステップ 5 [表示] をクリックして、[VDCの詳細] ページを開きます。

仮想データセンターの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [すべてのユーザグループ] ペインで、編集する VDC グループを選択します。

ステップ 3 [VDC] タブを選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 [vDCの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[vDC名] フィールド	VDC の名前。 一度入力した名前の変更はできません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、以後の導入に、その VDC を使用できなくなります。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効化されます。チェックボックスをオフにすると、以後の導入に、その VDC を使用できるようになります。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるグループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるクラウドを選択します。
承認者および連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する 2 番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。その VDC を使用した VM プロビジョニングに関する通知を受ける個人。

名前	説明
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知のコピーを送信する別の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコンピューティング ポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC のサービス リクエスト サマリーと電子メール ページにコストが表示されなくなります。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されるポリシーを選択します。 選択したワークフローは、VDC 内の VM 用のアクション ボタンとして表示されます。
End User Self-Service ポリシー	
[VMの電力管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するすべての VM 電力管理アクションが有効になります。
[VMのサイズ変更] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM サイズ変更アクションが有効になります。
[VMスナップショット管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対するすべてのストレージ スナップショット アクションが有効になります。

名前	説明
[VMの削除] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM 削除アクションが有効になります。
[VMディスク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM ディスク管理アクションが有効になります。
[VMネットワーク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するネットワーク管理が有効になります。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	非アクティブな VM を削除する前に待機する日数を選択します。 非アクティブな状態の VM とは、電源オンの状態でないということです。 （注） ここでの選択内容を想定どおりに機能させるために、[管理] > [システム] の [詳細な制御] タブで [非アクティブな VMをVDCポリシーに基づいて削除] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。 詳細については、「詳細な制御の有効化」を参照してください。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

仮想データセンターの削除

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [すべてのユーザグループ] ペインで、削除する VDC グループを選択します。

ステップ 3 [VDC] タブを選択します。

ステップ 4 メイン表示ペインで、削除する VDC を選択します。

ステップ 5 [削除] をクリックします。

仮想データセンターのクローニング

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [すべてのユーザグループ] ペインで、クローニングする必要がある VDC グループを選択します。

ステップ 3 [VDC] タブを選択します。

ステップ 4 メイン表示ペインで、クローニングする VDC を選択します。

ステップ 5 [クローン] をクリックします。

ステップ 6 [vDCの複製] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDC名] フィールド	VDC の名前。 一度入力した名前の変更はできません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、以後の導入に、その VDC を使用できなくなります。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効化されます。チェックボックスをオフにすると、以後の導入に、その VDC を使用できるようになります。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるグループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるクラウドを選択します。
承認者および連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する 2 番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。その VDC を使用した VM プロビジョニングに関する通知を受ける個人。

名前	説明
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知のコピーを送信する別の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコンピューティングポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDCに適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC のサービス リクエスト サマリーと電子メール ページにコストが表示されなくなります。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されるポリシーを選択します。 選択したワークフローは、VDC 内の VM 用のアクション ボタンとして表示されます。
End User Self-Service ポリシー	
[VMの電力管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するすべての VM 電力管理アクションが有効になります。
[VMのサイズ変更] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM サイズ変更アクションが有効になります。
[VMスナップショット管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対するすべてのストレージ スナップショット アクションが有効になります。

名前	説明
[VMの削除] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM 削除アクションが有効になります。
[VMディスク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対する VM ディスク管理アクションが有効になります。
[VMネットワーク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対するネットワーク管理が有効になります。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	非アクティブな VM を削除する前に待機する日数を選択します。 非アクティブな状態の VM とは、電源オンの状態でないということです。 （注） ここでの選択内容を想定どおりに機能させるために、[管理] > [システム] の [詳細な制御] タブで [非アクティブな VMをVDCポリシーに基づいて削除] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。 詳細については、「詳細な制御の有効化」を参照してください。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

仮想データセンターのアプリケーション カテゴリの管理

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [すべてのユーザグループ] ペインで、VDC を含む VDC グループを選択します。

ステップ 3 [VDC] タブを選択します。

ステップ 4 メイン表示ペインで、編集する VDC を選択します。

ステップ 5 [カテゴリの管理] をクリックします。

ステップ 6 [アプリケーションカテゴリの編集] ダイアログボックスで、システム ポリシー、コンピューティング ポリシー、ネットワーク ポリシー、またはストレージ ポリシーを任意で変更する場合に適

用するいずれかのフィールドを編集します。 コストモデルとスマート割り当てポリシーを変更することもできます。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

仮想データセンター サービス プロファイル

この機能は VDC の追加に似ていますが、[vDCサービスプロファイル] で作成された VDC がオーケストレーション ワークフローで使用されます。 この機能により、ワークフロー タスクで VDC を作成するときに使用できる、ゴールド、シルバー、ブロンズの各 VDC を作成できます。

仮想データセンター サービス プロファイルの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [vDCサービスプロファイル] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [vDCサービスプロファイルの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDCプロファイル名] フィールド	VDC プロファイルの名前。 一度入力した名前の変更はできません。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、以後の導入に、その VDC を使用できなくなります。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効化されます。 チェックボックスをオフにすると、以後の導入に、その VDC を使用できるようになります。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるグループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるクラウドを選択します。
承認者および連絡先	

名前	説明
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要がある2番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。その VDC を使用した VM プロビジョニングに関する通知を受ける個人。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知のコピーを送信する別の電子メール。
ポリシー	
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるコンピューティング ポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC サービス プロファイルに適用できるコスト モデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC サービス プロファイルのサービス リクエスト サマリーと電子メールページにコストが表示されなくなります。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されるポリシーを選択します。 選択したワークフローは、VDC 内の VM 用のアクション ボタンとして表示されます。
End User Self-Service オプション	

名前	説明
[VMの電力管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対して、すべての VM 電力管理アクションが有効になります。
[VMのサイズ変更] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対して、VM サイズ変更アクションが有効になります。
[VMスナップショット管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対して、すべてのストレージスナップショット アクションが有効になります。
[VMの削除] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対して、VM 削除アクションが有効になります。
[VMディスク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC の VM に対して、VM ディスク管理アクションが有効になります。
[VMネットワーク管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対して、ネットワーク管理が有効になります。
[非アクティブなVMを削除するまでの期間] ドロップダウン リスト	非アクティブな VM を削除する前に待機する日数を選択します。非アクティブな状態の VM とは、電源オンの状態でないということです。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

第 10 章

カタログの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- カタログの管理について，145 ページ
- カタログのパブリッシング，146 ページ
- 詳細カタログのパブリッシングについて，151 ページ
- 詳細カタログのパブリッシング，151 ページ
- カタログの表示，152 ページ
- カタログの編集，153 ページ
- カタログの削除，158 ページ
- カタログのクローニング，158 ページ
- 導入のためのホストへのアクセス，159 ページ

カタログの管理について

定義済みカタログ項目を使用して仮想マシン（VM）をセルフプロビジョニングできます。 カタログ項目はシステム管理者が作成します。 カタログ項目により、クラウド名やグループ名などの VM にバインドされるパラメータが定義されます。

カタログのパブリッシング

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） 一度作成したカタログの名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかになります。 • 標準：クラウドのリストからイメージを使用してVMプロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。 • 詳細：カタログ項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。 • サービスコンテナ：カタログ項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。 • VDI：カタログ項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログをイメージに関連付けるアイコンをリストから選択します。 このカタログを使用してサービスリクエストを作成しているときにこのアイコンが表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、すべてのグループがこのカタログを使用できるようになります。 他のグループで使用できないようにするには、チェックボックスをオフにします。

名前	説明
[選択されたグループ]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスから追加したグループのチェックボックスをオンにします。選択したグループでは、このカタログを使用して新しい VM をプロビジョニングします。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニングのイメージを含むクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows、Linux、その他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。
[Windowsラインセンスプール] フィールド	Windows ライセンスを選択します。 （注） このオプションは、Windows イメージを選択した場合に表示されます。
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	単一のデータストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されたデータストアの使用を選択することもできます。 複数のディスク ストレージ ポリシー作成の詳細については、「ポリシーの管理」（8-1ページ）を参照してください。 （注） このオプションは、選択したテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	リストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [サービスコンテナ] の場合に表示されます。
[XenDesktopカタログ] ドロップダウン リスト	Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用のカタログのリストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [VDI] の場合に表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知する担当者のメールアドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング時に VM にインストールされている OS のタイプを選択します。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。
[アプリケーションの指定]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスからのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。 これらのアプリケーションは、プロビジョニング中に VM にインストールされます。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。
[アプリケーションコード] フィールド	VM 名で使用されるアプリケーション コード。アプリケーション コードは 1 ～ 4 文字を指定できます（例：W2K3、DB、WS）。 アプリケーション コードは、変数 ${APPCODE} を使用して、VM 名のシステム ポリシーで使用できます。 たとえば、VM 名テンプレートが vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE} の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされる VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	VM アクセス クレデンシャル（共有）の取得をユーザに許可するかどうかを選択します。

名前	説明
[ユーザ ID] フィールド	ユーザ ID。 （注） このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 （注） このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

ステップ 9 [次へ] をクリックします。

ステップ 10 [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM プロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローが有効になります。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニングの定義済みワークフローを選択します。 （注） このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション]をオンにした場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれるアプリケーションのコスト。
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	このカタログに対する、非アクティブな状態の VM の毎時または毎月のコスト。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

ステップ 12 [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM への Web アクセスが有効になります。 チェックボックスをオフにすると、VM への Web アクセスが無効になります。
[URL] フィールド	VM の URL。 （注） このオプションは、[Webアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[Web アクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM へのリモート デスクトップ アクセスが有効になります。 チェックボックスをオフにすると、VM へのリモート デスクトップ アクセスが無効になります。
[サーバ] フィールド	リモート アクセス用のサーバの IP アドレス。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ポート] フィールド	リモート アクセス用のサーバのポート番号。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモートアクセスに対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップ アクセス設定] をオンにした場合に表示されます。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。

ステップ 14 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。

ステップ 15 [送信] をクリックします。

詳細カタログのパブリッシングについて

カタログタイプとして[詳細]を選択した場合は、エンドユーザにワークフローカタログをプロビジョニングすることができます。エンドユーザは、ワークフローを実行するサービスリクエスト中に、これらのカタログを使用できます。 詳細カタログ項目は、グループ名やワークフローなどのパラメータを定義して作成します。

詳細カタログのパブリッシング

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] をクリックします。

ステップ 4 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
カタログ タイプ	[詳細] を選択します。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログを画像に関連付けるアイコンを選択します。 このカタログを使用してサービスリクエストを作成しているときにアイコンが表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、すべてのグループがこのカタログを使用できるようになります。 他のグループで使用できないようにするには、チェックボックスをオフにします。

名前	説明
選択されたグループ	[選択] をクリックして、次の操作を実行します。 **1** （オプション）[すべて選択] をクリックしてすべてのカテゴリを選択するか、[すべてオフ] をクリックしてすべてのカテゴリを選択解除します。 **2** [項目の選択] ダイアログボックスで、追加する適切なグループを選択します。 選択したグループでは、このカタログを使用して新しい VM をプロビジョニングできます。 **3** [選択] をクリックして、カテゴリの選択を終了します。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [vApp ワークフロー] ペインで、[ワークフロー選択] をクリックします。

ステップ 7 [選択] ダイアログボックスで、使用するワークフローの横のチェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [選択] をクリックします。

ステップ 9 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。

ステップ 10 [送信] をクリックします。

カタログの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 表示するカタログの名前を選択します。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

カタログの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 編集するカタログの名前を選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 [カタログの修正] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） 一度作成したカタログの名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかになります。 • 標準：クラウドのリストからイメージを使用してVMプロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。 • 詳細：カタログ項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。 • サービスコンテナ：カタログ項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。 • VDI：カタログ項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログをイメージに関連付けるアイコンをリストから選択します。 このカタログを使用してサービス リクエストを作成しているときにこのアイコンが表示されます。

名前	説明
[すべてのグループに適用] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、すべてのグループがこのカタログを使用できるようになります。他のグループで使用できないようにするには、チェックボックスをオフにします。
[選択されたグループ]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスから追加したグループのチェックボックスをオンにします。選択したグループでは、このカタログを使用して新しい VM をプロビジョニングします。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニングのイメージを含むクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows、Linux、その他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。
[Windowsラインセンスプール] フィールド	Windows ライセンスを選択します。 （注） このオプションは、Windows イメージを選択した場合に表示されます。
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	単一のデータストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されたデータストアの使用を選択することもできます。 複数のディスク ストレージ ポリシー作成の詳細については、「ポリシーの管理」（8-1ページ）を参照してください。 （注） このオプションは、選択したテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	リストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [サービスコンテナ] の場合に表示されます。

名前	説明
[XenDesktopカタログ] ドロップダウン リスト	Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用のカタログのリストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [VDI] の場合に表示されます。

ステップ 6 [次へ] をクリックします。

ステップ 7 [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知する担当者のメール アドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング時に VM にインストールされている OS のタイプを選択します。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。
[アプリケーションの指定] チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスからのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。 これらのアプリケーションは、プロビジョニング中に VM にインストールされます。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。
[アプリケーションコード] フィールド	VM名で使用されるアプリケーション コード。アプリケーション コードは 1 ～ 4 文字を指定できます（例：W2K3、DB、WS）。 アプリケーション コードは、変数 ${APPCODE} を使用して、VM 名のシステム ポリシーで使用できます。 たとえば、VM 名テンプレートが vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE} の場合、システム ポリシーを使用してプロビジョニングされる VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。

ステップ 8 [次へ] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	VM アクセスクレデンシャル（共有）の取得をユーザに許可するかどうかを選択します。
[ユーザ ID] フィールド	ユーザ ID。 （注） このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 （注） このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

ステップ 10 [次へ] をクリックします。

ステップ 11 [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM プロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローが有効になります。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニングの定義済みワークフローを選択します。 （注） このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション]をオンにした場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれるアプリケーションのコスト。
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	このカタログに対する、非アクティブな状態の VM の毎時または毎月のコスト。

ステップ 12 [次へ] をクリックします。

ステップ 13 [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM への Web アクセスが有効になります。チェックボックスをオフにすると、VM への Web アクセスが無効になります。
[URL] フィールド	VM の URL。 （注） このオプションは、[Webアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[Web アクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM へのリモート デスクトップ アクセスが有効になります。チェックボックスをオフにすると、VM へのリモート デスクトップ アクセスが無効になります。
[サーバ] フィールド	リモート アクセス用のサーバの IP アドレス。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ポート] フィールド	リモート アクセス用のサーバのポート番号。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモートアクセスに対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。

ステップ 14 [次へ] をクリックします。

ステップ 15 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。

ステップ 16 [送信] をクリックします。

カタログの削除

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 削除するカタログの名前を選択します。

ステップ 4 [削除] をクリックします。

カタログのクローニング

クローン機能を使用してカタログ項目をクローニングできます。 クローニングするカタログ項目を選択すると、カタログの [名前] と [説明] を除き、既存のプロパティがすべて新しいカタログにコピーされます。 [名前] と [説明] を定義した後で、他のプロパティを変更できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 クローニングするカタログの名前を選択します。

ステップ 4 [クローン] をクリックします。

ステップ 5 [カタログの複製] ダイアログボックスで、カタログの名前と説明を入力します。

ステップ 6 必要に応じてカタログの詳細を編集します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

導入のためのホストへのアクセス

カタログ項目を選択すると、導入可能なホストのアセスメントを行い、ホストを除外する場合はその理由を入力できます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [カタログエントリ] でアセスメントの対象を選択します。

ステップ 4 [導入可能性に関するアセスメント] をクリックします。

第 11 章

Self-Service のプロビジョニングの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- Self-Service のプロビジョニングについて，161 ページ
- サービス リクエストについて，161 ページ
- サービス リクエスト ワークフローと詳細，167 ページ
- サービス リクエストのスケジュール設定について，170 ページ
- サービス リクエストの再送信について，171 ページ
- その他のサービス リクエスト機能，172 ページ
- サービス リクエストの承認プロセス，174 ページ
- サービス リクエストの予算，177 ページ

Self-Service のプロビジョニングについて

Self-Service のプロビジョニングを使用して、仮想マシン（VM）をプロビジョニングすることができます。 ただし、VM をプロビジョニングする前に、サービス リクエストを作成する必要があります。 このアクションによって VM 作成ワークフローが開始されます。このワークフローには、予算の検証、動的リソース割り当て、承認、プロビジョニング、ライフサイクルの設定、サービス リクエストのステータスの通知が含まれます。

サービス リクエストについて

セルフサービス プロビジョニング機能を使用してサービス リクエストを作成し、仮想マシン（VM）、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングできます。 サービス リクエスト プロセスでは VM 作成用のプロビジョニング ワークフローを作成しますが、これには次のアクションが含まれます。

- 予算の検証

- 動的なリソース割り当て
- 承認
- プロビジョニング
- ライフサイクルの設定および通知

VM をプロビジョニングするまたはオーケストレーション ワークフローを実行するには、最初にサービス リクエストを作成する必要があります。 管理者または該当のユーザがサービス リクエストを承認すると、VM がプロビジョニングされます。 VM はただちに承認することも、オリジナルのリクエストから 90 日以内に承認するようにスケジュールすることもできます。

（注） サービス リクエスト承認プロセスはオプションです。

管理者はオーケストレーション ワークフローをカタログとしてセルフサービス ポータルに提供できます。 サービス リクエストの承認プロセスは 1 人または 2 人のユーザによる承認が必要です。このようなシナリオでは、VM をプロビジョニングするには管理者および IT 管理者がリクエストを承認する必要があります。

標準カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カタログ選択リクエスト] ペイン	
[グループの選択] ドロップダウン リスト	新しい VM プロビジョニングの対象となるグループを選択します。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログ タイプを選択します。 次のいずれかになります。 • 標準 • 詳細 • サービスコンテナ • VDI （注） [詳細] はオーケストレーション ワークフローに使用されます。
[カタログの選択] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニングに使用されるカタログを選択します。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [導入設定] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	VM をプロビジョニングする VDC を選択します。 VDC は管理者が定義します。
[VM名またはVMプレフィクス] フィールド	VM 名または VM プレフィクス。
[コメント] フィールド	導入の設定に関するコメント。
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	[現在] または [あとで] を選択します。 [現在] を選択した場合、VM は即座に、または今後 90 日以内にプロビジョニングされます。[あとで] を選択した場合、日付を選択するカレンダー、時間と分を選択するドロップダウン リスト、午前または午後を選択するオプション ボタンが表示されます。
[日] カレンダー	何日後に VM を終了させるのかを選択します。 （注） このオプションは [次の期間後にVMの電源をオフにする] チェックボックスがオンの場合に表示されます。

名前	説明
[時間] ドロップダウン リスト	何時間後にVMを終了させるかを選択します。 （注） このオプションは [次の期間後にVMの電源をオフにする] チェックボックスがオンの場合に表示されます。
[分] ドロップダウン リスト	何分後に VM を終了させるかを選択します。 （注） このオプションは [次の期間後にVMの電源をオフにする] チェックボックスがオンの場合に表示されます。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [カスタム仕様] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[CPUコア] ドロップダウン リスト	プロビジョニングされる VM の CPU コアを選択します。 （注） このリストは、[コンピューティング ポリシー] ダイアログボックスでサイズ変更オプションを選択した場合に表示されます。
[メモリ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングされるVMのメモリ量を選択します。 （注） このリストは、[コンピューティング ポリシー] ダイアログボックスでサイズ変更オプションを選択した場合に表示されます。

名前	説明
[ストレージ階層] ドロップダウン リスト	プロビジョニングされる VM のストレージエントリをカスタマイズするためのオプションを選択します。 （注） このカスタム リストは、選択したカタログの作成時に [仮想ストレージのカタログ] を有効化した場合に表示されます。 仮想ストレージ カタログの作成の詳細については、「ポリシーの管理」（P.8-1）を参照してください。 カタログの作成時にこのオプションを有効化する方法の詳細については、「カタログの管理」（P.10-1）を参照してください。
[ディスク] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用の推奨ハードディスクサイズを選択します。 利用可能なデータストアのリストは、ストレージポリシーで指定される適用範囲条件によって異なります。 このオプションは、ストレージポリシーで有効化または無効化できます。

ステップ 9 ディスク用のデータストアを選択するには、リストからディスクを選択し、鉛筆アイコンをクリックします。

ステップ 10 [選択] をクリックして、利用可能なデータストアを表示します。

ステップ 11 リストからデータストアを選択し、[選択] をクリックします。

ステップ 12 [送信] をクリックします。

ステップ 13 （任意） マルチディスクに対応したテンプレートの場合は、ディスクごとにデータストアを 1 つ選択する必要があります。

ステップ 14 [カスタム仕様] ペインで、[選択] をクリックして、利用可能な VM ネットワークを表示します。

（注） このオプションは、該当する VM プロビジョニングのサービス リクエストに対して選択した VDC に関連するネットワーク ポリシーで、[エンドユーザにオプションのNICの選択を許可] チェックボックスまたは [エンドユーザによるポートグループ選択を許可] チェックボックスがオンになっている場合にのみ利用可能です。 詳細については、「ネットワーク ポリシーの追加」（P.8-8）を参照してください。

ステップ 15 リストから VM ネットワークを選択し、[選択] をクリックします。

ステップ 16 [次へ] をクリックします。

ステップ 17 [カスタムワークフロー] ペインで詳細を入力します。

（注） カスタム ワークフローの入力値が適用されるのは、VMプロビジョニング用に選択したカタログで[プロビジョニング後のカスタムアクション]が有効になっている場合です。上記のシナリオの場合、ユーザはプロビジョニング後のワークフローでカスタム入力値を指定できます。

ステップ 18 [次へ] をクリックします。

（注） 利用可能なデータストアのリストは、ストレージ ポリシーで指定される適用範囲条件によって異なります。 データストアは、ディスク カテゴリ（システム、データ、データベース、スワップ、ログ）ごとに 1 つだけ選択できます。

ステップ 19 サービス リクエストのサマリーを確認します。

ステップ 20 [送信] をクリックします。

詳細カタログ タイプを使用したサービス リクエストの作成

サービス リクエストの作成中に詳細カタログ タイプを選択して、オーケストレーション ワークフローを実行できます。 詳細カタログの作成に関する詳細は、標準カタログを作成する場合とほぼ同じです。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックスの [カタログの選択] セクションで、[グループ]、[カタログ タイプ]（[詳細]）、および [カタログ]（ワークフロー）を選択します。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [サービスリクエストの作成] ダイアログボックスの [カスタムワークフロー] セクションで、カスタム ワークフローの入力値を指定します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 サービス リクエストのサマリーを確認します。

ステップ 9 [送信] をクリックします。
これらの入力値は、ワークフローの作成時にユーザが入力した値に応じて、サービス リクエスト中に反映されます。

サービス リクエスト ワークフローと詳細

サービス リクエストの作成後は、そのステータスとワークフローの確認、リクエストのキャンセル、リクエストの再送信などを実行できます。 これらのアクションは、サービス リクエスト リストの上部にあるツールバー ボタンを使用して制御します。

サービス リクエスト ワークフロー

[ワークフロー ステータス]ボックスには、サービス リクエストとそのワークフロー ステップに関する詳細情報が表示されます。 通常、サービスリクエストのワークフローには次のステップが含まれます。

1. 開始：ユーザがサービス リクエストを開始します。
2. リソースの割り当て：VM に必要なリソースを割り当てます。
3. 承認：VMプロビジョニングの前に、ユーザの承認プロセスを実行します。 カタログの作成時に定義した承認者へ電子メールが送信されます。 このカタログは、VMプロビジョニングに使用されるカタログです。
4. プロビジョニング：VM のプロビジョニング プロセスを実行します。
5. ライフサイクル スケジュールの設定：ライフサイクル スケジュールを設定し、設定時間、予定時間、および終了時間を指定します。
6. 通知：VM プロビジョニングに関する通知を電子メールでユーザに送信します。

サービスリクエストのワークフローのオプション ステップには、予算の監視やリソース制限の確認などがあります。

1. 予算の監視：管理者が、グループの予算作成機能を有効にする必要があります。 このステップにより、使用できる予算が十分にあり、そのグループの新しいVMをプロビジョニングできるかどうかが判定されます。
2. リソース制限の確認：グループのリソース制限は、管理者が有効にする必要があります。 これにより、新しいVMをプロビジョニングできるだけのリソースがグループにあるかどうか判定されます。

サービス リクエストの詳細

サービスリクエストの[概要]、[所有権]、[カタログ情報]、および[現在のステータス]に、サービス リクエスト詳細の各種項目が表示されます。

名前	説明
概要	

名前	説明
リクエストID	サービス リクエスト ID 番号。
リクエストのタイプ	リクエストのタイプ（この場合、VMの作成）。
VDC	VM がプロビジョニングされる VDC。
イメージ	VMのプロビジョニングに使用されるイメージ。
リクエスト日時	サービス リクエストの作成時間。
リクエストのステータス	サービス リクエストのステータス（[完了]、[キャンセル済み]、[失敗] など）。
コメント	任意のコメント。
所有権	
グループ	サービスリクエストの送信元ユーザが属するグループ。
送信ユーザ	サービス リクエストを送信したユーザ。
期間(時間)	VMがアクティブになっている期間。 定義した場合は、指定された時間が経過した後でVMが削除されます。
スケジュール時刻	VM のプロビジョニングが開始されるまでの時間。 定義した場合、VMはスケジュール日の午前6時にプロビジョニングされます。 定義されていない場合は、サービスリクエストのワークフロー ステップが完了するとただちにVMがプロビジョニングされます。
カタログ情報	
vDC所有者の電子メール	VDCの作成時に管理者から提供された電子メール ID。
承認ユーザ	VMプロビジョニングのサービスリクエストの承認を担当するユーザ（定義済みの場合）。
カタログ名	VM のプロビジョニングに使用されるカタログ項目の名前。
カタログの説明	カタログ項目の説明。

名前	説明
サービスリクエストコスト	VMのプロビジョニング コスト（予想）。 このコストは、カタログ項目に定義されているコスト モデルに基づいて決定されます。

各ワークフロー ステップのステータスを確認できます。 警告メッセージやエラー メッセージ、リクエスト時間などの詳細も表示されます。 ワークフロー ステップは、それぞれのステータスに応じて次のように色分けされます。

カラー コード	説明
グレー	ステップは未完了です。
グリーン	ステップは正常に完了しました。
赤	ステップは失敗しました。 失敗の理由も示されます。
青	ステップを完了するには、追加の入力が必要です。 たとえば、サービス リクエストの承認者が定義されている場合、リクエストが承認されるまで、このステップは完了しません。

（注） 承認者は、自分に割り当てられたサービス リクエストを [承認] タブで確認できます。

サービス リクエストのワークフローのステータスの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 サービス リクエストを選択します。

ステップ 5 [詳細の表示] をクリックして、サービス リクエストの詳細とステータスを表示します。 デフォルトでは、[ワークフロー ステータス] タブがダイアログボックスに表示されます。

サービス リクエストのログの詳細の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 サービス リクエストを選択します。

ステップ 5 [詳細の表示] をクリックして、[ログ] タブを選択します。

サービス リクエストのスケジュール設定について

遅延プロビジョニングを使用して、後日の VM プロビジョニングをスケジュール設定できます。デフォルトのプロビジョニング時間は、スケジュール日の 午前 8 時 30 分です。 日付を設定すると、ワークフローのVMプロビジョニング ステータスには、プロビジョニングが後日にスケジュール設定済みとして示されます。

サービス リクエストのスケジュール設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 3 [リクエストの作成] をクリックします。

ステップ 4 グループ、カタログタイプ、およびカタログを選択します。詳細については、「標準カタログタイプを使用したサービス リクエストの作成」（P.11-1）を参照してください。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [プロビジョニング] フィールドの [後で] オプションを選択し、[サービスリクエスト] ダイアログボックスでプロビジョニング日付を選択します。

ステップ 7 [サマリー] ウィンドウが表示されるまで [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [送信] をクリックします。

サービス リクエストの再送信について

失敗したサービス リクエストを再送信できます。 サービス リクエストが失敗する理由として次のものがあります。

- VM がプロビジョニングされるグループに対する予算制限（管理者が定義している場合）を超過した場合。
- VMがプロビジョニングされるグループに対するリソース制限（管理者が定義している場合）を超過した場合。
- サービス リクエストの作成時に関連情報が入力されていない場合は、プロビジョニングが失敗することがあります。

サービスリクエストを再送信すると、前回の送信で失敗したワークフローステップからプロセスが再開されます。 たとえば、サービス リクエストがリソース割り当てワークフロー（ステップ 2）で失敗した場合、このサービス リクエストを再送信すると、そのステップからプロセスが開始されます。

サービス リクエストの再送信

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 再送信するサービス リクエストを選択します。

ステップ 5 [リクエストの再送信] をクリックします。

その他のサービス リクエスト機能

サービス リクエストのキャンセル

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 キャンセルするサービス リクエスト エントリを選択します。

ステップ 5 [リクエストをキャンセルする] をクリックします。

ステップ 6 [送信] をクリックしてサービス リクエストをキャンセルします。

サービス リクエストのロールバック

オーケストレーション ワークフローやフェンスド コンテナの導入を使用してサービス リクエストが作成された場合は、サービス リクエストをロールバックできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 アーカイブするサービス リクエストを選択します。

ステップ 5 [アーカイブ] をクリックします。

ステップ 6 [リクエストのアーカイブ] ダイアログボックスで、[アーカイブ] をクリックします。
アーカイブされたすべてのリクエストを表示するには、[アーカイブ済みのサービスリクエスト] タブを選択します。

特定グループのサービス リクエストの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
デフォルトは、すべてのサービス リクエストがリストされる [すべてのユーザグループ] です。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

グループのサービス リクエスト履歴の検索

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 3 ツールバーで、[検索と置換] をクリックします。

ステップ 4 [検索と置換] ダイアログボックスで、検索フィールドに検索キーワードを入力します。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、グループ名を選択します。

ステップ 3 [サービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 4 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート] アイコンをクリックします。

ステップ 5 [レポートのエクスポート] ダイアログボックスで、レポート形式を選択します。
レポート形式は、PDF、CSV、または XLS を選択できます。

ステップ 6 [レポートの作成] をクリックします。

アーカイブ済みのサービス リクエストの再有効化

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。

ステップ 2 [アーカイブ済みのサービスリクエスト] タブを選択します。

ステップ 3 再有効化するサービス リクエストを選択します。

ステップ 4 [アーカイブ解除] をクリックします。

サービス リクエストの承認プロセス

VM プロビジョニングを実行する前に、VDC で定義された 1 人以上の承認者がサービス リクエストを承認する必要があります。 1 つのグループに承認者を 2 人定義することが可能です。

- サービス リクエストのワークフローが作成されると、VM の承認を求める（承認者の名前が表示された）ステップがそのワークフローに組み込まれます。
- 承認者に対して、サービス リクエストの通知電子メールが送信されます。 承認者は、すべてのリクエストを [承認] タブで確認できます。
- 承認が済んだら、次のステップで VM プロビジョニングが開始されます。

（注） 承認者の定義の詳細については、「仮想データセンターの管理」（P.9-1）を参照してください。

サービス リクエストの承認

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。
ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
ステップ 3 承認するサービス リクエスト エントリを選択します。
ステップ 4 詳細を確認するには、[詳細の表示] をクリックします。
ステップ 5 [承認] をクリックします。
ステップ 6 必要に応じて、[サービスリクエスト] ダイアログボックスにコメントを追加します。
ステップ 7 [承認] をクリックします。

サービス リクエストの却下

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。
ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
ステップ 3 却下するサービス リクエスト エントリを選択します。
ステップ 4 [詳細の表示] をクリックして詳細を確認します。
ステップ 5 [却下] をクリックします。
ステップ 6 必要に応じて、[サービスリクエスト] ダイアログボックスにコメントを追加します。
ステップ 7 [却下] をクリックします。

サービス リクエストの承認履歴の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [承認記録] を選択します。
ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
承認済みと保留中の区別にかかわらず、すべての承認がリストされます。

サービス リクエストの承認履歴の検索

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [承認記録] を選択します。

ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。
承認済みまたは保留中にかかわらず、すべての承認がリストされます。

ステップ 3 [検索] フィールドに、検索条件を入力します。
検索条件に一致するサービス リクエストが表示されます。

サービス リクエストの承認履歴のエクスポート

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [承認記録] を選択します。

ステップ 2 [承認記録] タブを選択します。

ステップ 3 リストから、グループ名を選択します。

ステップ 4 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート] アイコンをクリックします。

ステップ 5 [レポートのエクスポート] ダイアログボックスで、レポート形式を選択します。
レポート形式は、PDF、CSV、または XLS を選択できます。

ステップ 6 [レポートの作成] をクリックします。

サービス リクエストの予算

今月の利用可能な予算

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。
ステップ 2 左パネルから、[すべてのユーザグループ] または特定のユーザ グループを選択します。
ステップ 3 [今月の利用可能な予算] タブを選択します。

予算エントリの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [サービスリクエスト] を選択します。
ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。

予算エントリの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [要約] を選択します。
ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。
ステップ 4 [追加]（+）をクリックします。
ステップ 5 [予算エントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[エントリ名] フィールド	予算エントリの名前。
[予算額] フィールド	1 ヵ月あたりの予算金額。

名前	説明
[年] ドロップダウン リスト	年を選択します。
[月] ドロップダウン リスト	月を選択します。
[リピートエントリ] ドロップダウン リスト	同じ予算金額を繰り返す月数を選択します。

ステップ 6 [追加] をクリックします。

予算エントリの編集

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [要約] を選択します。
ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。
ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。
ステップ 4 メイン ページで、予算エントリを選択します。
ステップ 5 [編集] をクリックします。
ステップ 6 [予算エントリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[エントリ名] フィールド	予算エントリの名前。
[予算額] フィールド	1 ヵ月あたりの予算金額。
[年] ドロップダウン リスト	年を選択します。
[月] ドロップダウン リスト	月を選択します。
[リピートエントリ] ドロップダウン リスト	同じ予算金額を繰り返す月数を選択します。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

予算エントリの削除

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [要約] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、ユーザ グループを選択します。

ステップ 3 [予算エントリ] タブを選択します。

ステップ 4 メイン ウィンドウで、予算エントリを選択します。

ステップ 5 [削除]（X）をクリックします。

ステップ 6 [エントリの削除] ダイアログボックスで、削除を確認します。

第 12 章

マルチディスク VM プロビジョニング

この章は、次の内容で構成されています。

- マルチディスク VM プロビジョニングについて，181 ページ
- マルチディスク VM プロビジョニングのワークフロー，182 ページ
- マルチディスクに対応したテンプレートについて，182 ページ
- ディスク カテゴリの割り当て，182 ページ
- ストレージ ポリシーの定義，183 ページ
- カタログの作成，186 ページ
- VM ディスクの作成，191 ページ

マルチディスク VM プロビジョニングについて

Cisco UCS Director では、1 つのテンプレートからマルチディスク仮想マシン（VM）プロビジョニングを実行できます。 選択した 1 つまたは複数のデータストアに対する VM ディスク プロビジョニングを設定できます。 また、1 つのテンプレートで追加ディスクごとに個別のディスク ポリシーを設定することもできます。

Cisco UCS Director では、ディスクは次のカテゴリに分類されます。

- システム
- データ
- データベース
- スワップ
- ログ

（注） Cisco UCS Director で定義されているディスク カテゴリはディスクのラベリング専用です。

マルチディスク VM プロビジョニングのワークフロー

手順

ステップ 1 マルチディスクに対応したテンプレートを利用できることを確認します。
ステップ 2 ディスク カテゴリを割り当てます。
ステップ 3 ストレージ ポリシーを定義します。
ステップ 4 テンプレートのカタログを作成します。

マルチディスクに対応したテンプレートについて

マルチディスクの仮想マシン（VM）をプロビジョニングするためには、マルチディスクに対応したテンプレート（イメージ）を使用できる必要があります。 マルチディスクに対応したテンプレートを VM プロビジョニングに使用する前に、各ディスクにディスク カテゴリを割り当てる必要があります。

ディスク カテゴリの割り当て

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 VMware クラウドを選択し、[イメージ] タブを選択します。
ステップ 3 マルチディスクに対応したテンプレートを選択します。
ステップ 4 ツールバーの [詳細の表示] ボタンをクリックします。
ステップ 5 [ディスク] タブをクリックします。
ステップ 6 ディスクを選択します。
ステップ 7 [ディスクタイプの割り当て] をクリックします。
ステップ 8 ディスク タイプを選択します。
次のいずれかになります。

- システム

- データ
- データベース
- スワップ
- ログ

ステップ 9 [送信] をクリックします。

ストレージ ポリシーの定義

ストレージ ポリシーは、データストアの対象範囲、使用するストレージのタイプ、容量の最小条件、遅延などのリソースを定義するポリシーです。 また、ストレージポリシーを使用すると、マルチディスクに対する追加のディスク ポリシーを設定することや、サービス リクエストの作成中にエンドユーザがデータストアを選択できるようにすることができます。

Cisco UCS Director では、複数のデータストア上で、複数のディスクを使用した VM プロビジョニングを実行できます。 ディスクは、システム、データ、データベース、スワップ、ログという 5 つのタイプに分類されます。 システム ディスク ポリシーを先に設定し、次にそれ以外のディスクを要件に応じて設定できます。 ディスク タイプ別にディスク ポリシーを設定することも、ディスクごとにデフォルトのシステム ディスク ポリシーを選択することも可能です。

追加のディスク ポリシーを使用する場合、マルチディスクテンプレートのカタログの作成中は、[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] オプションを必ずオフにしてください。 カタログ作成の詳細については、カタログの追加, （186 ページ）を参照してください。

また、Cisco UCS Director には、エンドユーザがデータストアを選択できるかどうかを指定するオプションがあるため、VM プロビジョニングのサービス リクエストを作成するときにデータストアを選択できるようにすることができます。 サービス リクエストの作成中に選択された VDC に関連付けられたストレージ ポリシーで指定されている対象範囲条件によって、選択対象としてリストされるデータストアは異なります。

ストレージ ポリシーの作成

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [ストレージ] を選択します。

ステップ 2 [VMwareストレージポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [ストレージリソース割り当てポリシーの追加 - システムディスクポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 この名前はカタログ定義中に使用されます。
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	リソース割り当てが発生するクラウドを選択します。
システムディスクスコープ	
[データストアのスコープ] ドロップダウン リスト	導入の適用範囲を選択します。 すべてを使用するか、選択した項目を含めるか、選択した項目を除外するかを指定します。
[共有データストアのみの使用] チェックボックス	共有データストアのみを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。
ストレージ オプション	
[ローカルストレージの使用] チェックボックス	ローカルストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。
[NFSの使用] チェックボックス	NFS ストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。
[SANの使用] チェックボックス	SAN ストレージを使用するには、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このフィールドはオンになっています。
[条件の最小値] チェックボックス リスト	満たしたい 1 つ以上の条件のチェックボックスをオンにします。 これらの基準を満たさないホストやデータストアは考慮から除外されます。 複数の条件を選択した場合は、選択したすべての条件に一致する必要があります。

名前	説明
[テンプレートのオーバーライド] チェックボックス	テンプレートのプロパティを上書きするには、チェックボックスをオンにします。 シン プロビジョニングの使用や、カスタム ディスク サイズなどのカスタム設定を入力するオプションがあります。
[シンプロビジョニングの使用] チェックボックス	VM ストレージのプロビジョニング時にシンプロビジョニングを使用するには、チェックボックスをオンにします。 シンプロビジョニングを使用すると、物理ストレージ容量を動的に割り当てて、VM ストレージ使用率を高めることができます。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] をオンにした場合に表示されます。
カスタムディスクサイズ	VM プロビジョニングに使用されるテンプレートのディスク サイズを上書きするカスタムディスク サイズ。 （注） このオプションは、[テンプレートのオーバーライド] をオンにした場合に表示されます。
VM ライフサイクルのサイズ変更オプション	
ディスクのサイズ変更を許可	プロビジョニングの前に VM ディスク サイズを選択するオプションを提供するには、チェックボックスをオンにします。
[ディスクの許容値(GB単位)] フィールド	VM をプロビジョニングするためのディスク サイズの値。 （注） このオプションは、[ディスクのサイズ変更を許可] をオンにした場合に表示されます。
[スコープからのデータストアの選択をユーザに許可します] チェックボックス	サービス リクエストの作成中にデータストアを選択するオプションをユーザに提供するには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [追加のディスクポリシー] ペインで、設定するディスク タイプを選択します。

デフォルトでは、ディスクのディスク ポリシーは [システムディスクポリシー] です。

ステップ 7 [鉛筆] アイコンをクリックすると、[ディスクポリシーエントリの編集] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 8 ディスク ポリシーを設定するには、[システムディスクポリシーと同じ] チェックボックスをオフにします。

ステップ 9 [エントリの編集] ダイアログボックスで、ディスク タイプの [ディスクスコープ] と [ストレージオプション] を選択します。

ステップ 10 [送信] をクリックします。

ステップ 11 必要に応じて、他のディスク タイプの設定に進みます。

ステップ 12 [送信] をクリックします。

（注） 追加のディスク ポリシーで作成されたストレージ ポリシーを使用するには、VM プロビジョニングに使用される VDC にポリシーを関連付ける必要があります。

カタログの作成

カタログの追加

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [カタログ] を選択します。

ステップ 2 [カタログ] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [カタログの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[基本情報] ペイン	
[カタログ名] フィールド	カタログの名前。 （注） 一度作成したカタログの名前は変更できません。
[カタログの説明] フィールド	カタログの説明。

名前	説明
[カタログタイプ] ドロップダウン リスト	カタログのタイプ。 次のいずれかになります。 • 標準：クラウドのリストからイメージを使用して VM プロビジョニング用にカタログを作成するために使用されます。 • 詳細：カタログ項目などのオーケストレーション ワークフローのパブリッシングに使用されます。 • サービスコンテナ：カタログ項目としてのアプリケーション コンテナのパブリッシングに使用されます。 • VDI：カタログ項目としての XenDesktop のパブリッシングに使用されます。
[カタログアイコン] ドロップダウン リスト	このカタログをイメージに関連付けるアイコンをリストから選択します。 このカタログを使用してサービス リクエストを作成しているときにこのアイコンが表示されます。
[すべてのグループに適用] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、すべてのグループがこのカタログを使用できるようになります。 他のグループで使用できないようにするには、チェックボックスをオフにします。
[選択されたグループ]チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスから追加したグループのチェックボックスをオンにします。 選択したグループでは、このカタログを使用して新しい VM をプロビジョニングします。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニングのイメージを含むクラウドを選択します。
[イメージ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用して VM をプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows、Linux、その他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。
[Windowsラインセンスプール] フィールド	Windows ライセンスを選択します。 （注） このオプションは、Windows イメージを選択した場合に表示されます。

名前	説明
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	単一のデータストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されたデータストアの使用を選択することもできます。 複数のディスク ストレージ ポリシー作成の詳細については、「ポリシーの管理」（8-1ページ）を参照してください。 （注） このオプションは、選択したテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。
[サービスコンテナテンプレート名] ドロップダウン リスト	リストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [サービスコンテナ] の場合に表示されます。
[XenDesktopカタログ] ドロップダウン リスト	Desktop Studio で設定された XenDesktop 専用のカタログのリストからテンプレートを選択します。 （注） このオプションは、選択したカタログ タイプが [VDI] の場合に表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [アプリケーションの詳細] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知する担当者のメールアドレス。
[OSの指定] ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニング時に VM にインストールされている OS のタイプを選択します。
[他のOSの指定] フィールド	[OSの指定] リストにない OS。

名前	説明
[アプリケーションの指定] チェックボックス リスト	[項目の選択] ダイアログボックスからのアプリケーションのチェックボックスをオンにします。 これらのアプリケーションは、プロビジョニング中に VM にインストールされます。
[他のアプリケーションの指定] フィールド	[項目の選択] ダイアログボックスにないアプリケーション。
[アプリケーションコード] フィールド	VM 名で使用されるアプリケーション コード。アプリケーション コードは 1 ～ 4 文字を指定できます（例：W2K3、DB、WS）。 アプリケーション コードは、変数 ${APPCODE} を使用して、VM 名のシステム ポリシーで使用できます。 たとえば、VM 名テンプレートが vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE} の場合、システム ポリシーを使用してプロビジョニングされる VM の名前は vm-groupname-W2K3 になります。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [ユーザクレデンシャル] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	VM アクセス クレデンシャル（共有）の取得をユーザに許可するかどうかを選択します。
[ユーザ ID] フィールド	ユーザ ID。 （注） このオプションは、[クレデンシャル オプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 （注） このオプションは、[クレデンシャル オプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

ステップ 9 [次へ] をクリックします。

ステップ 10 [カスタマイズ] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM プロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローが有効になります。
[ワークフロー] ドロップダウン リスト	プロビジョニングの定義済みワークフローを選択します。 （注） このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション] をオンにした場合に表示されます。
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれるアプリケーションのコスト。
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	このカタログに対する、非アクティブな状態の VM の毎時または毎月のコスト。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

ステップ 12 [VMアクセス] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Webアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM への Web アクセスが有効になります。 チェックボックスをオフにすると、VM への Web アクセスが無効になります。
[URL] フィールド	VM の URL。 （注） このオプションは、[Webアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	この URL に対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[Web アクセス設定] をオンにした場合に表示されます。

名前	説明
[リモートデスクトップのアクセス設定] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、VM へのリモート デスクトップ アクセスが有効になります。チェックボックスをオフにすると、VMへのリモート デスクトップ アクセスが無効になります。
[サーバ] フィールド	リモート アクセス用のサーバの IP アドレス。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ポート] フィールド	リモート アクセス用のサーバのポート番号。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定] をオンにした場合に表示されます。
[ラベル] フィールド	このリモートアクセスに対して定義されるラベル。 （注） このオプションは、[リモートデスクトップ アクセス設定] をオンにした場合に表示されます。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。

ステップ 14 [サマリー] ページでカタログ情報を確認します。

ステップ 15 [送信] をクリックします。

VM ディスクの作成

[VM] アクション ボタンから利用できる [VMディスクの作成] オプションを使用して、プロビジョニングされた VM または検出された VM に、カスタム サイズの増設ディスクを追加することができます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 リストから VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーの右側にある下矢印をクリックして、VM オプションのドロップダウン リストを開きます。

ステップ 6 [VMディスクの作成] を選択します。

ステップ 7 [VMディスクの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 VM の名前は編集できません。
[新しいディスクサイズ(GB)] フィールド	VM のディスク サイズ（GB 単位）。
[ディスク タイプの選択] ドロップダウン リスト	ディスク ラベルを選択します。 ディスク ラベルは次のいずれかになります。 • システム • データ • データベース • スワップ • ログ
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。 データストアの選択肢は、VM の VDC に関連付けられているストレージ ポリシーによって異なります。
[Thinプロビジョニング] チェックボックス	VMにシンプロビジョニングされたディスクを追加するには、チェックボックスをオンにします。 （注） シン プロビジョニングを使用すると、物理ストレージ容量を動的に割り当て、VMストレージ使用率を高めることができます。

ステップ 8 [作成] をクリックします。

第 13 章

チャージバック モジュールの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- チャージバック機能について，195 ページ
- 予算ポリシー，196 ページ
- コスト モデル，197 ページ
- VDC の変更によるコスト モデルの組み込み，200 ページ
- パッケージベースのコスト モデル，203 ページ
- ストレージ階層のコスト モデル，205 ページ
- 階層へのデータストアの割り当てについて，206 ページ
- チャージバック レポート，207 ページ
- レコードの変更について，211 ページ
- チャージバックの計算，211 ページ

チャージバック機能について

Cisco UCS Director のチャージバック モジュールを使用して、仮想インフラストラクチャのコストを詳細に確認することができます。 また、コストモデルを定義して部門内や組織内のポリシーに割り当てることができます。 リソースのコストが正確に計算されるように、仮想マシン（VM）の計測データが頻繁に収集されます。

チャージバック モジュールの機能は次のとおりです。

- 柔軟性：組織の要件に応じて、固定コスト、一括での支払いのコスト、割り当てコスト、使用コスト、およびこれらのすべての組み合わせを提供できます。
- 再利用可能なコスト モデル：標準化されたコスト モデルまたはテンプレートを使用してコスト モデルを VM に割り当てます。 これらのテンプレートを使用して、新しい環境にすばやくコスト モデルを適用できます。

- レポート：仮想インフラストラクチャのコストとリソース使用状況について、さまざまなサマリー レポートと比較レポートを生成します。 レポートは、PDF、CSV、および XLS 形式でエクスポートされ、Web ブラウザで表示できます。
- 上位 5 つのレポート：VM コスト、CPU、メモリ、ストレージ コスト、ネットワーク コストについて、上位 5 つの組織またはグループを示すレポートをモニタします。
- ダッシュボード：組み込みダッシュボードと多彩なグラフィカル ウィジェットにより、VM の計測情報とチャージバックをリアルタイムにモニタして分析します。

予算ポリシー

チャージバック モジュールでは、リソース全体が考慮されます。 チャージバックとは別に、予算の監視や予算超過の有効化または無効化に使用する予算ポリシーに個々のグループや組織を関連付ける必要があります。

予算ポリシーの設定

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [ユーザとグループ] を選択します。

ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。

ステップ 3 グループを選択し、[予算ポリシー] をクリックします。

ステップ 4 [予算ポリシー] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[予算の監視の有効化] チェックボックス	オンにすると、グループの予算の使用状況が監視されます。 オフにすると、該当するグループのすべての予算エントリが無視されます。
[予算超過を許可] チェックボックス	オンにすると、グループ メンバーに対して、準備された予算の超過が許可されます。 オフにすると、予算がすべて消化された時点で、新しい予算が追加されるまですべてのリクエストが却下されます。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

コスト モデル

コスト モデルは、CPU、RAM、ストレージなどの仮想リソースのユニット レベルのコストを定義するために使用されます。 これらのコストは、仮想インフラストラクチャ内の VM のチャージバック計算に使用されます。 コストモデルは、線形モデルのコストの定義を提供し、コストをユニット レベルで定義できます。

VM の特定のリソースのコストは、その VM に割り当てられるユニットの数に基づいて計算されます。 たとえば、1 GB の RAM のコストはコスト モデル内で定義され、特定の VM の RAM のコストを決定するためにこのユニット コストが使用されます。

1 回限りのプロビジョニング コスト、アクティブまたは非アクティブの VM のコスト、および CPUやメモリなどのリソースのプロビジョニング、予約、または使用コストを定義できます。 これらのコストは、使用状況に基づいて VM のコストの計算に使用されます。

コスト モデルの作成

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [コストモデル] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 4 [コストモデルの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[コストモデル名] フィールド	コスト モデルの名前。
[コストモデルの説明] フィールド	コスト モデルの説明。
[コストモデルタイプ] ドロップダウン リスト	コスト モデルのタイプを選択します。 [標準] は、線形コスト モデルを示します。 [詳細]は、パッケージベースまたはスクリプトベースのコスト モデルを示します。 高度なコスト モデルの説明と使用方法については、「パッケージベースのコスト モデル」（P.13-6）を参照してください。 該当する場合は [HyperV] を選択することもできます。

名前	説明
[課金頻度] ドロップダウン リスト	VMのリソースコストを定義する頻度を選択します。 リソースのコストを時間単位で指定する場合は、[毎時] を選択します。 リソースのコストを月単位で指定する場合は、[毎月] を選択します。
固定コスト	
[一括での支払いのコスト] フィールド	VM プロビジョニングにかかる一括での支払いの固定コスト。
VM コスト	
[アクティブなVMのコスト] フィールド	アクティブ状態の VM の 1 時間あたりのコスト。
[非アクティブなVMのコスト] フィールド	非アクティブ状態の VM の 1 時間あたりのコスト。
CPU コスト	
[CPUチャージユニット] ドロップダウン リスト	CPUのチャージユニット（GHzまたはコア数）を選択します。
[プロビジョニング済みCPUコスト]フィールド	1 時間あたり、CPUのチャージユニットあたりのプロビジョニング済み CPU コスト。 VM に対してプロビジョニングされた CPU のコストが考慮されます。 （注） CPUチャージユニットがGHzの場合のコスト。 [使用済み CPU コスト] フィールドに値を入力する場合は、このフィールドを空白にしておく必要があります。

名前	説明
[予約済みCPUコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GHz あたりの予約済み CPU コスト。 実際に VM に対して予約された CPU のコストが考慮され、プロビジョニング済み CPU コストの計算も含まれます。 プロビジョニング コストとは別に、予約済み CPU の追加コストがある場合は、ここで入力します。 たとえば、プロビジョニング コストが 1 ドル、予約済みコストが 1.4 ドルである場合は、追加の予約コストを指定する必要があります。 この場合の追加コストは、1.4 ドル - 1 ドル = 0.4 ドルです。 （注） CPU チャージ ユニットが GHz の場合のコスト。 [使用済み CPU コスト] フィールドに値を入力する場合は、このフィールドを空白にしておく必要があります。
[使用済み CPU コスト] フィールド	1 時間あたり、1 GHz あたりの使用済み CPU コスト。 このコストは実際の CPU 使用率に基づいています。 このコストでは、プロビジョニング済みコストおよび予約済みコストは考慮されません。 [使用済み CPU コスト] フィールドに値を入力する場合は、プロビジョニング済みコストと予約済みコストのフィールドを空白にしておく必要があります。 （注） CPU チャージ ユニットが GHz の場合のコスト。
メモリ コスト	
[プロビジョニング済みメモリのコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりのプロビジョニング済みメモリ コスト。
[予約済みメモリコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりの予約済みメモリコスト。
[使用済みメモリコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりの使用済みメモリコスト。
ネットワーク コスト	

名前	説明
[受信済みネットワークデータのコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりの受信済みデータ コスト。
[転送済みネットワークデータのコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりの転送済みデータ コスト。
ストレージ コスト	
[コミット済みストレージコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりのコミット済みストレージ コスト。
[コミットされていないストレージのコスト] フィールド	1 時間あたり、1 GB あたりの未コミット ストレージ コスト。 未コミット ストレージは、未使用でプロビジョニング済みのストレージとして定義されます。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

VDC の変更によるコスト モデルの組み込み

既存の VDC を追加または編集して、その VDC に、新しく作成したコスト モデルを割り当てることができます。 既存の VDC を編集するか、新しい VDC を作成して、その VDC にコスト モデルを割り当てることができます。

コスト モデルが VDC に割り当てられると、その VDC に含まれている VM はすべて、高度なコスト モデルに基づいて課金されます。 VDC に含まれる VM のうち、標準タイプのコスト モデルを持つ VM は、そのまま標準コスト モデルに従って課金されます。

VDC へのコスト モデルの追加

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [VDC] タブを選択します。

ステップ 3 コスト モデルに追加する VDC を選択します。

ステップ 4 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 5 [VDC の追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[vDC名] フィールド	VDC の名前。
[ロック済みのvDC] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、以後の導入に、その VDC を使用できなくなります。 この VDC 内の既存の VM に対するアクションは無効化されます。 チェックボックスをオフにすると、以後の導入に、その VDC を使用できるようになります。
[vDCの説明] フィールド	VDC 固有の説明。
[グループ] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるグループを選択します。
[クラウド名] ドロップダウン リスト	VDC の設定の対象となるクラウドを選択します。
承認者および連絡先	
[第1承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[第2承認者のユーザ名] フィールド	サービス リクエストを承認する必要がある 2 番目のユーザ。
[プロバイダーのサポート用電子メールアドレス] フィールド	連絡先またはユーザの電子メール アドレス。 その VDC を使用した VM プロビジョニングに関する通知を受ける個人。
[電子メールアドレスへの通知をコピー] フィールド	この VDC に関する通知をコピーする第 2 連絡先の電子メール。
ポリシー	

名前	説明
[システムポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるシステム ポリシーを選択します。
[コンピューティングポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコンピューティング ポリシーを選択します。
[ネットワークポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるネットワーク ポリシーを選択します。
[ストレージポリシー] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるストレージ ポリシーを選択します。
[コストモデル] ドロップダウン リスト	VDC に適用できるコストモデルを選択します。
[サービスリクエストサマリーと電子メールページへのコストの表示を無効化] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC のサービス リクエスト サマリーと電子メールページにコストが表示されなくなります。
[ユーザアクションポリシー] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング後、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されるポリシーを選択します。 選択したワークフローは、VDC 内の VM 用のアクション ボタンとして表示されます。
End User Self-Service ポリシー	
[VMの電力管理] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、その VDC に属している VM に対して、すべての VM 電力管理アクションが有効になります。

（注） VM サイズ変更、VM スナップショット管理、VM 削除、VM ディスク管理、および VM ネットワーク管理も End User Self-Service ポリシーの対象になります。 詳細については、仮想データセンターの追加, （132 ページ）を参照してください。

ステップ 6 [追加] をクリックします。

VDC の編集によるコスト モデルの組み込み

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [仮想データセンター] を選択します。

ステップ 2 [VDC] タブを選択します。

ステップ 3 コスト モデルに追加する VDC を選択します。

ステップ 4 [カテゴリの管理] をクリックします。

ステップ 5 編集するカテゴリを選択します。

ステップ 6 [編集] をクリックします。

ステップ 7 [アプリケーションカテゴリの編集] ダイアログボックスのドロップダウンリストで、[コストモデル] と [ポリシーの導入] を選択します。

ステップ 8 [保存] をクリックします。

パッケージベースのコスト モデル

パッケージベースのコストモデルでは、システムリソースのコストを個別ではなくパッケージとして定義できます。複数のパッケージのうち、要件に合うものを選択します。このタイプのコスト モデルは非線形モデルに適しています。

（注） Cisco UCS Director では、CPU メモリ（サーバ）パッケージの定義をサポートします。

このタイプのコストモデルでは、利用可能なリソースパッケージに基づいて定義が行われます。コスト モデルの形式は次のとおりです。

C – M:X

C は CPU コアの数です。

M は GB 単位のメモリです。

X は、C と M を合算した月額コストです。

たとえば、エントリが 2-4:200 のパッケージでは、CPU コアの数が 2、メモリが 4 GB、コストが月額 200 ドルになります。

C1-M1:X1,C2-M2:X2,.....,CN-MN:XN という形式を使用すると、複数のパッケージを定義できます。

たとえば 1-1:50,1-2:70,1-4:90,2-4:150,2-6:170,2-8:190,4-8:350,4-12:380,4-16:400 の場合、 最初のエントリ 1-1:50 は、CPU コアが 1、メモリが 1 GB、コストが 1 ヵ月あたり 50 ドルのパッケージを表しています。

（注） これらのエントリは、コスト パッケージの要件に合わせていつでも編集できます。

パッケージベースのコスト モデルの作成

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [コストモデル] タブを選択します。

ステップ 3 [追加]（+）をクリックして、新しいコスト モデルを作成します。

ステップ 4 [コストモデルタイプ] フィールドで [詳細] オプションを選択します。

ステップ 5 次のスクリプトを [高度なコストモデル] フィールドに貼り付けます。

```
/*******************************/
var CPU_MEMORY_COST =
1-2:81,1-4:95,1-8:109,2-4:162,2-6:176,2-8:189,2-16:378,4-12:352,4-16:378;
/*******************************/
/* 上記のようにコスト パッケージを定義します。
コスト パッケージは次の形式で定義できます。
C-M:X
C は CPU コアの数です。
M は GB 単位のメモリです。
X は、C と M を合算した月額コストです。
たとえば、2-4:162 は、CPU コアの数が 2、メモリが 4 GB、パッケージのコストが月額 162 ドルという意味です。 */
/* 複数のパッケージを定義する場合は、C1-M1:X1,C2-M2:X2, .....,CN-MN:XN という形式で定義します。
標準パッケージは、CPU_MEMORY_COST 変数を使用してスクリプトの先頭で定義します。
この変数は、コスト パッケージの要件に合わせて編集できます。 */
/* 参考情報：使用されるストレージ コストは、ストレージ階層のコスト モデル定義に基づいています。 */
```

/* 次のスクリプトは編集しないでください。 */

```
computeChargeback(data);
function computeChargeback(data)
{
var map = chargeBackAPI.getCPUMemCostModelMap(CPU_MEMORY_COST);
var cpuCores = data.getVmMeter().getCpuCores();
var memory = data.getVmMeter().getAllocMemGB();
var serverCost = chargeBackAPI.getCostForItem(map,cpuCores, memory);
serverCost = serverCost / (24 * 30);
var storageTierCost = chargeBackAPI.getStorageCostForItem(data.getVmMeter().getVmId());
var storageGB = (data.getVmMeter().getCommittedDiskGB()) +
(data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB());
var committedDiskGBCost = (data.getVmMeter().getCommittedDiskGB()) * storageTierCost;
var unCommittedDiskGBCost = (data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB()) * storageTierCost;
var storageCost = (storageGB * storageTierCost) / (24 * 30);
var totalVMCost = serverCost + storageCost;
var cb = data.getCbSummary();
cb.setCpuCores(cpuCores);
cb.setMemory(memory);
cb.setServerCost(serverCost);
cb.setCommittedDiskGB(data.getVmMeter().getCommittedDiskGB());
cb.setCommittedDiskGBCost(committedDiskGBCost);
cb.setUncommittedDiskGB(data.getVmMeter().getUncommittedDiskGB());
cb.setUncommittedDiskGBCost(unCommittedDiskGBCost);
cb.setTotalCost(totalVMCost);
}
/*********************************/
```

ステップ 6 [追加] をクリックします。

（注） コスト モデルを定義したら、そのコスト モデルに従って VM のチャージバックが開始されるように、コスト モデルを VDC に割り当てます。

ストレージ階層のコスト モデル

ストレージ階層のコスト モデルを使用して、階層形式でストレージのコストを複数定義できます。 現在のストレージ タイプには、ローカル、NFS、SAN、NAS などがあります。 各ストレージ タイプのコストがばらつく可能性もありますが、ストレージ使用率に関するコストを計算する際は、このばらつきを考慮することができます。

このモデルを使用して各階層のさまざまなコストを定義し、これらの階層に既存のデータストアを割り当てることができます。 階層コストモデルを使用すると、コストの観点で同様のデータストア タイプをグループ化できます。

階層ごとにコストに割り当てる必要があります。 これは、1 ヵ月あたり、1 GB あたりのコストです。 たとえば、ある階層に 0.5 ドルを割り当てた場合、その階層に含まれているすべてのデータストアは、1 ヵ月あたり、1 GB あたり、0.5 ドルが課金されます。 デフォルトですでに 4 階層が作成されているため、それらの階層にコストを割り当てる必要があります。

階層へのコストの割り当て

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [ポリシー] > [サービスの提供] を選択します。

ステップ 2 [ストレージ階層のコストモデル] タブを選択します。

ステップ 3 編集する階層を選択します。

ステップ 4 [編集] をクリックします。

ステップ 5 [1 ヵ月あたりのディスクコスト(GB)] フィールドを編集します。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

階層へのデータストアの割り当てについて

データストアを階層に割り当てると、その特定のデータストアに含まれているストレージのコストを計算するために、階層内で定義されたコストが使用されます。

データストアに含まれている VM のチャージバックを計算する場合は、そのデータストアが割り当てられた階層によってコストが決定されます。 データストアに階層が割り当てられていない場合、詳細（スクリプト ベース）コスト モデルの使用時に、そのデータストアのストレージ コストは考慮されません。

通常のコスト モデル（1 つのフォームでリソース コストを定義するコスト モデル）を使用する際は、階層コストが割り当て済みで、かつその階層にデータストアが割り当てられている場合は、ストレージ階層のコストが考慮されます。 ただし、データストアに階層が割り当てられていない場合、そのデータストアに含まれている VM のストレージ コストは、コスト モデル フォームのストレージ コスト エントリから取得されます。

（注） 階層へのデータストアの割り当ては、通常のコスト モデルにのみ適用されます。

階層へのデータストアの割り当て

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [ストレージ] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド アカウントを選択します。

ステップ 3 [データストアの容量レポート] タブを選択します。
現在、階層ベースのコストは VMware クラウド アカウントでのみサポートされています。

ステップ 4 階層を割り当てるデータストアを選択します。

ステップ 5 [階層の割り当て] をクリックして [ストレージ階層] ダイアログボックスを表示します。

ステップ 6 ドロップダウン リストから、階層を選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

チャージバック レポート

使用済みおよび未使用の両リソースに対して組織が支払う金額に関する情報は、チャージバック機能によって提供されます。 この機能を使用して、リソースの消費量とコストを最適化できます。 システム リソースのアカウンティングは月次使用率をベースにすることが可能です。 CPU やメモリの使用率などのリソースがモニタされて計測されます。

チャージバック レポートはコスト モデルのタイプに基づいています。 チャージバックの計算と表示には、表形式のレポート、サマリー、グラフ レポート、およびウィジェットから構成されるフォームが使用されます。

レポートには次のタイプがあります。

- 表示
  - 今月のサマリー：グループ別の今月のサマリーコスト レポート（VM、CPU、ストレージのコストなど）です。
  - 前月のサマリー：グループ別の前月のサマリーコスト レポート（VM、CPU、ストレージのコストなど）です。
  - 月次リソースアカウンティングの詳細：月単位のグループごとのリソースアカウンティングの詳細（CPU およびメモリ使用率の統計）です。
  - VM レベルのリソース アカウンティングの詳細：VM レベルでのリソース アカウンティングの詳細です。
  - VM レベルのチャージバックの詳細：チャージバック機能を使用して VM 使用率に適用できる課金です。
- エクスポート

- 月次リソース アカウンティングの詳細のエクスポート：リソース アカウンティングの詳細レポートは、表としてエクスポートできます。
- VM レベルのリソース アカウンティングの詳細のエクスポート：VM レベルのリソース アカウンティングの詳細レポートは、表としてエクスポートできます。
- VM レベルのチャージバックの詳細のエクスポート：チャージバック レポートは、表としてエクスポートできます。

今月のサマリーの表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、表示するグループを選択します。

ステップ 3 [今月のサマリー] タブを選択して、グループに属しているすべての VM に関する今月のチャージバックの詳細を表示します。

前月のサマリーの表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、表示するグループを選択します。

ステップ 3 [前月のサマリー] タブを選択すると、グループに属するすべての VM について、前月のチャージバックの詳細が表示されます。

月次リソース アカウンティング情報の表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、表示するグループを選択します。

ステップ 3 [リソースアカウンティング] タブを選択します。

VM レベルのリソース アカウンティングの詳細の表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、表示するグループを選択します。

ステップ 3 [リソースアカウンティングの詳細] タブを選択して、個々の VM のリソース使用状況の詳細を表示します。

VM レベルのチャージバックの詳細の表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、表示するグループを選択します。

ステップ 3 [チャージバック] タブを選択します。

月次リソース アカウンティングの詳細のエクスポート

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 [リソースアカウンティング] タブを選択します。

ステップ 3 ツールバーの右側で [レポートのエクスポート] アイコンをクリックすると、[レポートのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リストから、PDF、CSV、または XLS のいずれかの形式を選択します。

ステップ 5 [レポートの作成] をクリックします。

VM レベルのリソース アカウンティングの詳細のエクスポート

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 [リソースアカウンティングの詳細] タブを選択します。

ステップ 3 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート]アイコンをクリックします。[レポートのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リストから、PDF、CSV、または XLS のいずれかの形式を選択します。

ステップ 5 [レポートの作成] をクリックします。

VM レベルのチャージバックの詳細のエクスポート

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [チャージバック] を選択します。

ステップ 2 [チャージバック] タブを選択します。

ステップ 3 ツールバーの右側で、[レポートのエクスポート]アイコンをクリックします。[レポートのエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リストから、PDF、CSV、または XLS のいずれかの形式を選択します。

ステップ 5 [レポートの作成] をクリックします。

レコードの変更について

変更管理データベース（CMDB）内の変更レコードを使用すると、システムにおける変更を追跡および管理することができます。 これらのレコードには、通常、VM、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対して実行されるイベントのタイプ（追加、削除、変更）が表示されます。

変更レコードには、リソースタイプ（VM）に関する情報（リソース名、変更タイプ、変更時刻、説明など）が表示されます。 VM のサイズが変更された場合は、それらの VM のリソースに関する情報のほか、サイズ変更の前後のリソース値に関する情報も提供されます。

VM のサイズが変更された場合、その変更は記録されて [レコードの変更] タブに表示されます。

レコードの変更へのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [管理] > [統合] を選択します。

ステップ 2 [レコードの変更] タブを選択します。

チャージバックの計算

VM の総コストの計算には次の要素が含まれます。

総コスト = アクティブな VM のコストまたは非アクティブな VM のコスト + 一括での支払いのコスト + CPU コスト + メモリ コスト + ディスク コスト + CPU 予約済みコスト + メモリ予約済みコスト + CPU 使用済みコスト + CPU コア コスト + メモリ使用済みコスト + 受信済みネットワークの使用済みコスト + 送信済みネットワークの使用済みコスト + アプリケーション コスト

VM コストの計算は 1 時間単位でのみ実行されます。 リソースごとのコストは、コスト モデルで定義された値に基づいて計算されます。 各コストの計算は次のとおりです。

コスト	コストの説明
アクティブな VM のコスト	アクティブな VM のコストについてコスト モデルで定義された値。
非アクティブな VM のコスト	非アクティブな VM のコストについてコスト モデルで定義された値。
一括での支払いのコスト	一括での支払いのコストについてコスト モデルで定義された値。
CPU コスト	CPU 使用率（プロビジョニング済み）X プロビジョニング済み CPU コストについてコスト モデルで定義されたコスト。 CPU のチャージ ユニットは GHz です。
メモリ コスト	メモリ使用率（プロビジョニング済み）X プロビジョニング済みメモリ コストについてコスト モデルで定義されたコスト。 メモリのチャージ ユニットは GB です。
ディスク コスト	コミット済みストレージ X コスト モデルで定義されたコミット済みストレージ コスト+未コミット ストレージ X コスト モデルで定義された未コミット ストレージ コスト。 ストレージのチャージ ユニットは GB です。
CPU 予約済みコスト	予約済み CPU X 予約済み CPU コストについてコスト モデルで定義されたコスト。
メモリ予約済みコスト	予約済みメモリ X 予約済みメモリ コストについてコスト モデルで定義されたコスト。
CPU 使用済みコスト	使用済み CPU X 使用済み CPU コストについてコスト モデルで定義されたコスト。
CPU コア コスト	使用済み CPU コア X CPU コア コストについてコスト モデルで定義されたコスト。 CPU のチャージ ユニットはコア単位です。

コスト	コストの説明
メモリ使用済みコスト	使用済みメモリ X 使用済みメモリ コストについてコスト モデルで定義されたコスト。
受信済みネットワークの使用済みコスト	受信済みネットワークの使用率 KB/（1024.0 X 1024.0）X受信済みネットワーク データ コストについてコスト モデルで定義されたコスト。ネットワークのチャージユニットはGB です。
転送済みネットワークの使用済みコスト	転送済みネットワークの使用率 KB/（1024.0 X 1024.0）X転送済みネットワーク データ コストについてコスト モデルで定義されたコスト。
アプリケーション コスト	アクティブな VM 時間 X アクティブな VM アプリケーションコストについてカタログで定義されたコスト + 非アクティブな VM 時間 X 非アクティブなVMアプリケーション コストについてカタログで定義されたコスト。

第 14 章

システム モニタリングとレポート

この章は、次の内容で構成されています。

- ダッシュボード，215 ページ
- 要約，216 ページ
- インベントリ管理，217 ページ
- リソース プール，218 ページ
- クラスタ，218 ページ
- イメージ，219 ページ
- ホスト ノード，219 ページ
- 仮想マシン（VM），220 ページ
- トポロジ，221 ページ
- アセスメント，221 ページ
- レポート，222 ページ

ダッシュボード

ダッシュボードは、ログインしたときに最初に表示されるウィンドウです。 アプリケーション内のすべてのレポートウィジェットをダッシュボードに追加できます。 重要なお気に入りのレポート ウィジェットを追加するために、ダッシュボードを（最上位メニューで）有効にできます。

ダッシュボードの有効化

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 ウィンドウの右上で、admin をクリックします。
ステップ 2 [ダッシュボード] タブを選択します。
ステップ 3 [ダッシュボードの有効化] チェックボックスをオンにします。
ステップ 4 [適用] をクリックします。

レポートのウィジェットの追加

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。
ステップ 3 表示するレポートのタイプに対応するタブを選択します。
ステップ 4 レポートの右上にある下矢印をクリックします。
ステップ 5 [ダッシュボードに追加] を選択します。

ウィジェット データの更新

レポート ウィジェットのデータの更新は、自動または手動に設定できます。 自動更新では、自動更新間隔を 5 ～ 60 分の範囲でカスタマイズできます。

更新間隔を設定する場合は、ダッシュボードの [自動更新] ボタンをオンに設定してください。

要約

[要約] ウィンドウでは、システム インベントリを管理できます。 表形式、グラフ形式、マップ形式などの多様なレポートにアクセスでき、インベントリのライフサイクル アクションの管理にも役立ちます。

各レポートはそれぞれ 1 個のウィジェットとして表示されます。カスタマイズして非表示にすることもできます。

仮想マシン、クラウドおよびシステムのサマリー情報の表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [要約] タブを選択します。

サマリー レポート ウィジェットのカスタマイズ

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [要約] タブを選択します。

ステップ 3 [カスタマイズ] アイコンをクリックして、使用可能なレポート ウィジェットを表示します。

ステップ 4 ウィジェットをクリックして、ダッシュボードにドラッグします。

ステップ 5 レポートをダブルクリックしてビューを展開するか、レポートの右上をクリックして[ビューの展開] を選択します。

ステップ 6 スライド バーを使用して、[ダッシュボード] に表示されたレポートのサイズを調整します。

インベントリ管理

ダッシュボードを使用して、システム インベントリをモニタできます。 物理インフラストラクチャへのすべての変更は、ダッシュボードに反映されます。 ダッシュボードには、管理作業のための、全体的なシステム レベルのインフラストラクチャ情報が表示されます。

システム インベントリの詳細へのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。

ステップ 3 任意のタブを選択して詳細情報を表示します。

リソース プール

[リソースプール] タブに、ホスト ノード レベルのリソースの詳細が表示されます。 これには、CPU の設定済み予約、CPU の制限、使用済み CPU、使用済みメモリなどの詳細が含まれます。

リソースの詳細へのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択するか、[すべてのクラウド] を選択します。

ステップ 3 [リソースプール] タブを選択します。

クラスタ

[クラスタ] タブには、ポッド上のすべてのクラスタとその詳細（利用可能な場合）が表示されます。

クラスタへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [クラスタ] タブを選択します。

イメージ

[イメージ] タブには、すべての利用可能なイメージの ID と詳細情報が表示されます。 これらのイメージには、プロビジョニング済みのゲスト OS、CPU、メモリ、ストレージなどが含まれます。 新しい仮想マシン（VM）のプロビジョニングに、これらのイメージ ID を使用できます。

イメージへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [イメージ] タブを選択します。

ホスト ノード

[ホストノード] タブには、インフラストラクチャ内で利用可能なすべての物理ホスト ノードが表示されます。 インストールされた ESX または ESXi のバージョン、アクティブな VM、電源ステータスなどの詳細情報を表示できます。

ホスト ノードへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [ホストノード] タブを選択します。

ステップ 3 ツールバーの [レポート] ドロップダウン リストから、レポート タイプを選択します。

仮想マシン（VM）

[VM] タブには、選択したクラウドのすべての VM と、VM 固有の詳細が表示されます。

VM へのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 [VM] タブを選択します。

グループ レベルの VM へのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [組織] > [仮想リソース] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、グループを選択し、[VM] タブを選択します。

トポロジ

[トポロジ] タブには VMware クラウド トポロジが表示されます。 ビュー モードには、階層、同心、円形、強制の実行という 4 つのタイプがあります。 選択したビュー モードに応じて、項目の間隔、距離、半径、厳密性、強制距離を調整できます。

トポロジ タイプへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。

ステップ 3 [トポロジ] タブを選択します。

ステップ 4 トポロジ タイプとして [Hostnode-Datastore トポロジ] または [Hostnode-VM トポロジ] のいずれかを選択します。

ステップ 5 ツールバーの [接続の表示] ボタンをクリックします。 トポロジが新しいウィンドウに表示されます。

（注） すべてのトポロジ タイプが表示されるわけではありません。

アセスメント

[アセスメント] タブには、クラウドの対応力、仮想化のベスト プラクティス、パフォーマンスの最適化、容量、電力の最適化などのアセスメント レポートが表示されます。

アセスメントへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。

ステップ 3 [アセスメント] タブを選択します。

ステップ 4 [レポート] ドロップダウン リストから、レポート タイプを選択します。

レポート

Cisco UCS Director では、多様なレポートを表示して仮想インフラストラクチャとシステム リソースをモニタすることができます。 これらのレポートは、システムの詳細を理解するために役立ち、システムの稼働状況を知る手がかりとなります。

レポートには次のタイプがあります。

- システム情報の表形式レポート：概要、ホスト ノード、新しい VM、削除済みの VM などが表示されます。
- 棒グラフ、円グラフによる比較レポート：アクティブな VM と非アクティブな VM の比較、プロビジョニング済み CPU と容量の比較などが表示されます。
- システム リソースに関する傾向グラフ：CPU の傾向、メモリの傾向、VM の追加と削除などが表示されます。
- その他のレポート：グループ、VDC、ホスト ノード、および VM レベルにおける上位 5 つのレポートなどがあります。 上位 5 つのレポートでは、VM 数が最大のグループ、CPU 使用率が最大のグループ、VM 数が最大の VDC、CPU 使用率が最大のホスト ノードが示されます。
- マップ レポート：ヒート マップまたは色分けされたマップの形式で、システム リソースの情報が表示されます。

レポートへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、クラウド名を選択します。

ステップ 3 レポートのタイプに対応するタブを選択します（[マップ]、[上位 5 つ]、または [その他のレポート]）。

第 15 章

ライフサイクルの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- VM の電源設定の管理，225 ページ
- VM のサイズ変更，226 ページ
- VM のスナップショットの管理，227 ページ
- 仮想マシンのリース時間の設定，231 ページ
- VM アクションの管理，231 ページ

VM の電源設定の管理

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 仮想マシン（VM）アクションを起動するには、[VM] タブを選択し、VM を右クリックします（タイマーのサイクルが経過するまで待ちます）。

ステップ 4 アクションを選択すると、[VMタスク] ダイアログボックスが開きます。 最後の 2 つのフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] 表示のみのフィールド	アクションの対象となる VM の名前。
[電源オフ] 表示のみのフィールド	VM の電源をオフにするタスク。

名前	説明
[電源オン] 表示のみのフィールド	VM の電源をオンにするタスク。
[一時停止] 表示のみのフィールド	VM を一時停止状態にするタスク。
[ゲストのシャットダウン] 表示のみのフィールド	VM 上のゲスト OS をシャットダウンするタスク。
[スタンバイ] 表示のみのフィールド	VM をスタンバイ状態にするタスク。
[リセット] 表示のみのフィールド	VM のハード リセットを実行するタスク。
[再起動] 表示のみのフィールド	VM のソフト再起動を実行するタスク。
[コメント] フィールド	コメント。
[アクションのスケジュール設定] ラジオ ボタン	今すぐ、または特定の日時に VM の電源をオンにするタスク。

ステップ 5 [続行] をクリックします。

VM のサイズ変更

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。 管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション] を有効にして、許可を与える必要もあります。

手順

ステップ 1 [仮想リソース] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [VMのサイズ変更] を選択します。

ステップ 3 [VMのサイズ変更] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[現在の割り当てCPU] フィールド	VM によって使用中の割り当て済み CPU の数。

名前	説明
[現在の割り当てメモリ(GB)] フィールド	VM に割り当てられているメモリ容量。
[新しいCPU数] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要な CPU を選択します。
[新しいメモリ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要なメモリ容量を選択します。

ステップ 4 [サイズ変更] をクリックします。

VM のスナップショットの管理

ここでは、次のタスクについて説明します。

- スナップショットの作成：VM のすべてのリソースについて、現在の状態のスナップショットを作成できます。 スナップショットを作成すると、VM がクラッシュした場合に、その時点の状態を復元できます。
- スナップショットの復帰：VM がクラッシュまたは誤作動した場合（OS が破損した場合など）、VM を最新のスナップショットに復元し、VM を稼働状態に戻すことができます。 1 つの VM に対して複数のスナップショットが存在する場合は、特定のスナップショットに復元することができます。
- ゴールデン スナップショットのマーキング：VM の特定のスナップショットをゴールデン スナップショットとしてマークできます。 この機能により、誤ってスナップショットが削除されることが防止されます。
- スナップショットの削除：必要に応じてスナップショットを削除できます。 ゴールデン スナップショットを削除する場合は、削除する前にマーキングを解除する必要があります。
- すべてのスナップショットの削除：VM のすべてのスナップショットを削除できます。 ただし、ゴールデン スナップショットがある場合、すべてのスナップショットを削除することはできません。 最初にゴールデン スナップショットのマーキングを解除してから、すべてのスナップショットを削除する必要があります。

VM のスナップショットの作成

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから、[スナップショットの作成] を選択します。

ステップ 6 [仮想マシンのスナップショットの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[スナップショット名] フィールド	スナップショット名。
[スナップショットの説明] フィールド	スナップショットの説明。
[スナップショットメモリ] チェックボックス	VM メモリを含めるには、チェックボックスをオンにします。
[ゲストのファイルシステムを休止] チェックボックス	スナップショットを休止モードで取得するには、チェックボックスをオンにします。 （注） ファイル システムを休止すると、物理コンピュータまたは仮想コンピュータのオンディスク データがバックアップに適した状態になります。 このプロセスには、オペレーティング システムのインメモリ キャッシュからのバッファをディスクにフラッシュしたり、その他の高度なアプリケーション固有タスクを実行したりするなどの操作が含まれる場合があります。 このオプションを使用するには、VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

ステップ 7 [続行] をクリックします。

スナップショットへの復帰

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [スナップショットの復帰] を選択します。

ステップ 6 [スナップショットタスクの復帰] ダイアログボックスで、スナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。

ステップ 7 [続行] をクリックします。

ゴールデン スナップショットのマーキング

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [ゴールデンスナップショットのマーキング] を選択します。

ステップ 6 [ゴールデンスナップショットタスクのマーキング] ダイアログボックスで、スナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。

ステップ 7 [ゴールデンスナップショットとしてマーキング] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [続行] をクリックします。

スナップショットの削除

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。
ステップ 5 ドロップダウン リストから [スナップショットの削除] を選択します。
ステップ 6 [スナップショットタスクの削除] ダイアログボックスで、スナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。
ステップ 7 [子の削除] チェックボックスをオンにします。
ステップ 8 [続行] をクリックします。

すべてのスナップショットの削除

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。
ステップ 5 ドロップダウン リストから、[すべてのスナップショットの削除] を選択します。
ステップ 6 [VMスナップショットタスク] ダイアログボックスに、任意でコメントを入力します。
ステップ 7 [続行] をクリックします。

仮想マシンのリース時間の設定

選択した仮想マシン（VM）のリースの失効時間をユーザが設定できます。 リース時間が過ぎると、VMがシャットダウンされます（電源がオフになります）。 リース時間の終了に制限はなく、カレンダーで任意に選択できます。

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーで、[リース時間の設定] ボタンをクリックします。

ステップ 6 [リース時間の設定] ダイアログボックスで、[リース時間の設定] チェックボックスをオンにします。 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 このフィールドは編集できません。
[リース日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM のリース日時。 日付のカレンダー、時刻（時間と分）のドロップダウン リスト、および AM または PM のオプション ボタンがあります。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

VM アクションの管理

その他の VM アクションのメニューについては、VM を右クリックすると短いメニューが表示されます。完全なメニューは、VM を強調表示してからツールバーの右側にある下矢印をクリックすると利用できます。

その他の VM アクションは次のとおりです。

- VM の詳細の表示：個々の VM にアクセスして、サマリー レポート、vNIC、ディスク、スナップショットなどの詳細情報を表示できます。
- スタック ビュー：特定の VM に関する大量の情報（OS、ハイパーバイザ、インフラストラクチャの情報など）を表示できます。
- VM の削除：リストから VM を削除できます。 電源がオフになっている VM のみを削除できます。
- VM ディスクの作成：カスタム サイズの増設ディスクを VM に追加できます。
- VM ディスクの削除：ディスクを削除できます。
- vNIC の追加：1 つの VM に複数の vNIC を追加できます。 VM 内の vNIC を追加または交換することも可能です。 vNIC に対して実行できる操作は、VM に関連付けられている VDC にマッピングされたネットワーク ポリシーによって異なります。
- VM クライアントの起動：VM に対して、Web アクセス、リモート デスクトップ、VNC コンソールのいずれを優先するかを設定できます。
- VM の割り当て：VM をグループまたは VDC に割り当てて、その VM のカテゴリを変更できます。 プロビジョニング時刻、終了時刻、VM のラベルを設定することが可能です。
- VM クレデンシャルにアクセス：Web アクセスまたはリモート デスクトップ アクセス用として設定されている場合は、VM のログイン クレデンシャルにアクセスできます。ただし、VM プロビジョニングの起点となるカタログで、管理者から必要な権限が付与された場合に限られます。
- VM のインベントリ収集リクエスト：VM を選択して、その VM のオンデマンド方式によるインベントリ収集をリクエストすることができます。
- VNC のテスト：トラブルシューティングの目的で、VNC の接続をテストできます。
- クローン：既存の VM のクローン、つまりコピーを作成して、同一または同様の品質の新しい VM を作成できます。
- VM の VDC への移動：VDC システム ポリシーのルールが VM で適用されるように、VM を VDC に移動できます。
- VM 再同期：VM の時間が Cisco UCS Director と定期的に再同期される間隔を分単位で設定できます。

VM の詳細の表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 リストから VM を選択します。
ステップ 5 ツールバーの [詳細の表示] ボタンをクリックします。

スタック ビューの使用方法

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 ツールバーの [スタックビュー] ボタンをクリックします。

VM の削除

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。
ステップ 5 ドロップダウン リストから、[VMの削除] を選択します。

ステップ 6 [VMタスク]ダイアログボックスに任意でコメントを入力し、アクションを現在または後で実行するようにスケジュールします。

（注） [あとで実行] を選択した場合は、時刻を指定する必要があります。

ステップ 7 [続行] をクリックします。

VM ディスクの作成

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから、[VMディスクの作成] を選択します。

ステップ 6 [VMディスクの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 この名前は編集できません。
[新しいディスクサイズ(GB)] フィールド	VM のディスク サイズ（GB 単位）。
[ディスク タイプの選択] ドロップダウン リスト	ディスク ラベルを選択します。
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。 （注） データストアの選択肢は、VM（VM の VDC）に関連付けられているストレージ ポリシーによって異なります。

名前	説明
[Thinプロビジョニング] チェックボックス	VMにシンプロビジョニングされたディスクを追加するには、チェックボックスをオンにします。 （注） シン プロビジョニングを使用すると、物理ストレージ容量を動的に割り当てて、VMストレージ使用率を高めることができます。

ステップ 7 [作成] をクリックします。

VM ディスクの削除

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。
ステップ 5 ドロップダウン リストから、[VMディスクの削除] を選択します。
ステップ 6 [VMディスクの削除] ダイアログボックスで、ドロップダウン リストからディスク名を選択します。
ステップ 7 [削除] をクリックします。

vNIC の追加

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [vNICの追加] を選択します。

ステップ 6 [VM vNICの追加] ウィンドウで、[操作] ドロップダウン リストから [追加] を選択します。
ネットワーク ポリシーで設定されている追加 vNIC 制限を超過する場合、この操作は許可されません。

ステップ 7 [追加]（+）をクリックします。

ステップ 8 [VMネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[NICエイリアス] ドロップダウン リスト	リストから NIC エイリアスを選択します。
[ポートグループタイプ] ドロップダウン リスト	リストからポート グループを選択します。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	リストからポート グループ名を選択します。
[アダプタのタイプ] 表示のみのドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します。 NIC エイリアスのネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタ タイプのコピー] を選択していない場合にのみ使用できます。
[DHCP] チェックボックス	オンにすると、IP は DHCP を使用して割り当てられます。 このフィールドは編集できません。
[静的IPプール] フィールド	静的 IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

（注） [NICエイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、および [静的IPプール] の選択肢は、VM（VM の VDC）に関連付けられているネットワーク ポリシーの設定によって異なります。 複数の NIC ネットワーク ポリシーの設定の詳細については、ポリシーの管理, （109 ページ）を参照してください。

このアクションを実行すると、VM の電源がオフになります。 アクションが完了すると、VM の電源がオンになります。

ステップ 9 [送信] をクリックします。

vNIC の置き換え

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [vNICの追加] を選択します。

ステップ 6 [VM vNICの追加] ウィンドウで、[操作] ドロップダウン リストから [交換] を選択します。
ネットワーク ポリシーで設定されている追加 vNIC 制限を超過する場合には、この操作は許可されません。

ステップ 7 vNIC を選択します。

ステップ 8 [vNIC の追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[NICエイリアス] ドロップダウン リスト	NICエイリアスを選択します。 ここでは、ネットワーク ポリシーで設定されている vNIC のみが表示されます。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	リストからポート グループ名を選択します。
[アダプタのタイプ] 表示のみのドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します。 NICエイリアスの選択において、ネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー]が選択されていない場合にのみ、選択可能となります。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して IP を割り当てるには、チェックボックスをオンにします。
[静的IPプール] フィールド	静的 IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。

名前	説明
[ゲートウェイIPアドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

ステップ 9 [送信] をクリックします。

（注） このアクションを実行すると、VM の電源がオフになります。 アクションが完了すると、VM の電源がオンになります。 [交換] 操作では、すべての既存の vNIC が VM から削除され、追加した vNIC に置き換えられます。 ネットワーク ポリシーで設定されている追加 vNIC 制限を超過する場合には、この操作は許可されません。

[NICエイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、および [静的IPプール] の選択は、VM（VM の VDC）に関連付けられているネットワーク ポリシーの設定に応じて異なります。 複数の NIC ネットワーク ポリシーの設定の詳細については、ポリシーの管理, （109 ページ）を参照してください。

vNIC の削除

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [vNICの削除] を選択します。

ステップ 6 [VM vNICの削除] ダイアログボックスで、[選択] ボタンをクリックします。

ステップ 7 [項目の選択] ダイアログボックスで、削除する vNIC の横のチェックボックスをオンにします。[すべて選択] を選択して、すべての vNIC を削除できます。

ステップ 8 [選択] をクリックします。

ステップ 9 [削除] をクリックします。

VM クライアントの起動

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 リストから VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーで、[VMクライアントの起動] を選択します。

ステップ 6 [クライアントの起動] ダイアログボックスで、VM クライアントのアクセス スキームを選択します。
[リモートデスクトップ]、[Webアクセス]、または [VNCコンソール] を選択できます。

（注） VNC コンソールは、VM にアクセスできる Ajax ベースのコンソールです。 いずれかのスタンドアロン Web ブラウザを使用して、コンソール ウィンドウを起動できます。 このコンソールには専用のブラウザ プラグインは不要で、完全な VM 制御機能が提供されます。

ステップ 7 [続行] をクリックします。

VM 上での VNC コンソールの有効化

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [VNCの設定] を選択します。

ステップ 6 [送信] をクリックします。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

リクエストが送信されると、Cisco UCS Director によって VM への VNC コンソール アクセスが自動的に設定されます。

VM の VNC コンソール ウィンドウへのアクセス

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 リストから VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーで、[VMクライアントの起動] を選択します。

ステップ 6 [クライアントの起動] ダイアログボックスで、アクセス スキーマとして [VNCコンソール] を選択します。

ステップ 7 [続行] をクリックします。

（注） VM の VNC コンソールにアクセスするには、ハイパーバイザで ESX/ESXi サーバの VNC ポート（5900 ～ 5964）が開いている必要があります。

（注） Cisco UCS Director では、VM の VNC コンソールを自動的に設定できます。 設定するには、ハイパーバイザで必要なポートを開いてください。

（注） VNC コンソールのアクセス設定では、ESX 4.X および ESXi 5.0 バージョンを搭載したハイパーバイザがサポートされています。

VM の割り当て

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 リストから VM を選択します。

ステップ 5 ツールバーで、[VMの割り当て] ボタンをクリックします。

ステップ 6 [VMの割り当て] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] 表示のみのフィールド	VM の名前。
[ユーザグループ] ドロップダウン リスト	ユーザ グループを選択します。
[VDC] ドロップダウン リスト	VDC を選択します。
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	VM のカテゴリを選択します。
[VMユーザラベル] フィールド	VM ラベル（必要な場合）。
[プロビジョニング時間の設定] チェックボックス	VM に対して特定のプロビジョニング時間を設定するには、チェックボックスをオンにします。
[プロビジョニング日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM のプロビジョニング日時。 日付のカレンダー、時刻（時間と分）のドロップダウンリスト、および AM または PM のオプション ボタンがあります。 このオプションは、[プロビジョニング時間の設定] をオンにした場合に表示されます。
[終了時間の設定] チェックボックス	VM に対して特定の終了時間を設定するには、チェックボックスをオンにします。
[終了日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM の終了日時。 日付のカレンダー、時刻（時間と分）のドロップダウン リスト、および AM または PM のオプション ボタンがあります。 このオプションは、[終了時間の設定] をオンにした場合に表示されます。
[コメント] フィールド	コメント（必要な場合）。

ステップ 7 [割り当て] をクリックします。

VM クレデンシャル

VM の Web アクセスまたはリモート アクセス用のログイン クレデンシャルを表示できるのは、VM プロビジョニングの起点となるカタログで、管理者から必要な権限が付与された場合に限られます。

VM クレデンシャルの表示

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 リストから VM を選択します。
ステップ 5 ツールバーの [VMクレデンシャルにアクセス] ボタンをクリックします。

VM のインベントリ収集リクエストの使用方法

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。
ステップ 2 クラウド名を選択します。
ステップ 3 [VM] タブを選択します。
ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。
ステップ 5 ドロップダウン リストから、[インベントリ収集] を選択します。
ステップ 6 [送信] をクリックします。

VNC 接続のテスト

VNC 接続のテストは、トラブルシューティングのために使用されます。 VNC 接続のテストが成功した場合は、ホスト ノードの IP アドレスと VNC ポート番号が表示されます。 例：`VNC connectivity intact at 172.29.110.75:5921`。

ただし、接続が失敗した場合は、障害メッセージが表示されます。 例：`VM is not configured for VNC yet`。

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [VNCのテスト] を選択します。

ステップ 6 [VNC接続のテスト] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。

ステップ 7 結果を使用して VNC 接続のトラブルシューティングを行います。

（注） 接続が失敗した場合は、VM の IP アドレスに VNC ポートが割り当てられていません。詳細については、VM 上での VNC コンソールの有効化, （239 ページ）を参照してください。

VM のクローニング

VM のクローニングとは、既存の VM をコピーして品質の似た VM を新規に作成することです。クローニング元の VM の必要なパラメータを残し、新しい VM に必要な調整を加えることによって、時間を節約できます。 クローンに割り当てられる新しい名前は、システム ポリシーで定義します。

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [クローン] を選択します。

ステップ 6 [VM のクローニング] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[グループの選択] ドロップダウン リスト	定義済みのグループをクローニングの対象として選択します。 デフォルトでは、[デフォルトグループ] が選択されます。
[リンク クローンの使用] チェックボックス	リンク クローンから VM をクローニングするには、このチェックボックスをオンにします。 （注） リンク クローンとは、仮想ディスクを親 VM と共有する仮想マシンのコピーです。 リンク クローンは、親 VM のスナップショットから作成されます。 リンク クローンは親 VM にアクセスできる必要があります。 親 VM にアクセスできない場合、リンク クローンは無効化されます。
[スナップショット タイプの選択] ドロップダウン リスト	リンク クローンに関連付けられているスナップショットを選択します。 次のいずれかを選択できます。 • 既存のスナップショット • 新規のスナップショット
[既存のスナップショットの選択] フィールド	[選択] をクリックして、既存のスナップショットのリストを表示します。 リストからスナップショットを選択し、[選択] をクリックします。 （注） このフィールドは、[既存のスナップショット] を選択した場合にのみ表示されます。

名前	説明
[スナップショット名] フィールド	スナップショットの名前を指定します。 （注） このフィールドは、[新規のスナップショット] を選択した場合にのみ表示されます。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [カスタマイズ オプション] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[カテゴリ] ドロップダウン リスト	目的の VM カテゴリを選択します。
[クレデンシャルオプション] ドロップダウン リスト	VM アクセスクレデンシャル（共有）の取得をユーザに許可するかどうかを選択します。 管理者が Cisco UCS Director 外の別のユーザにクレデンシャルを非公開で送信することを希望している場合は、[共有しないでください。] オプションを選択します。
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	あらかじめ設定した、単一のデータストアのすべての VM ディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザ ID] フィールド	ユーザ ID。 このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。 このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[自動ゲスト カスタマイズ] チェックボックス	[有効化] チェックボックスをオンにします。
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	ワークフローを関連付けるには、[有効化] をクリックします。[ワークフロー] ドロップダウンリストが表示され、ワークフローのリストが選択肢として提示されます。プロビジョニングが開始されると、選択したワークフローも開始されます。

名前	説明
[VMアプリケーションの請求間隔] ドロップダウン リスト	[毎時] または [毎月] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	テンプレートに含まれるアプリケーションのコスト。
[非アクティブなVMアプリケーションのコスト] フィールド	このカタログに対する、非アクティブな状態の VM の毎時または毎月のコスト。

ステップ 9 [次へ] をクリックします。

ステップ 10 [導入設定] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VDCの選択] ドロップダウン リスト	VM 用として目的のポリシーが存在する VDC を選択します。
[コメント] フィールド	必要に応じて、VDC の説明を入力します。
[プロビジョニング] ドロップダウン リスト	VDC を今すぐプロビジョニングする場合は [現在] を選択し、後でプロビジョニングする場合は [あとで] を選択します。 [あとで] を選択した場合は、日時を指定するためのフィールドが表示されます。
[リース時間] チェックボックス	リースの失効時間を設定するには、チェックボックスをオンにします。
[日] フィールド	リース時間の日数を指定します。 （注） このフィールドは、[リース時間] チェックボックスがオンになっているときにのみ表示されます。
[時間] フィールド	リース時間の時間数を指定します。 （注） このフィールドは、[リース時間] チェックボックスがオンになっているときにのみ表示されます。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

ステップ 12 [カスタム仕様] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[CPUコア] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[メモリ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMのメモリ量を選択します。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。

ステップ 14 [データストアの選択] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM ディスク] 鉛筆アイコン	[VM ディスク] 鉛筆アイコン（ディスクが使用可能な場合）をクリックして、適切なディスクに適切なデータストアを割り当てます。

ステップ 15 [VM ディスク エントリの編集] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ディスク名]	データストアを割り当てる VM ディスクの名前。
[ディスク タイプ]	VM ディスク タイプを選択します。 例：[システム]
[選択したデータストア]	該当するVMディスク用として目的のデータストアを選択します。 データストアの選択肢は、VDC に関連付けられているデータ ストレージ ポリシーから表示されます。

ステップ 16 [送信] をクリックします。

ステップ 17 [次へ] をクリックします。

ステップ 18 [VM ネットワークの選択] パネルで、次のフィールドから選択します。

名前	説明
[VM ディスク] 鉛筆アイコン	このアイコンをクリックしてVMネットワークを編集します。

（注） ネットワーク ポリシーで[エンドユーザにオプションのNICの選択を許可]チェックボックスをオンにしていない場合、[VM ネットワークの選択] パネルは空になります。

ステップ 19 [選択] ダイアログボックスで、VM に関連付けるクラウドを選択します。

ステップ 20 [送信] をクリックします。

ステップ 21 クローニングした VM 情報を [要約] パネルで確認します。

ステップ 22 [送信] をクリックします。
クローニングした VM には、VDC ポリシーに基づいて新しい名前が割り当てられます。

VM の VDC への移動

VDC システム ポリシーのルールが VM で適用されるように、VM を VDC に移動します。 既存の VM は VDC に移動した VM で置き換えられます。

（注） 古い VM は削除されます。 新しい VM 名はシステム ポリシーに従って付けられます。

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから、[VMをVDCに移動] を選択します。

ステップ 6 [VMをVDCに移動] ダイアログボックスで、VDC をクローニングしたときと同じ方法で、移動する VM に変更を加えることができます。 詳細については、VM のクローニング, （243 ページ）を参照してください。

VM の再同期

はじめる前に

このタスクを実行するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [仮想] > [コンピューティング] を選択します。

ステップ 2 クラウド名を選択します。

ステップ 3 [VM] タブを選択します。

ステップ 4 VM を選択し、ツールバーの右側の下矢印ボタンをクリックします。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [再同期VM] を選択します。

ステップ 6 [再同期VM] ダイアログボックスで、[最大待機時間] ドロップダウン リストから 0 ～ 30 の分数を選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

第 16 章

CloudSense 分析の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- CloudSense 分析について，251 ページ
- レポートの生成，252 ページ
- アセスメントの生成，252 ページ

CloudSense 分析について

Cisco UCS Director の CloudSense 分析では、インフラストラクチャ リソースの使用率、IT インフラストラクチャ スタック全体の重要なパフォーマンス測定指標、および容量がリアルタイムで提供されます。 CloudSense によって、仮想インフラストラクチャとクラウドインフラストラクチャの容量の傾向分析、予測、レポート作成、プランニング機能が大幅に向上します。

CloudSense では次のレポートを生成できます。

- 顧客向け請求レポート
- EMC ストレージ インベントリ レポート
- NetApp ストレージ インベントリ レポート
- グループあたりの NetApp ストレージの節約
- NetApp ストレージ節約レポート
- ネットワーク影響アセスメント レポート
- 組織の仮想コンピューティング インフラストラクチャの使用状況
- PNSC アカウント サマリー レポート
- グループの物理インフラストラクチャ インベントリのレポート
- ストレージの重複排除ステータスのレポート
- グループのストレージ インベントリ レポート

- シン プロビジョニングされた容量のレポート
- UCS データセンター インベントリ レポート
- グループ別の VM アクティビティ レポート
- VMware ホスト パフォーマンス サマリー
- 仮想インフラストラクチャとアセットのレポート

レポートの生成

はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [CloudSense] > [レポート] を選択します。

ステップ 2 左パネルから、レポートを選択します。

ステップ 3 [レポートの作成] をクリックします。
このステップでは、HTML または PDF 形式の新しいインスタント レポートが生成されます。

アセスメントの生成

はじめる前に

このタスクを完了するには、アプライアンスにログインする必要があります。

手順

ステップ 1 メニュー バーで [CloudSense] > [アセスメント] を選択します。

ステップ 2 [仮想インフラストラクチャアセスメントレポート] をクリックします。

ステップ 3 [レポートの作成] をクリックします。
このステップでは、HTML または PDF 形式の新しいインスタント レポートが生成されます。

付 録 A

付録

この章の内容は、次のとおりです。

- ESX サーバでの VNC コンソールの設定，253 ページ

ESX サーバでの VNC コンソールの設定

はじめる前に

VM の VNC コンソールにアクセスするには、ハイパーバイザで ESX/ESXi サーバの VNC ポート（5900 ～ 5964）を開きます。 Cisco UCS Director では、VM の VNC コンソールを自動的に設定できます。

（注） 現在、VNC コンソールのアクセス設定では、ESX 4.X および ESXi 5.0 バージョンを搭載したハイパーバイザがサポートされています。

手順

ステップ 1 ESXi5.x ホストにログインします。

ステップ 2 シェルを使用して次のコマンドを実行し、ファイアウォールの設定を無効化します。
 # cat /etc/vmware/firewall/vnc.xml

ステップ 3 XML 設定をコピーして vnc.xml ファイルに貼り付けます。

```
  <!-- Firewall configuration information for VNC -->
<ConfigRoot>
  <service>
   <id>VNC</id>
    <rule id='0000'>
    <direction>inbound</direction>
     <protocol>tcp</protocol>
     <porttype>dst</porttype>
```

```
     <port>
     <begin>5901</begin>
     <end>6000</end>
     </port>
    </rule>
    <rule id='0001'>
     <direction>outbound</direction>
     <protocol>tcp</protocol>
     <porttype>dst</porttype>
     <port>
      <begin>0</begin>
      <end>65535</end>
     </port>
    </rule>
    <enabled>true</enabled>
    <required>false</required>
  </service>
</ConfigRoot>
```

ステップ 4 ファイアウォール ルールを更新し、新しい設定が正確にロードされたことを確認します。

```
~ # esxcli network firewall refresh
~ # esxcli network firewall ruleset list | grep VNC
VNC   true #****************************************
```